

# CipherLab

## 1564/1564A バーコードスキャナー 設定リファレンスマニュアル

設定バーコード付記

Ver.JP1.00



本リファレンスマニュアルは、” 1564 Barcode Scanner User Guide, Ver. 2.00” に基づいています。

Copyright © 2011~2016 CIPHERLAB CO., LTD.

無断転用禁止

ソフトウェアには CIPHERLAB CO., LTD. の機密情報が含まれています。この情報は使用および開示制限を含めライセンス契約に従って提供されており、また著作権法により保護されています。ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁じられています。

製品開発は途切れることなく行われているため、この情報は事前の通知なしに変更されることがあります。本書に含まれる情報と知的所有権は CIPHERLAB とクライアント間で機密とされ、CIPHERLAB CO., LTD. に帰属する独占的財産と見なされます。文書に何らかの問題が見つかった場合、書面にて当社に報告してください。CIPHERLAB は、本文書に間違いがないことを保証しません。

本出版物のいかなる部分も、CIPHERLAB CO., LTD. の書面による事前の許可なしには、いかなる条件下でも、また電子的、機械的、写真複写、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、または送信を行うことができません。

製品のコンサルタント業務とサポートについては、地域の販売代理店にお問い合わせください。また、当社の Web サイトで詳細を見ることもできます。

CipherLab ロゴは、CIPHERLAB CO., LTD. の登録商標です。

すべてのブランド、製品・サービス、および商標名はそれぞれの登録名義人の資産です。

編集でこれらの名前を使用しているのは識別および所有者の利益を目的とするもので、侵害の意図はありません。

**CIPHERLAB CO., LTD.**

Web サイト: <http://www.cipherlab.com>

---

---

# 目次

---

はじめに.....	1
1564 と 3656 を使う.....	1
バッテリーを 1564 に取り付ける.....	1
3656 をセットアップする.....	2
3656 経由でバッテリーを充電する.....	3
充電器経由でバッテリーを充電する.....	4
サポートされるシンボル体系.....	5
クイックスタート.....	7
設定モードに入る.....	8
設定モードを終了する.....	9
デフォルト設定.....	9
ユーザー設定をデフォルトとして保存する.....	9
ユーザーデフォルトに戻す.....	9
システムデフォルトに戻す.....	10
セットアップバーコードを読み取る.....	10
パラメータの設定.....	10
現在の設定をリスト表示.....	14
ワンスキャンセットアップバーコードの作成.....	17
1D ワンスキャンバーコード.....	17
2D ワンスキャンバーコード.....	18
バーコードスキャナーを使う.....	19
1.1 バッテリー.....	20
1.1.1 スキャナーの電源 ON/OFF.....	20
1.1.2 省消費電力.....	20
1.1.3 WPAN 接続と省消費電力機能.....	23
1.2 メモリ.....	24
1.2.1 送信バッファ.....	24
1.2.2 メモリモード.....	25
1.2.3 空きメモリ.....	26
1.3 LED インジケータ.....	27
1.3.1 グッドリード LED.....	28
1.3.2 グッドリード LED 持続時間.....	28
1.4 ビープ音.....	29
1.4.1 ビープ音量.....	30
1.4.2 グッドリードビープ音.....	30
1.4.3 低バッテリーアラーム.....	31
1.5 「NR」をホストに送信.....	32

1.6 スキャンモード.....	33
1.6.1 テストモード.....	33
1.6.2 レーザーモード.....	34
1.6.3 自動 OFF モード.....	34
1.6.4 自動電源 OFF モード.....	34
1.6.5 エイミングモード.....	35
1.6.6 マルチバーコードモード.....	35
1.6.7 プレゼンテーションモード.....	36
1.7 スキャンタイムアウト.....	37
1.8 再読み取り間隔.....	37
1.9 読み取り冗長性(1D).....	39
1.10 UPC/EAN バーコード用の Addon セキュリティ.....	40
1.11 オートセンスモード.....	41
1.11.1 1564 の場合.....	41
1.11.2 1564A の場合.....	42
1.12 反転バーコード.....	43
1.13 ピックリストモード.....	43
1.14 携帯電話/ディスプレイモード.....	43
1.15 照明輝度.....	44
1.16 シリアル番号スタンプ.....	44
1.16.1 シリアル番号スタンプとデータ間の区切り文字.....	44
1.17 2D デコード設定.....	45
1.17.1 照準パターン.....	45
1.17.2 デコード照明.....	45
1.17.3 照明輝度.....	45
<b>出力インターフェースを選択する.....</b>	<b>47</b>
2.1 BT HID.....	48
2.1.1 BT HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する.....	48
2.1.2 接続のリセット.....	49
2.1.3 キーボード設定.....	50
2.1.4 キャラクター間転送間隔.....	56
2.1.5 ファンクションコード間転送間隔.....	56
2.1.6 HID 文字送信モード.....	57
2.1.7 特殊キー.....	57
2.1.8 iPhone/iPad 用のキーパッドサポート.....	58
2.1.9 送信速度.....	58
2.1.10 iPhone/iPad 用のシンプルペアリング.....	59
2.1.11 – BT HID スレーブ/マスター切り替え.....	59
2.1.12 – BT HID 自動再接続.....	60
2.2 BT SPP スレーブ.....	61
2.2.1 BT SPP スレーブモードをアクティブにする.....	61
2.2.2 ファンクションコード間転送間隔.....	61
2.2.3 ACK/NAK タイムアウト.....	61
2.2.4 BT SPP スレーブハードウェアフロー制御.....	62

---

2.3 BT SPP マスター .....	63
2.3.1 BT SPP マスターモードをアクティブにする .....	63
2.3.2 ファンクションコード間転送間隔 .....	65
2.3.3 ACK/NAK タイムアウト .....	65
2.3.4 マスター/スレーブモードを切り替える .....	66
2.3.5 BT SPP マスターハードウェアフロー制御 .....	66
2.3.6 BT SPP マスター自動再接続 .....	67
2.4 3656 を介したキーボードウェッジ .....	68
2.4.1 キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する .....	68
2.4.2 キーボード設定 .....	70
2.4.3 キャラクター間転送間隔 .....	76
2.4.4 ファンクションコード間転送間隔 .....	76
2.4.5 特殊キー .....	77
2.5 3656 を介した RS-232 .....	78
2.5.1 RS-232 インターフェースをアクティブにする .....	78
2.5.2 ボーレート .....	78
2.5.3 データビット .....	79
2.5.4 パリティ .....	79
2.5.5 ストップビット .....	80
2.5.6 フロー制御 .....	80
2.5.7 キャラクター間転送間隔 .....	81
2.5.8 ファンクションコード間転送間隔 .....	81
2.5.9 ACK/NAK タイムアウト .....	82
2.6 3656 を介した USB HID .....	83
2.6.1 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する .....	83
2.6.2 キーボード設定 .....	85
2.6.3 キャラクター間転送間隔 .....	91
2.6.4 ファンクションコード間転送間隔 .....	91
2.6.5 HID 文字送信モード .....	91
2.6.6 特殊キー .....	92
2.6.7 3656 を介した USB HID の自動再接続 .....	92
2.7 3656 を介した USB Virtual COM .....	93
2.7.1 USB Virtual COM をアクティブにする .....	93
2.7.2 ファンクションコード間転送間隔 .....	93
2.7.3 ACK/NAK タイムアウト .....	94
2.7.4 3656 を介した USB VCOM 自動再接続 .....	94
<b>WPAN 接続をセットアップする .....</b>	<b>95</b>
3.1 3656 を介して接続する .....	97
3.1.1 3656 に接続する .....	97
3.1.2 インターフェースの変更 .....	98
3.1.3 スニフモード .....	99
3.2 Bluetooth® ドングル経由の接続 .....	100
3.2.1 インターフェースの変更 .....	100
3.2.2 スニフモード .....	101

3.2.3 ドングルへの接続.....	105
<b>シンボル体系の設定を変更する .....</b>	<b>113</b>
4.1 Codabar .....	114
4.1.1 スタート/ストップ文字の送信.....	114
4.1.2 CLSI 変換.....	114
4.1.3 コード長必要条件.....	115
4.2 Code 25 – Industrial 25 .....	116
4.2.1 コード長必要条件.....	116
4.3 Code 25 – Interleaved 25 .....	117
4.3.1 チェックデジットを確認する.....	117
4.3.2 チェックデジットを送信する.....	117
4.3.3 EAN-13 に変換する .....	117
4.3.4 コード長必要条件.....	118
4.4 コード 25 – Matrix 25 .....	119
4.4.1 チェックデジットを確認する.....	119
4.4.2 チェックデジットを送信する.....	119
4.4.3 コード長必要条件.....	119
4.5 コード 25 – Chinese 25 .....	121
4.6 Italian Pharmacode (Code 32).....	121
4.7 Code 39 .....	121
4.7.1 チェックデジットを確認する.....	121
4.7.2 チェックデジットを送信する.....	122
4.7.3 標準/Full ASCII (フルアスキー) Code 39.....	122
4.7.4 コード長必要条件.....	122
4.8 Trioptic Code 39 .....	123
4.9 Code 93 .....	124
4.9.1 コード長必要条件.....	124
4.10 Code 128 .....	125
4.11 GS1-128 (EAN-128) .....	125
4.11.1 Code ID を送信する .....	125
4.11.2 フィールド区切り文字(GS 文字).....	126
4.11.3 GS1 フォーマット.....	126
4.12 ISBT 128 .....	128
4.12.1 ISBT 連結.....	128
4.12.2 ISBT 連結冗長性.....	129
4.13 GS1 DataBar (RSS ファミリー).....	130
4.13.1 Code ID を選択する .....	130
4.13.2 GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)(RSS-14).....	131
4.13.3 GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型) (RSS 拡張型).....	132
4.13.4 GS1 DataBar Limited (データバー限定型) (RSS 限定型) .....	133
4.13.5 UPC/EAN に変換する.....	134
4.13.6 フィールド区切り文字(GS 文字).....	134
4.13.7 アプリケーション識別子.....	135
4.14 MSI.....	136

---

4.14.1	チェックデジットを確認する	136
4.14.2	チェックデジットを送信する	136
4.14.3	コード長必要条件	137
4.15	EAN-8	138
4.15.1	チェックデジットを送信する	138
4.16	EAN-13	139
4.16.1	EAN-13 Addon モード	140
4.16.2	ISBN に変換する	142
4.16.3	ISSN に変換する	143
4.16.4	チェックデジットを送信する	143
4.17	UCC Coupon 拡張型コード	143
4.18	UPC-A	144
4.18.1	EAN-13 に変換する	144
4.18.2	システム番号を送信する	145
4.18.3	チェックデジットを送信する	145
4.19	UPC-E	146
4.19.1	システム番号を選択する	147
4.19.2	UPC-A に変換する	147
4.19.3	システム番号を送信する	147
4.19.4	チェックデジットを送信する	148
4.20	Code 11	149
4.20.1	チェックデジットを確認する	149
4.20.2	チェックデジットを送信する	149
4.20.3	コード長必要条件	150
4.21	Composite Code(コンポジットコード)	151
4.21.1	Composite CC-A/B	151
4.21.2	Composite CC-C	151
4.21.3	Composite TLC-39	152
4.21.4	UPC Composite モード	152
4.21.5	UCC/EAN Composite Code 用の GS1-128 エミュレーションモード	153
4.21.6	フィールド区切り文字(GS 文字)	153
4.21.7	アプリケーション識別子	153
4.22	US Postal コード	154
4.22.1	US Postnet	154
4.22.2	US Planet	154
4.22.3	チェックデジットを送信する	154
4.23	UK Postal コード	155
4.23.1	UK Postal	155
4.23.2	チェックデジットを送信する	155
4.24	その他の郵便番号	155
4.24.1	日本郵便	155
4.24.2	Australian Postal	155
4.24.3	Dutch Postal	156
4.24.4	USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール	156
4.24.5	UPU FICS Postal	156

4.25 2D シンボル体系.....	157
4.25.1 PDF417.....	157
4.25.2 MicroPDF417.....	157
4.25.3 Data Matrix.....	157
4.25.4 マキシコード.....	159
4.25.5 QR コード.....	160
4.25.6 MicroQR.....	161
4.25.7 Aztec.....	161
4.26 Macro PDF.....	162
4.26.1 送信/デコードモード.....	162
4.26.2 エスケープキャラクター.....	163
4.26.3 コントロールヘッダーを送信する.....	163
<b>出力フォーマットを定義する.....</b>	<b>165</b>
5.1 大文字・小文字の区別.....	165
5.2 文字置換.....	166
5.2.1 文字置換のセットを選択する.....	166
5.2.2 文字置換用のシンボル体系(3 セットすべて).....	167
5.3 プリフィックス/サフィックスコード.....	180
5.4 Code ID.....	181
5.4.1 定義済み Code ID の選択.....	181
5.4.2 Code ID を変更する.....	183
5.4.3 Code ID 設定を消去する.....	186
5.5 長さコード.....	187
5.6 Multi-Barcode Editor (マルチバーコードエディタ).....	197
5.6.1 バーコードの連結を編集する.....	198
5.6.2 バーコードの連結をアクティブにする.....	200
5.7 特定文字の削除.....	201
5.8 AIM Code ID.....	201
<b>データ編集用のフォーマットを適用する.....</b>	<b>202</b>
6.1 編集フォーマットをアクティブにする.....	203
6.2 編集フォーマットを設定する方法.....	205
6.3 フォーマットを設定する — データ基準の定義.....	208
6.4 フォーマットを設定する — データフィールドの定義.....	221
6.4.4 フィールド設定.....	223
6.4.5 休止フィールド設定.....	228
6.5 フォーマットを設定する — 送信シーケンスの定義.....	229
6.6 プログラミング例.....	231
<b>ファームウェアのアップグレード.....</b>	<b>233</b>
1564 ファームウェアのアップグレード方法.....	233
3656 を使用する.....	233
Bluetooth® ドングルを使用する.....	235
3656 ファームウェアのアップグレード方法.....	237



---

3656 CPU ファームウェアをアップグレードする .....	237
3656 USB ブリッジファームウェアをアップグレードする .....	239
<b>ホストシリアルコマンド.....</b>	<b>241</b>
1564 シリアルコマンド .....	241
例.....	243
3656 セットアップバーコードおよびシリアルコマンド .....	244
3656 シリアルコマンドおよび同等のセットアップバーコード .....	245
例.....	247
<b>キーボードウェッジ表.....</b>	<b>249</b>
キータイプ およびステータス .....	251
キータイプ.....	251
キーステータス.....	251
例.....	252
<b>N 進法.....</b>	<b>253</b>
10 進法.....	253
16 進法.....	254
ASCII 表 .....	256
認証用に PIN コードを入力する .....	257
プリセット PIN の使用 .....	257
認証を無効にするまたはランダム PIN を使用する .....	257



# はじめに

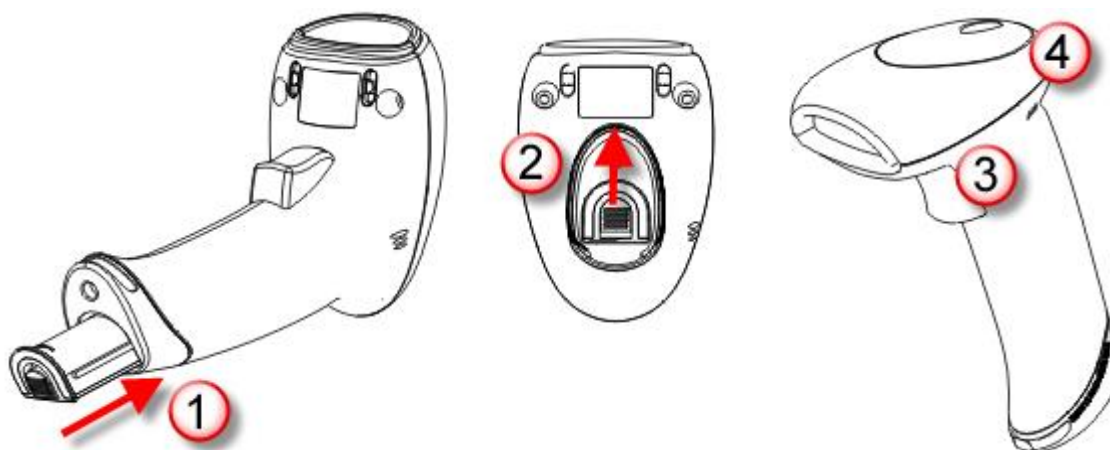
## 1564 と 3656 を使う

### バッテリーを 1564 に取り付ける

パッケージは出荷時に、充電式バッテリーとスキャナーは別々に格納されています。まずバッテリーをスキャナーに挿入し、3656 スタンドに装着すると充電が始まります。

注記：不適切な取扱いをすると、バッテリーの寿命が短くなる原因となります。

- 1) スキャナーを動かないように支え、バッテリーをスキャナー下部にあるバッテリー室に挿入します。
- 2) バッテリーラッチをスライドさせ、バッテリーをバッテリー室にロックします。
- 3) トリガーを 2 秒ほど押し下げ、スキャナーを ON にします。
- 4) スキャナーで長いビープ音が鳴り、LED が短く ON-OFF します。



注記：(1) スキャナーを OFF にするには、バッテリーを取外します。「[自動電源 OFF](#)」の設定を参照してください。

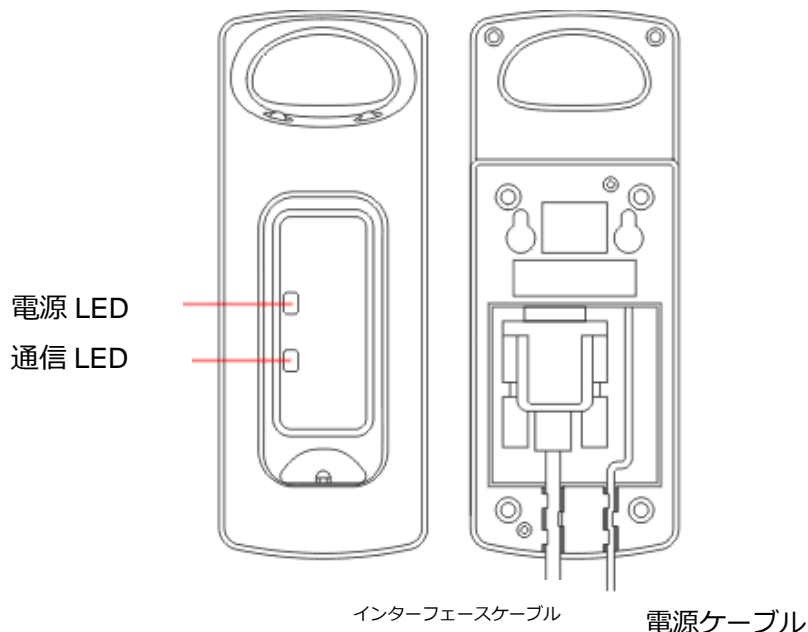
(2) 輸送と保管の際には、スキャナーとバッテリーは別々に保管してください。こうすることで、将来の使用に備えてバッテリーを良好な状態に保つことができます。

(3) バッテリー残量が少なくなると、スキャナーからスキャンビームが照射されず、電源 ON のビープ音がそれまでとは違う音になります。



## 3656 をセットアップする

1564 を充電できる 3656 スタンドは、ホストコンピュータとワイヤレスで通信するスキャナー用に特別に設計されています。[3.1.1 3656 に接続する](#)を参照してください。



2 つの LED インジケータは、電源と通信状態とを示します

電源 LED		意味
赤色、点灯	---	電源 ON
---	---	電源 OFF
通信 LED		意味
---	青色、点灯	初期化する
赤色、点灯	---	USB 接続を確立できません
赤色、点灯	青色、点滅	USB Virtual COM または RS-232 とのシリアルコマンドモード: シリアルコマンドが開始するまで 3 秒間お待ちください
赤色、点滅	青色、点滅	USB HID によるシリアルコマンドモード: キーボードの[数値ロック]または[キャプスロック]を 5 回押して 3 秒間待ちます
---	青色、点滅	スキャナーからの接続要求をお待ちください(0.5 Hz でゆっくり点滅)
---	青色、点滅	スキャナーと接続済み(1 Hz で素早く点滅)
赤色、点灯	青色、点滅	USB Virtual COM 経由でデータを送信できませんでした(1 Hz で素早く点滅)
赤色、点滅	---	ダウンロードモードに入る



### 3656 経由でバッテリーを充電する

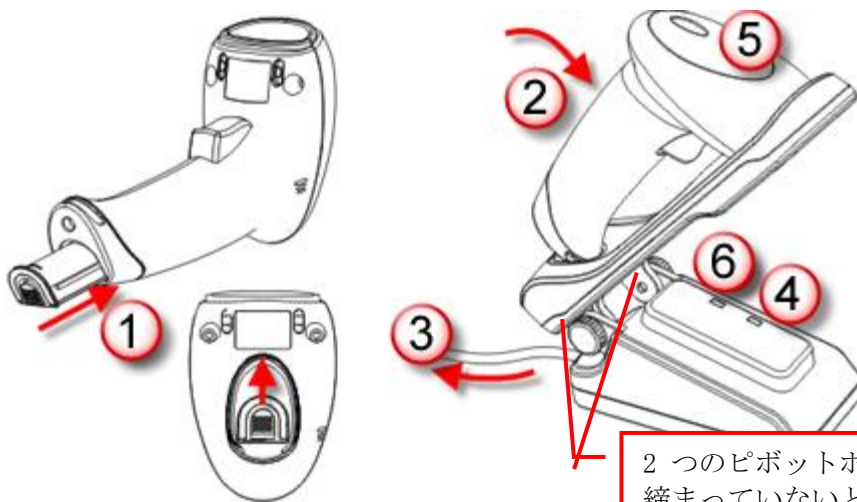
バッテリーは、出荷時に完全に充電されていないことがあります。スキャナーを初めて使用する前にバッテリーをフル充電する必要があります。RS-232 ケーブルを使用しているとき、(電源アダプターから)バッテリーをフル充電するには約 5 時間かかります。

注記： 温度が 0° C 以下または 40° C 以上になると、バッテリーは充電を停止します。パフォーマンスを最適な状態に保つには、バッテリーを室温 (18° C~25° C) で充電するようにお勧めします。

- 1) バッテリーをスキャナーに取り付けます。
- 2) スキャナーを 3656 スタンドに装着します。
- 3) USB または RS-232 ケーブルによって、3656 をコンピュータまたはノート PC に接続します。
- 4) 3656 から適切な AC コンセントに電源供給コードを接続します。

警告： RS-232/USB インターフェースは、どちらも電源供給コードを接続する必要があります。スタンドが USB 電源にのみ接続されている場合、機能を正常に発揮するだけの電流量がありません。電源供給コードを接続する必要があります。

- 5) 3656 の電力表示用の LED が赤色に点灯します。
- 6) 充電中、スキャナーの LED は赤色に点滅します。
  - ▶ 充電が完了すると、LED は消灯します。
  - ▶ 充電エラーが発生すると、LED は赤色に点灯します。
- 7) 初期化中、3656 の通信用 LED は青色に点灯します。通信のさまざまなステージの詳細については、上の表を参照してください。

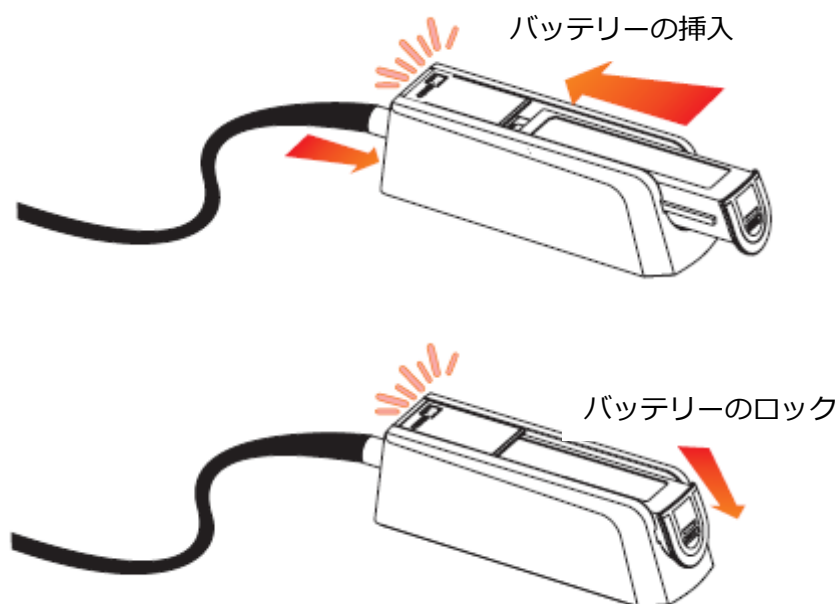


## 充電器経由でバッテリーを充電する

バッテリー充電器は、バッテリーの充電用のみに用意されています。充電器は別途購入できます。バッテリーをフル充電するには、約3時間かかります。

注記：温度が0° C以下または40° C以上になると、バッテリーは充電を停止します。パフォーマンスを最適な状態に保つには、バッテリーを室温(18° C~25° C)で充電するようにお勧めします。

- 1) バッテリーを挿入します。
- 2) バッテリーをロックします。
- 3) 電源コードを充電器に接続します。
- 4) 電源コードのもう一方をACコンセントに接続します。



ステータス LED		意味
赤色、点灯	---	充電器の電源 ON (LED は 0.5 秒間 ON になります)
赤色、点灯	---	バッテリーを充電する
---	緑色、点灯	充電完了
赤色、点灯	緑色、点灯	バッテリーの電圧が 3V (典型的) 以下のとき、プリチャージ
---	---	電源またはバッテリーの用意ができていません



## サポートされるシンボル体系

以下に一覧するように、ほとんどの汎用バーコードシンボルがサポートされており、それぞれを個別に有効または無効にできます。スキャナーは有効にされたすべてのシンボル体系を自動的に識別し、確認できます。各シンボル体系については、[第3章 シンボル体系の設定を変更する](#)を参照してください。

サポートされるシンボル体系: 有効/無効		デフォルト	
<b>Codabar</b>		有効	
<b>Code 93</b>		有効	
<b>MSI</b>			無効
<b>Code 128</b>	Code 128	有効	
	GS1-128 (EAN-128)	有効	
	ISBT 128	有効	
<b>Code 2 of 5</b>	Industrial 25	有効	
	Interleaved 25	有効	
	Matrix 25		無効
	Chinese 25		無効
<b>Code 3 of 9</b>	Code 39	有効	
	Italian Pharmacode		無効
	Trioptic Code 39		無効
<b>EAN/UPC</b>	EAN-8	有効	
	EAN-8 Addon 2		無効
	EAN-8 Addon 5		無効
	EAN-13	有効	
	EAN-13 & UPC-A Addon 2		無効
	EAN-13 & UPC-A Addon 5		無効
	ISBN		無効
	UPC-E0	有効	
	UPC-E1		無効
	UPC-E Addon 2		無効
	UPC-E Addon 5		無効
UPC-A	有効		
<b>GS1 DataBar(デ)</b>	GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準)		無効



<b>データバー (RSS)</b>	型) (RSS-14)		
	GS1 DataBar Truncated (データバー切詰型)		無効
	GS1 DataBar Stacked (データバー二層型)		無効
	GS1 DataBar Stacked Omnidirectional (データバー標準二層型)		無効
	GS1 DataBar Limited (データバー限定型) (RSS 限定型)		無効
	GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型) (RSS 拡張型)		無効
	GS1 DataBar Expanded Stacked (データバー拡張二層型)		無効
<b>Code 11</b>			無効
<b>Composite コード*</b>	Composite CC-A/B		無効
	Composite CC-C		無効
	Composite TLC-39		無効
<b>郵便番号</b>	US Postnet	有効	
	US Planet	有効	
	UK Postal	有効	
	日本郵便	有効	
	Australian Postal	有効	
	Dutch Postal	有効	
	USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール		無効
	UPU FICS Postal		無効
<b>2D シンボル体系</b>	PDF417	有効	
	MicroPDF417		無効
	Data Matrix	有効	
	Maxicode	有効	
	QR Code	有効	
	MicroQR	有効	
	Aztec	有効	





# クイックスタート

スキャナーの設定は本マニュアルに記載のセットアップバーコードを読むことで、または *ScanMaster* ソフトウェアを通して行うことができます。

本セクションでは、セットアップバーコードを読むことでスキャナーを読み取る設定手順について説明し、デモンストレーションの例をいくつか紹介しています。

## 設定モード

1. トリガーを 2 秒ほど押し下げ、スキャナーを ON にします。長いビープ音が鳴り、LED が短く ON-OFF を繰り返します。
2. 「セットアップに入る」バーコードを読み取ります。スキャナーは 6 回のビープ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。
3. セットアップバーコードを読み取らせません。スキャナーは 2 回の長いビープ音(低-高トーン)を返します。特殊なセットアップバーコードの場合、設定を完了するために複数回セットアップバーコードを読み取らせる必要があります。
4. スキャナーに「更新」または「中止」バーコードを読み取らせません。スキャナーは 6 回のビープ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。
5. スキャナーは「更新」または「中止」バーコードを読み取った時点で、自動的に再起動します。長いビープ音が鳴り、LED が短く ON-OFF を繰り返します。



注記：スキャナーに 3656 関連の設置セットアップバーコードを読み取らせることで 3656 スタンドを設定する方法や、シリアルコマンドを使用することについては、[付表 II ホストシリアルコマンド](#)を参照してください。



## 作業モード

電源を入れると、スキャナーは 3656 と接続を確立しようと試みるか、または Bluetooth®ワイヤレス技術でコンピュータと接続を試みます。詳しくは、[第3章 - WPAN 接続](#)を参照してください。



注記：出力インターフェースとして RS-232、USB Virtual COM または BT SPP が選択されている場合、ホストはスキャナーを設定するためにシリアルコマンドを直接送信することが出来ます。例えば、HyperTerminal.exe などを実行し、各セットアップバーコードの下にある 6 桁のコマンドを入力します。[付表 II ホストシリアルコマンド](#)を参照してください。

## 設定モードに入る

スキャナーが設定モードに入るには、スキャナーに「セットアップに入る」バーコードを読み取らせます。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての偶数ページの下部にあります。

- ▶ スキャナーは 6 回のビーブ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。

セットアップに入る



スキャナーのパラメータを設定する場合、以下の「セットアップバーコードを読む」をご覧ください。



## 設定モードを終了する

スキャナーが設定を保存し、設定モードを終了するためには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせます。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての奇数ページの下部にあります。変更を保存せずに設定モードを終了したい場合、「中止」バーコードを読み取らせてください。

- ▶ 「セットアップに入る」バーコードを読み取るときのように、スキャナーは6回のピープ音を返し、LEDインジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。数秒待つと、スキャナーが自動的に再起動します。

更新



中止



## デフォルト設定

### ユーザー設定をデフォルトとして保存する

ユーザーデフォルトとしてカスタマイズされた設定を保存するには、スキャナーに「ユーザーデフォルトとして保存」バーコードを読み取らせます。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のピープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読取った後、現在の設定はユーザーデフォルトとして保存されます。

ユーザーデフォルトとして  
保存

### ユーザーデフォルトに戻す

先に保存したユーザーデフォルトに戻すには、スキャナーに「ユーザーデフォルトに戻す」バーコードを読み取らせる必要があります。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のピープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはカスタマイズされた値に戻ります。

ユーザーデフォルトに戻す



## システムデフォルトに戻す

工場出荷時のデフォルトに戻すには、スキャナーに「システムデフォルトの復元」バーコードを読み取らせませす。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビーブ音(低-高トーン)を返します。3656を工場出荷時のデフォルトに戻すには、[3656 セットアップバーコードおよびシリアルコマンド](#)を参照してください。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはデフォルト値に戻ります。現在の接続記録も消去されます。

システムデフォルトに戻す



注記：各設定に対してシステムデフォルト値があれば、アスタリスク「\*」で示されます。

## セットアップバーコードを読み取る

### パラメータの設定

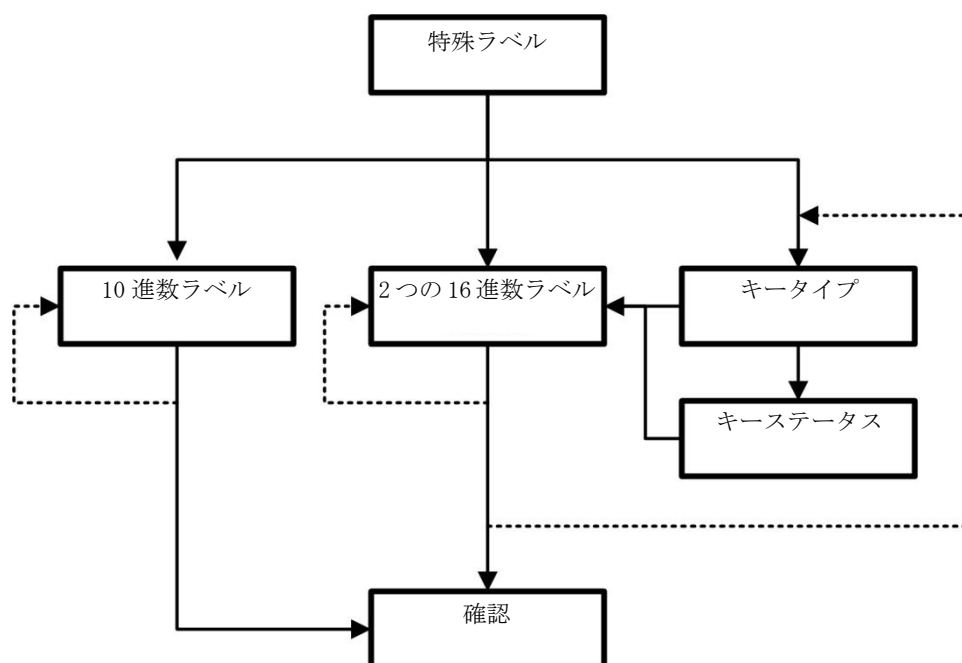
ほとんどのスキャナーパラメータの場合、新しい値に設定するには1回の読み取りだけで可能ですそれぞれのパラメータが正常に設定されると、スキャナーは2回のビーブ音(低-高トーン)を返します。

しかし、他のある特殊パラメータの場合、設定を完了するにはさらに複数の読み取りが必要となる場合があります。この場合、スキャナーは短いビーブ音を返し、さらに多くのセットアップバーコードを読み取る必要があることを示します。これらの特殊パラメータは以下の、1つ以上のセットアップバーコードを読み取る必要があります。

- ▶ 数字バーコード、例えば、キーボードタイプ、キャラクター間転送間隔、長さの必要条件
- ▶ 16進法のバーコード、例えば、プリフィックス、サフィックスなどの文字列
- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

これらの特殊パラメータの設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。スキャナーは2回のビーブ音(低-高トーン)を返し入力値が確認されたことを示します。





以下の例は、後でユーザーデフォルト戻せるように、「ユーザーデフォルト」として設定を保存する方法を示しています。

ステップ	アクション	成功した場合のユーザーフィードバック
1	スキャナーの電源を ON にする...	スキャナーは 1 回の長いビープ音 (高いトーン) を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。
2	設定モードに入る... セッティングに入る	スキャナーは 6 回のビープ音 (高-低のトーンが 3 回繰り返される) を返し、LED インジケータが赤色に点滅します。
3	セッティングバーコードを読む... 例: * Industrial を有効にする 25	通常のセッティングバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音 (低-高トーン) を返します。
	ユーザーデフォルトとして保存	



4 設定モードを終了する... 「設定モードに入る」と同じです。



5 スキャナーは自動的に再起動します... 「スキャナーの電源を ON にする」と同じ

\* 設定エラーが発生したとき... スキャナーは 1 回の長いビープ音(低いトーン)を返します。

以下の例は、数値パラメータの設定方法を示しています。

ステップ	アクション	成功した場合のユーザーフィードバック
------	-------	--------------------

1	スキャナーの電源を ON にする...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。
---	---------------------	---

2	設定モードに入る... セットアップに入る	スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。
---	--------------------------	--



3	セットアップバーコードを読む... 例:	通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。
---	-------------------------	--

通常のセットアップバーコード



通常のセットアップバーコード



特殊なセットアップバーコード

最大長(\*126)または固定長 1



スキャナーは「最大長」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1回の短いピープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

10進法バーコード



「10進値」バーコードを読み取ります。

▶ 付表4 「10進法」を参照してください



確認



入力値が確認されると、スキャナーは2回のピープ音(低-高トーン)を返します。

4 設定モードを終了する...

「設定モードに入る」と同じです。



5 スキャナーは自動的に再起動します...

「スキャナーの電源をONにする」と同じ

以下の例は、ストリングパラメータの設定方法を示しています。

ステップ アクション

成功した場合のユーザーフィードバック

1 スキャナーの電源をONにする...

スキャナーは1回の長いピープ音(高いトーン)を返し、そのLEDインジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。

2 設定モードに入る...

スキャナーは6回のピープ音(高-低のトーンが3回繰り返される)を返し、LEDインジケータが赤色に点滅を開始します。

セットアップに入る



3 セットアップバーコードを読む...

スキャナーは「プリフィックスコード」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1回の短いピープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

例:

プリフィックスの設定



特殊なセットアップバーコード



更新

**16進バーコード**



左 Alt の追加



確認



4 設定モードを終了する...



5 スキャナーは自動的に再起動します...

「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータ입とキーステータスが適用されます。キータ입に対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

▶ [付表 3](#) を参照してください

目的の文字列については、「16進値」バーコードを読み取ります。例えば、頭に「+」の文字を置くスキャナーの場合、「2」と「B」を読み取ります。

▶ 付表 4 「[16進法](#)」を参照してください

入力値が確認されると、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「設定モードに入る」と同じです。

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ

**現在の設定をリスト表示**

スキャナーのすべてのパラメータの現在の設定は、ユーザー検査のためにホストコンピュータに送信できます。これらのリストには、以下に示すページが含まれます。スキャナーに「x ページをリスト表示」バーコードを読み取らせることで関心のあるページを選択できます。スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返し、選択したページを直ちにホストに送信します。

ファームウェアバージョン、シリアル番号、インターフェース、ブザー、その他のスキャナーパラメータに関するリスト設定

リストページ 1



セットアップに入る



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(1/2)  
に関するリスト設定

リストページ 2



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(2/2)  
に関するリスト設定

リストページ 3



Code ID に関するリスト設定

リストページ 4



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系  
(1/2)

リストページ 5



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系  
(2/2)

リストページ 6



シンボル体系に関するリスト設定(1/3)

リストページ 7



シンボル体系に関するリスト設定(2/3)

リストページ 8



シンボル体系に関するリスト設定(3/3)

リストページ 9



(予約済み)

リストページ 10



編集フォーマットに関するリスト設定 1  
(1/2)

リストページ 11



編集フォーマットに関するリスト設定 1  
(2/2)

リストページ 12



編集フォーマットに関するリスト設定 2  
(1/2)

リストページ 13



編集フォーマットに関するリスト設定 2  
(2/2)

リストページ 14



編集フォーマットに関するリスト設定 3  
(1/2)

リストページ 15



編集フォーマットに関するリスト設定 3  
(2/2)

リストページ 16



編集フォーマットに関するリスト設定 4  
(1/2)

リストページ 17



編集フォーマットに関するリスト設定 4  
(2/2)

リストページ 18



編集フォーマットに関するリスト設定 5  
(1/2)

リストページ 19



編集フォーマットに関するリスト設定 5  
(2/2)

リストページ 20



運転免許証解析の設定をリストに記載

リストページ 22



## ワンスキャンセットアップバーコードの作成

スキャナーの設定を容易にするために、ワンスキャンセットアップバーコードを作成して使用することができます。

### 1D ワンスキャンバーコード

ワンスキャンセットアップバーコードの要件:

- ▶ 「#@」文字のプリフィックス
- ▶ 6桁のコマンドパラメータ
- ▶ 「#」文字のプリフィックス

1) 例えば、コマンドパラメータ「109952」を有効にするには、セットアップバーコードを3回スキャナーに読み取らせる必要があります。

セットアップに入る



リストページ3



109952

更新



109999

しかし、以下のように1回の読み取りだけで可能となります。

109952のワンスキャンセットアップバーコード



#@109952#

注記: (1) インターフェースを変更するまたは、(2) メモリモードを有効または無効に設定するという場合、ワンスキャンセットアップバーコードを読み取ると、スキャナーは自動的に再起動します。スキャナーで長いビープ音が鳴り、LEDが短くON-OFFを繰り返します。



## 2D ワンスキャンバーコード

ユーザーは一連のシリアルコマンドを連結して単一の 2D バーコードを作成し、それをスキャンすることで設定することが出来ます。例えば、サフィックス文字を「#」に変更したい場合、次のように順番にシリアルコマンドを入力します。#@CipherLab101231109902109903109994

サフィックスを設定するための 2D ワンスキャンセットアップバー  
コード



コマンド	目的
#@CipherLab	セットアップに入る
101231	▶ サフィックスの設定
109902	0x23 の最初の 16 進数の 1 桁を与えます
109903	▶ サフィックスとして「#」を取ることで、0x23 の 2 番目の 16 進数の 1 桁を与えます
109994	設定を確認する



# 第 1 章

## バーコードスキャナーを使う

---

本章では、バーコードスキャナーの機能と使用法を説明します。

### 本章の目次

---

1.1	バッテリー.....	20
1.2	メモリ.....	24
1.3	LED インジケータ .....	27
1.4	ビープ音.....	29
1.5	「NR」をホストに送信.....	32
1.6	スキャンモード.....	33
1.7	スキャンタイムアウト.....	37
1.8	再読み取り間隔.....	37
1.9	読み取り冗長性(1D).....	39
1.10	UPC/EAN バーコード用の Addon セキュリティ.....	40
1.11	オートセンスモード.....	41
1.12	反転バーコード.....	43
1.13	ピックアップモード.....	43
1.14	携帯電話/ディスプレイモード.....	44
1.15	照明輝度.....	44
1.16	シリアル番号スタンプ.....	45
1.17	2D デコード設定 .....	45



## 1.1 バッテリー

スキャナーは充電式 3.7 V / 800mAh リチウムイオンバッテリーパックを搭載しており、バッテリーを(電源アダプターから)フル充電するには約 5 時間かかります。しかし、充電時間はそれぞれの作業条件によって異なることがあります。集中的なデータ収集の場合、連続稼働のために予備のバッテリーが必要です。

### 1.1.1 スキャナーの電源 ON/OFF

#### スキャナーを ON にする...

バッテリーを取り付けた後、トリガーを約 2 秒間押します。スキャナーは 1 回の長いピープ音(高いトーン)を返し、その LED は赤色で点灯してすぐに消えます。

#### スキャナーを OFF にする...

バッテリーを直接取外すか、特定の状況下で自動的に OFF になるようにします。

### 1.1.2 省消費電力

スキャナーには Bluetooth 対応のデバイスに対して重要な機能である「省電力」、「自動電源 OFF」および「スキャンモードを無視して自動電源 OFF」機能を備えています。スキャナーがそれらの機能をサポートすることにより、その省消費電力機能は次のように移行します。

- 1) 電源 ON 時に CPU が高速で動作する
- 2) CPU は低速状態に移行する(省電力)
- 3) 最終的に、自動的にシャットダウンする(自動電源 OFF)

以下にスキャナーの省消費電力機能の設定方法について段階的に説明します。

#### 1.1.2.1 省電力機能

スキャナーの省電力機能を実現するためには、スキャナーが省電力モードに移行するタイミングを指定する必要があります。次の点に注意しながらアプリケーションにもっともよく合う設定を行います。

- ▶ 省電力: 1~254 分設定可能。0= 無効。  
デフォルトで、スキャナーは電源が ON になった後低速モードに入る前に 2 分間高速でスタンバイします。省電力を希望しない場合、0 に設定して無効にします。セットアップを設定するには、次のバーコードのセットアップをお読みください。

注記: WPAN 接続が BT HID または SPP を介して正常に確立されているとき、省電力設定は有効になりません。



0~254 分後に省電力。  
(\*2)



- 1) 低速の「省電力」に入るには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ることで、スキャナーが低速モードに入る時間を設定します。例えば、5 分間のアイドルの後低速モードに入るにはスキャナーで「5」を読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

注記：次のいずれかを満たすとき、省電力は有効になりません。

- (1) スキャナーが BT HID/SPP 接続をすでに確立している、
- (2) スキャナーが設定モードに入っている、
- (3) スキャンモードがテストモードに設定されている、
- (4) 省電力の設定値が自動電源 OFF の値よりも大きい。

### 1.1.2.2 自動電源 OFF

- ▶ 自動電源 OFF: 1~254 分設定可能。0= 無効。
  1. デフォルトで、スキャナーは電源 ON の後 10 分経つと自動的にシャットダウンします。
  2. 自動電源 OFF を希望しない場合、パラメータを 0 に設定して無効にします。
  3. スキャンモードがテストモードに設定されているときは、「自動電源 OFF」を有効にし、さらに「スキャンモードを無視して自動電源 OFF」も有効にする必要があります。次のセクション [1.1.2.3 スキャンモードを無視して自動電源 OFF](#) を参照してください。

0~254 分後に自動電源  
OFF。(\*10)



- 1) 上のバーコードを読み取り、電源 ON 後指定した時間に自動的に OFF になるように設定します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ることで、自動電源 OFF 時間を設定します。例えば、スキャナーで「1」と「5」を読み取ると、15 分間のアイドルの後に自動的に OFF になります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

注記：スキャナーが設定モードに入っているとき、「自動電源 OFF」は有効になりません。

### 1.1.2.3 スキャンモードを無視して自動電源 OFF

- ▶ このモードは、テストモード向けのものです。電力を節約するためにテストモードに設定されているスキャナーを強制的に自動電源 OFF にするためには、次の設定を行う必要があります。



ります。

1. 「自動電源 OFF」を有効にし、電源 ON 後にスキャナーが自動的に OFF になる時間を設定します。前のセクション [1.1.2.2 自動電源 OFF](#) を参照してください
2. 以下のバーコードを読み取ることで「スキャンモードを無視して自動電源 OFF」を有効にする：

有効



\*無効



上のバーコードを読み取って、テストモードの自動電 OFF を有効/無効にします。

---

注記：「スキャンモードを無視して自動電源 OFF」は、無効と有効のみを搭載しています。自動電源 OFF の時間を設定する機能はありません。このような設定は、「自動電源 OFF」に先立つセットアップで設定する必要があります。

---





### 1.1.3 WPAN 接続と省消費電力機能

#### WPAN 接続が正常に確立される前...

- 次の状況の場合、スキャナーは一定時間(デフォルトで 2 分間)アクティブな状態を保ちます。CPU は速度を高速で実行し、LED は青色に点滅します(ON/OFF 比 0.5 s: 0.5 s)。
  - ホストからの接続要求を待ちます(BT SPP スレーブモード)
  - ホストへの接続を試みます(BT HID または BT SPP マスターモード)
  - 3656 への接続を試みます
- 2 分以内に接続できない場合、残りの時間電力を節約するために非アクティブになります(指定された「自動電源 OFF」値マイナス 2 分)。CPU は低速度で実行され、LED は赤色に点滅します(ON/OFF 比 0.3 s: 2.5 s)。スキャナーが非アクティブになっているときトリガーを押し下げてスリープ解除すると、再びアクティブになります。
- 何度も接続に失敗し、最終的に指定された自動電源 OFF 時間が経過すると自動的に OFF になります。トリガーを 2 秒ほど押し下げ、スキャナーを再度 ON にします。

注記: ステップ 1 の(a)と(b)の場合、コンピュータ上で再びスキャナーを検索する必要があります。

#### WPAN 接続が正常に確立された後...

- WPAN 接続が正常に確立されると、スキャナーはデータ送信のために一定時間(デフォルトで 2 分間)アクティブな状態を保ちます。CPU は高速で実行され、LED は青色に点滅します(ON/OFF 比 0.02s: 3 s)。
- スキャナーが 2 分間アイドル状態を保つと、残りの時間電力を節約するために非アクティブになります(指定された「自動電源 OFF」値マイナス 2 分)。CPU は低速度で実行され、LED は赤色に点滅します(ON/OFF 比 0.3 s: 2.5 s)。スキャナーが非アクティブになっているときトリガーを押し下げてスリープ解除すると、再びアクティブな状態を保ちます。
  - BT HID または SPP の場合、スキャナーは CPU 高速から CPU 低速に移行せずに、設定された「自動電源 OFF」時間後に自動的にシャットダウンします。しかしながら、3656 と接続しているとき、スキャナーは電力を節約するために低速に移行します。
- スキャナーが最初にアイドルになり最終的に指定された自動電源 OFF 時間が経過するまで非アクティブの状態を保つと、スキャナーはバッテリーの電力を節約するために自動的に OFF になります。高音から低音へと下がる短いピープ音を返します。トリガーを 2 秒ほど押し下げ、スキャナーを再度 ON にします。
  - BT HID の場合、ホストアプリケーションが作動している限り、電源が再び ON になったとき、スキャナーはホストとの接続を再開します。再開時に、低音から高音へと上がる短いピープ音を 3 回返します。スキャナーが接続の再開に失敗すると、「接続のリセット」バーコードを読み取るまで 5 秒おきにホストへの再接続を試みます。
  - BT SPP スレーブモードの場合、スキャナーはホストが再接続するのを待つ必要があります。
  - BT SPP マスターモードの場合、ホストアプリケーションが作動している限り、電源が再び ON になったとき、スキャナーはホストとの接続を再開します。低音から高音へと上がる短いピープ音を 3 回返します。スキャナーが接続の再開に失敗すると、「接続のリセット」または「システムデフォルトの復元」バーコードを読み取るまで 5 秒おきにホストへの再接続を試みます。
  - 3656 を使用するスキャナーは、電源を OFF にしない限り 3656 への再接続を試みます。



## 1.2 メモリ

### 1.2.1 送信バッファ

デフォルトでは、送信バッファは有効になっており、スキャナーが通信領域外になったときに使用されます。通信領域内でバーコードが正常に読み取られると、スキャナーは短いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは緑色に点灯してすぐに消えます。しかし、ホストコンピュータが通信領域外の場合はデータを直ちに受信することができません。10 KB の送信バッファがあると、スキャナーは送信状態を無視し、バッファがいっぱいになるまでバーコードを読み続けます。

#### 送信バッファが有効になっているとき...

スキャナーが通信領域から外れている場合、バーコードの読み取りが成功すると、高いトーンと低いトーンの 2 つの短いビープ音で応答します。

送信バッファがいっぱいのとき、スキャナーは 1 つの長いビープ音(低いトーン)で応答し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。通信領域内に戻ることをお勧めします。

#### 送信バッファが無効になっているとき...

スキャナーが通信領域から外れると、スキャナーは 1 つの長いビープ音(低いトーン)で応答し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。通信領域内に戻ることをお勧めします。

\*有効



無効



注記: 10 KB の送信バッファにより例えば EAN-13 バーコードの場合 640 ものスキャンデータを保持できます。スキャナーが OFF になったりバッテリー残量がなくなったりすると、データは消去されます!



## 1.2.2 メモリモード

メモリモードの場合、4 MB のフラッシュメモリにデータを保存することが出来ます



警告：メモリモードを無効にしない限り、リアルタイム接続はできません。

### メモリデータの送信間隔



## データの送信

4 MB のフラッシュメモリは、例えば EAN-13 バーコードの場合 246,723 回までのスキャンデータを保存できます。メモリ容量がなくなると、スキャナーは警告として短いビープ音(高-低トーン)を2回返します。

スキャナーに以下の「データの送信」バーコードを読み取らせることで、ただちにデータをホストに送ることが出来ます。その際ホストは、WPAN 接続を一時的に再開します。

データの送信



## データの消去と確認

たとえデータがホストに送信されたとしても、「データの消去」と「確認」を読み取らせてメモリを削除しない限り、フラッシュメモリ内のデータは消去されません。

1. 「データの消去」バーコードを読み取ってフラッシュメモリを消去します。
2. 「確認」バーコードを読み取ってアクションを確認します。

データの消去



確認



## 1.2.3 空きメモリ

以下のバーコードをスキャンして、フラッシュメモリの使用可能な容量をパーセンテージで示すことができます。

利用可能なメモリ



### 1.3 LED インジケータ

スキャナー上部の三色 LED は、ユーザーフィードバックを示します。例えば、電源が ON になったり送信バッファが空になったりすると直ちに、LED は緑色に点灯して消えます。ビープ音の違いを見分けることができます。スキャナーの電源が ON になっているとき高いトーンの長いビープ音を返し、送信バッファがいっぱいになると低いトーンの長いビープ音を返します。

スキャナーLED			意味
赤色、点滅	---	---	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 充電中 (ON/OFF 比 0.5 s: 0.5 s)</li> <li>▶ 設定モード (ON/OFF 比 0.5 s: 0.5 s)</li> </ul>
赤色、点灯	---	---	充電エラー
赤色、点滅	---	---	赤色に点滅 (ON/OFF 比 0.3 s: 2.5 s) はスキャナーが非アクティブでその CPU が電力を節約するために低速で作動していることを示しています <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 2 分間待っても、WPAN 接続が確立されません</li> </ul>
赤色、ON-OFF	---	---	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 電源 ON、長いビープ音 (高いトーン、LED が 1 秒間点灯)</li> <li>▶ バッファを送信するときにバッファに保存されたデータは有効になり、スキャナーは範囲外になり、短いビープ音が 2 回鳴ります (高-低トーン)</li> <li>▶ 送信バッファがいっぱい、1 回の長いビープ音 (低いトーン)</li> <li>▶ 送信バッファが無効、1 回の長いビープ音 (低いトーン)</li> <li>▶ メモリモードのメモリがいっぱい、2 回の短い音 (高-低トーン)</li> </ul>
---	---	緑色 ON-OFF	グッドリード、1 回の短いビープ音 (高いトーン) およびビーパーピッチと持続時間がプログラム可能
---	青色、点滅	---	まず、2 分間の青色の点滅 (ON/OFF 比 0.5 s: 0.5 s) はスキャナーが接続を待っていることを示し、接続が確立されないと OFF になり、その後赤色の点滅 (ON/OFF 比 0.3 s: 2.5 s) は、スキャナーが非アクティブになっていることを示します。 LED が青色に点滅している間のみ接続の用意が整います <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SPP スレーブ: ホストが接続されるのを待ちます</li> <li>▶ HID または SPP マスター: ホストへの接続を試みます</li> <li>▶ 3656 の使用: 3656 への接続を試みます</li> </ul>
---	青色、点滅	---	青色に点滅 (ON/OFF 比 0.1 s: 0.1 s) は、スキャナーがホストから PIN コード要求を受け取っていることを示しています (接続を待っているよりもっと素早く点滅します)。
---	青色、点滅	---	青色に点滅 (ON/OFF 比 0.02 s: 3 s) は、スキャナーが WPAN 接続を正常に確立したことを示しています。
---	青色、点滅	緑色、点滅	青色と緑色に点滅 (ON/OFF 比 0.1 s: 0.1 s) は、PIN コードを入力している間にエラーが発生したことを示しています。トリガーを押して再接続の準備をします。



### 1.3.1 グッドリード LED

\*有効グッドリード LED



無効グッドリード LED



### 1.3.2 グッドリード LED 持続時間

デフォルトで、グッドリード LED は 40 ミリ秒間 ON になっています。10 ミリ秒の単位で、1～254 の値を指定します。

0.01~2.54 秒後グッド  
リード LED タイムアウト  
(\*40 ms)



- 1) 上のバーコードを読み取って、グッドリード LED が OFF になるまでの時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、LED で「1」と「5」を読み取ると、150 ミリ秒後に OFF になります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 1.4 ビープ音

さまざまな操作条件下でユーザーにフィードバックを提供するために、スキャナーにはブザーが搭載されています。

ビープ作動	意味
1回の長いビープ音、高いトーン	電源 ON、LED が赤で ON(1 秒間)、その後すぐに OFF
1回の短いビープ音、高いトーン ▶ プログラム可能、デフォルトは 4 KHz	グッドリード、LED が緑色に素早く ON-OFF を繰り返します
6回の短いビープ音 ▶ 高-低トーンを 3 回繰り返す	▶ 設定モードに入ります、LED が赤色に点滅 ▶ 設定モードを終了します
2回の短いビープ音、低-高トーン	セットアップバーコードが正常に読み取られました
1回の短いビープ音、高いトーン	▶ バーコードセットアップがさらに必要です ▶ PIN コードの入力 ▶ PIN コードの消去
1回の短いビープ音、低いトーン	マルチバーコードエディタの「出力シーケンス」要件を完了するにはもっと多くのバーコードが必要です、LED が緑色に素早く ON-OFF (完了時は、Good Read と同じ)
1回の長いビープ音、低いトーン	▶ 送信バッファがいっぱい、LED が赤色に素早く ON-OFF ▶ 送信バッファが無効、LED が赤色に素早く ON-OFF ▶ 設定エラー(間違ったバーコード...) ▶ PIN コード入力エラー ▶ ランダム PIN リクエストの拒否 ▶ メモリモードでデータの送信に失敗
2回の短いビープ音、高-低トーン	▶ バッファを送信するときにバッファに保存されたデータは有効になり、スキャナーは範囲外になり、LED が赤色に素早く ON-OFF ▶ メモリモード - メモリがいっぱい、LED が赤色に素早く ON-OFF
2回の短いビープ音、高いトーン	バッテリー不足アラーム
2回の長いビープ音、高-低トーン	マルチバーコードモード - バッファがいっぱい
3回の短いビープ音、低から高へと上がるトーン	▶ WPAN 接続の確立、LED が青色に点滅 ▶ WPAN 接続の再開、LED が青色に点滅
3回の短いビープ音、高から低へと下がるトーン	WPAN 接続が範囲外かサスペンド状態



### 1.4.1 ビープ音量

消音	
	101009
最小音量	
	101010
中間音量	
	101011
*最大音量	
	101012

### 1.4.2 グッドリードビープ音

#### 周波数

8 kHz	
	101001
*4 kHz	
	101002
2 kHz	
	101003
1 kHz	
	101004

#### 時間

*最短	
	101005







### 1.4.3 低バッテリーアラーム

デフォルトで、バッテリー残量が少なくなると、警告音を発します。データ損失を防ぐために、短いビープ音(高いトーン)が 2 回聞こえたら直ちにバッテリーを交換することをお勧めします。



## 1.5 「NR」をホストに送信

出力インターフェースでキーボードウェッジまたはRS-232が選択されているときのみ、この機能は有効です。スキャナーから「NR」文字列をホストに送信し、読み取りイベントなしを通知します。

有効



100267

\*無効



100266



## 1.6 スキャンモード

さまざまなスキャンモードがサポートされています – 特定アプリケーションの要件にもっともよく合うスキャンモードを選択してください。以下の比較表を参照してください。

スキャンモード	スキャンの開始				スキャンの停止			
	常にデコードする	トリガーを1回押す	トリガーを保留する	トリガーを2回押す	トリガーを解除する	トリガーを1回押す	バーコードが読み込まれる	タイムアウト
テストモード	✓							
レーザーモード			✓		✓		✓	✓
自動 OFF モード		✓					✓	✓
自動電源 OFF モード:		✓						✓
エイミングモード				✓			✓	✓
マルチバーコードモード			✓		✓			
プレゼンテーションモード	✓							

注記: デフォルトで、スキャンモードはレーザーモードに設定されます。

### 1.6.1 テストモード

スキャナーは常にスキャンします。

- ▶ テスト目的で、同じバーコードを繰り返しデコードできます。

テストモード



100207



## 1.6.2 レーザーモード

トリガーを押し下げると、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは(1) バーコードがデコードされる、(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過した、または(3) トリガーを離すときです。

注記：「スキャンタイムアウト」を参照してください。

\*レーザーモード



## 1.6.3 自動OFFモード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

注記：「スキャンタイムアウト」を参照してください。

自動OFFモード



## 1.6.4 自動電源OFFモード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、前もって設定されたタイムアウト時間が経過した、またデコードが成功するたびに前もって設定されたタイムアウト時間が再カウントされるときです。

注記：「再読み取り間隔」および「スキャンタイムアウト」を参照してください。

自動電源OFFモード



### 1.6.5 エイミングモード

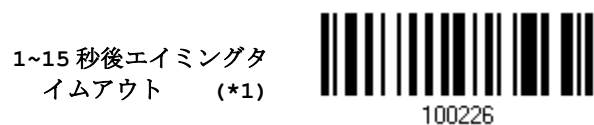
トリガーが押されるとスキャナーはバーコードに照準を合わせ、それから 1 秒以内にトリガーが押されるとスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。



#### エイミングタイムアウト

エイミング時間を 1~15 秒に設定できます。デフォルトで、スキャナーのタイムアウトは 1 秒に設定されています。



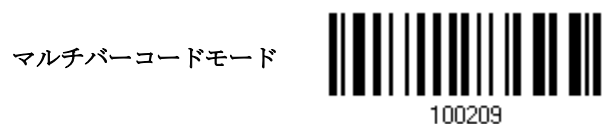
1. 上のバーコードを読み取って、エイミングが終わるまでの時間を指定します。(デフォルトでは、1 に設定されています。)
2. 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります 253。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 10 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 1.6.6 マルチバーコードモード

トリガーを押し下げている間スキャナーはスキャンし続け、一度に 1 つのユニークなバーコードだけでなく、複数のユニークバーコードもデコード可能です。一連のユニークなバーコードをデコードしている間、同一のバーコードが 2 回デコードされると、2 回目のデコードは無視されます。

複数のユニークなバーコードをデコードする 1564 の場合、最大容量は 10 KB です。データ量が 10 KB を超えると、マルチバーコードモードは無効になります

- ▶ トリガーを離すまで、スキャンは停止しません。



注記: (1) そのコードタイプまたはデータが他のものと異なっている場合、バーコードはユニークであると見なされます。

(2) マルチバーコードモードは [Multi-Barcode Editor](#) と関係がありません。



## 1.6.7 プレゼンテーションモード

バーコードがスキャン領域内に入ると、スキャナーはバーコードをデコードします。ハンズフリー操作の場合、バーコードをオートセンススタンドに置くことをお勧めします。

プレゼンテーションモード



### 低照明下での読取り向上

これを有効にすると低照明下での読み取りを向上することが出来ます

有効



\*無効



## 1.7 スキャンタイムアウト

スキャンモードが次のいずれかのモードに設定されているとき、スキャン時間(1~254 秒、0= 無効)を指定します -

- ▶ レーザーモード
- ▶ 自動 OFF モード
- ▶ 自動電源 OFF モード
- ▶ エイミングモード

0~254 秒後スキャナタイ  
ムアウト (\*10)



- 1) 上のバーコードを読み取って、スキャンエンジンがタイムアウトになるまでの時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「5」を読み取ると、スキャナーは 15 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## 1.8 再読み取り間の間隔

これは「ブロッキングタイム」とも呼ばれ、スキャンモードが次のいずれかに設定されているとき、スキャナーが同じバーコードを間違えて 2 回読み取るのを防ぐために使用されます。

- ▶ 自動電源 OFF モード:
- ▶ プレゼンテーションモード

100 ms



200 ms



\*400 ms



800 ms	 100219
1 秒	 100220
2 秒	 100221
3 秒	 100222
5 秒	 100223





## 1.9 読み取り冗長性(1D)

- ▶ 「冗長性なし」が選択されている場合、デコードが1回成功すると読み取りが有効になります。
- ▶ 「2回」を選択すると、同一のバーコードを3回読み取り成功する必要があります。読み取りセキュリティが高いほど(つまり、ユーザーが選択する冗長性が高いほど)、読み取り速度は遅くなります。

選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなるというのは明らかです。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。



## 1.10 UPC/EAN バーコード用の ADDON セキュリティ

Addonの有無を問わず、UPC/EANバーコードをデコードできます。読み取り冗長性(2~16回、デフォルトは10に設定)により、送信前にUPC/EANバーコードをデコードする回数を変更できます。選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなります。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。

注記：この設定を有効にするには、UPC/EAN Addon2 と Addon5 を個別に有効にする必要があります。

Addon セキュリティレベル(2~16)、デフォルト:10)



- 1) 上のバーコードを読み取ってUPC/EANバーコードの読み取り冗長性を指定してください。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「2」を読み取ると、スキャナーは12回バーコードを再び読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 1.11 オートセンスモード

### 1.11.1 1564 の場合

1564 の場合、このモードはスキャナーをオートセンススタンドに装着し「有効」バーコードを読み取って有効となります。このモードを有効にすると、スキャナーはスキャンモードとしてレーザーモードを適用するようになります。しかし、通常のレーザーモードとは若干異なります。以下に示すように、オートセンススタンドに固定されている限り、スキャナーはバーコード読み取り待機状態です。バーコードがスキャン領域内に入ると、スキャナーはバーコードをデコードします。



注記：オートセンスを有効にすると、スキャナーはレーザーモードに入ります。このモードを停止するには、スキャナーをスタンドから取り外すか、スキャナーに上の「(自動検知)を無効にする」バーコードを読み取らせませす。レーザーモードに戻ります。レーザーモードが不要な場合、続けて自分の用途にもっとも適したスキャンモードを選択してください。



注記：オートセンスモードを作動させるには、電源供給コードとインターフェースケーブルをスタンドに接続する必要があります。USB からの電力供給だけでは不十分です。



### 1.11.2 1564A の場合

1564A の場合、オートセンスは、スキャナーが [レーザーモード](#) で作動しているときのみ利用可能です。オートセンススタンドに固定されている間、1564A はバーコード読み取り待機状態です。バーコードがスキャン領域内に入ると、スキャナーはバーコードをデコードします。

このモードを停止するには、スタンドからスキャナーを取外します。



1564A は AC コンセントに接続されたスタンドに装着されると、自動的にオートセンスモードになるように設計されています。デフォルトで、このメカニズムは無効になっています。以下の「有効」バーコードをスキャナーに読み取らせることで、これを有効にする必要があります。



## 1.12 反転バーコード

- ▶ すべての 1D シンボル体系
- ▶ Data Matrix
- ▶ QR Code
- ▶ Aztec



## 1.13 ピックリストモード

ピックアップモードは、レーザー照準パターンの中心のバーコードを読み取るモードです



## 1.14 携帯電話/ディスプレイモード

デフォルトで、このモードは無効になっています。携帯電話や電子ディスプレイに表示されたバーコードの読み取りが大幅に改善されています。



## 1.15 照明輝度

LED 光源の照明輝度を調整できます。1～10 の範囲で値を指定し、輝度レベルを設定します。デフォルトでは 10 に指定されていますが、これは 100%照明されていることを意味します。

照明輝度 (1～\*10)



- 1) 調整を開始するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の照明輝度レベルについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## 1.16 シリアル番号スタンプ

送信するデータの前にデバイスのシリアル番号を追加するかどうかを決定します。

データの前にシリアル番号を追加する



\*無効



### 1.16.1 シリアル番号スタンプとデータ間の区切り文字

以下のバーコードをスキャンして、デバイスのシリアル番号と付随するデータ間の区切り文字を指定します。デフォルトで、区切り文字はコンマ記号です。

区切り文字を指定する



- 1) 区切り文字を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 1.17 2D デコード設定

### 1.17.1 照準パターン

スキャン中の照準パターンを有効/無効にします。



### 1.17.2 デコード照明

スキャン中の照明を有効/無効にします。

- ▶ 照明を有効にすると普通、より優れた画像が得られます。ターゲットまでの距離が増すと、照明の効果は薄れます。



### 1.17.3 照明輝度

2D リーダーの場合、照明輝度レベルを 1~10 の範囲で指定します。デフォルト値は 10 で、100%の照明輝度を表しています。

2D リーダーの照明輝度  
レベルを 1~10 (\*10) で  
設定します



- 1) 照明輝度を設定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の設定値については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「[確認](#)」バーコードを読み取ります。







### 出力インターフェースを選択する

---

コンピュータとスキャナー間で適切な接続を確立するには、以下の指示に従うように推奨します。

- 1) バッテリーを取り付け、トリガーを 2 秒ほど押し下げて、スキャナーを ON にします。
- 2) 設定モードに入るには、スキャナーに「セットアップに入る」バーコードを読み取らせます。
- 3) 目的のインターフェースを選択するには、スキャナーに関連するバーコードを読み取らせてください。サポートされる出力インターフェースについては、次のセクションを参照してください。
- 4) スキャナーに関連する設定のバーコードを読み取らせてください。
- 5) 設定モードを終了するには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせます。
- 6) お使いのコンピュータまたはノート PC の電源を ON にして、スキャナーで WPAN 接続を確立します。

第 3 章 - WPAN 接続をセットアップする を参照してください。

---

注記： デフォルトで、出力インターフェースは「BT HID」に設定されています。

---

#### 本章の目次

---

2.1 BT HID.....	48
2.2 BT SPP スレーブ .....	61
2.3 BT SPP マスター .....	63
2.4 3656 を介したキーボードウェッジ .....	68
2.5 3656 を介した RS-232.....	78
2.6 3656 を介した USB HID.....	83
2.7 3656 を介した USB Virtual COM.....	93



## 2.1 BT HID

BT HID の場合、関連する接続設定については、[第3章 - WPAN 接続](#)を参照してください。スキャンされたデータはコンピュータ上のテキストエディタに転送されます。

HID 設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
アルファベットレイアウト	通常
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット送信	大文字と小文字を区別する
数字送信	英数字キーパッド
漢字送信	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

### 2.1.1 BT HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する

BT HID インターフェイスがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。デフォルトで、BT HID はアクティブになっており、キーボードタイプは PCAT (US) に設定されています。

BT HID をアクティブにし、  
キーボードタイプを  
選択する…



- 1) 上のバーコードを読み取って、BT HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



**BT HID**

デフォルトで、キーボードタイプはPCAT (US)に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされています。

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
64	PCAT (US)	72	PCAT (スペイン語)
65	PCAT (フランス語)	73	PCAT (ポルトガル語)
66	PCAT (ドイツ語)	74	PS55 A01-2 (日本語)
67	PCAT (イタリア語)	75	ユーザー定義の表
68	PCAT (スウェーデン語)	76	PCAT (トルコ語)
69	PCAT (ノルウェー語)	77	PCAT (ハンガリー語)
70	PCAT (UK)	78	PCAT (スイスドイツ語)
71	PCAT (ベルギー)	79	PCAT (オランダ語)

**2.1.2 接続のリセット**

BT HID の場合、スキャナーを接続できるのは一度に1つのコンピュータだけです。別のホストに接続したい場合、現在の接続を切断できるように、スキャナーに「接続のリセット」バーコードを読み取らせる必要があります。スキャナーは自動的に再起動します。新しい接続を確立するには、[3.2.3 ドングルへの接続](#)でプロセス全体を読み取る必要があります。

接続のリセット



109919

注記: 「システムデフォルトに戻す」も、現在の接続記録を消去します。



## 2.1.3 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット送信
- ▶ 数字送信
- ▶ 漢字送信

注記： BT HID は、PDA で以下の機能をサポートしません - (1) キャップスロック設定： 自動検出 (2) 数字送信： 数字キー

### アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を送信しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。

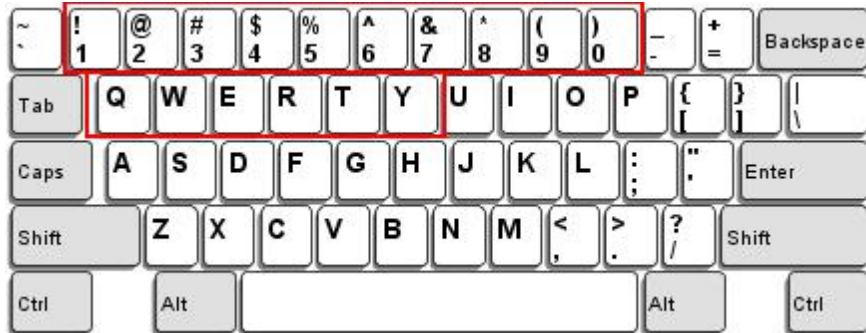


注記： 選択したキーボードタイプが PCAT (US) などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



### US キーボードスタイル – 通常

QWERTY レイアウト。通常、西洋諸国で使用されています。



▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

### フランス語キーボードのスタイル – AZERTY

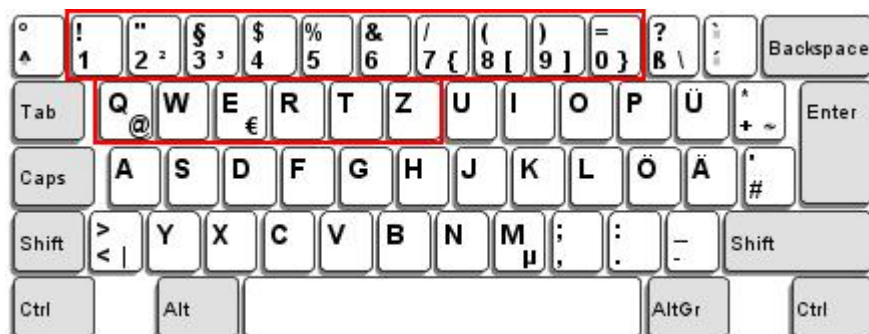
フランス語レイアウト。フランス語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。

### ドイツ語キーボードのレイアウト – QWERTZ

ドイツ語レイアウト。ドイツ語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



## 数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

\*通常



100046

上方の段



100049

下方の段



100048

## キャップスロックタイプと設定

正しい大文字・小文字でアルファベットを送信するには、スキャナーがキーボードのキャップスロックのステータスを知る必要があります。設定を間違えると、送信されるアルファベットの太文字・小文字が反対になります。

キャップスロックタイプ	説明
通常	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

\*通常



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044



キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが送信される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ この設定は PDA ではサポートされません。

自動検出



100054

キャップスロック ON



100053

\*キャップスロック OFF



100052

### アルファベット送信

デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップスロックのステータス、およびキャップスロック設定に従って送信されます。キーボードのキャプチャ1ロックのステータスのみに従ってアルファベットを送信するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視



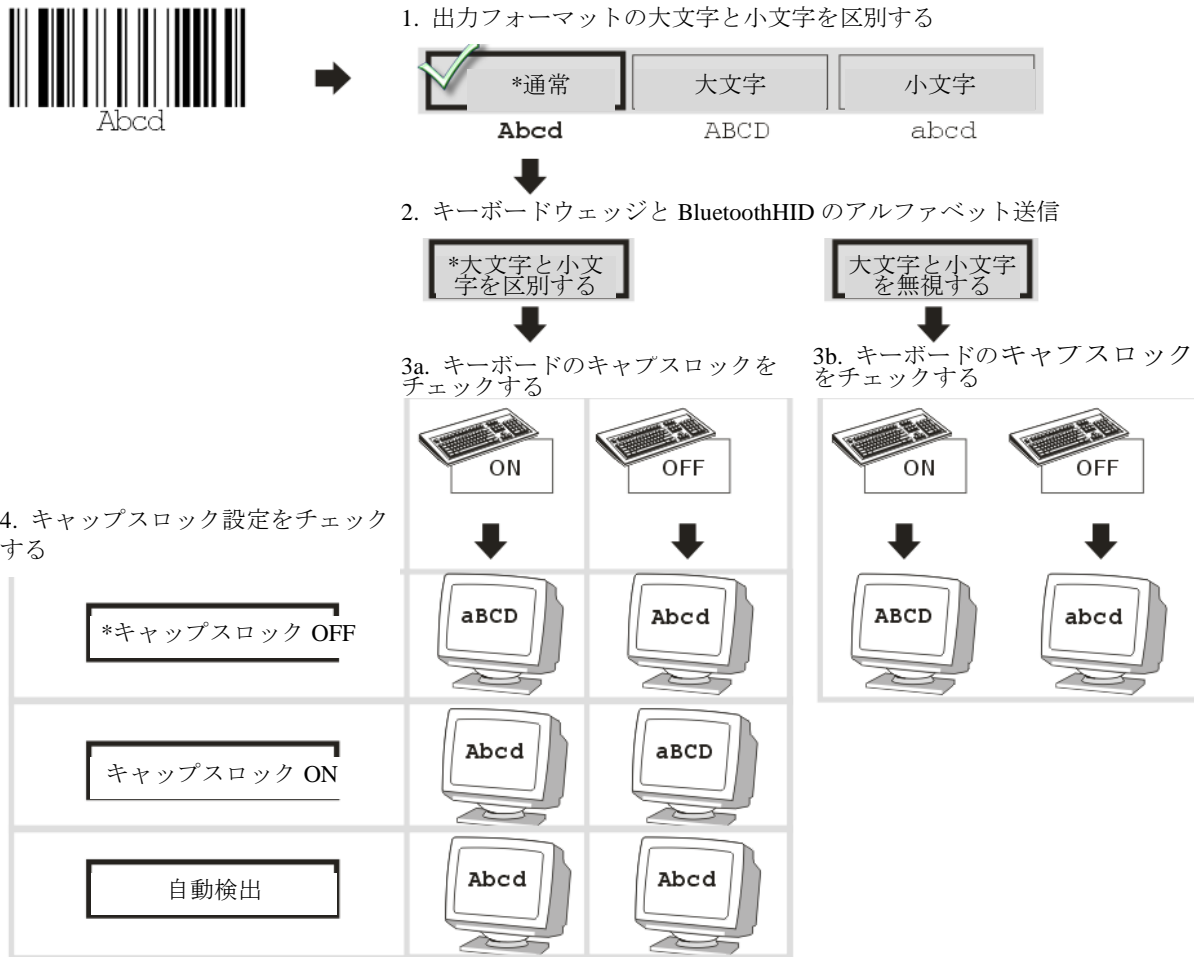
100051

\*大文字と小文字を区別する



100050





数字送信

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の送信に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。







注記：「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。この設定はPDAではサポートされません。

### 漢字送信

漢字送信は Bluetooth HID、3656 を介したキーボードウェッジまたは 3656 を介した USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字送信により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S. を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用される中国文字を含め、日本語の文字を送信することができます。

デフォルトで、漢字送信は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字送信を有効/無効にする：

有効



\*無効



## 2.1.4 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が、送信されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔  
… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## 2.1.5 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間  
転送間隔… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### 2.1.6 HID 文字送信モード

デフォルトで、HID インターフェースはホストヘデータをバッチ単位で送信します。スキャナーに「文字単位で」バーコードを読み取らせ、一度に1文字ずつデータを処理することができます。



注記： iPhone または iPad で作業しているとき、「文字単位で」送信モードは必須です。iOS キーボードでは自動補正機能を OFF に切り替えるように推奨します。

### 2.1.7 特殊キー

デフォルトで、このインターフェースはキーボードウェッジ表で定義されたファンクションコード(0x01~0x1F)を採用しています。しかし、データエラーを避けるためにバーコード内部でこれらのファンクションコードを取り除く必要があるかもしれません。ファンクションコードを適用するかどうかを決定できます。詳細については、[キーボードウェッジ表](#)を参照してください。



## 2.1.8 IPHONE/IPAD 用のキーボードサポート

iPhone または iPad にスキャナーが正常に接続されたら、iPhone または iPad のオンスクリーンキーボードはデフォルトでは表示されません。キーボードを必要に応じて表示または非表示にするには、スキャナーに「キーボードの表示または非表示」バーコードを読み取らせる必要があります。

キーボードの表示または  
非表示



1564A シリーズスキャナーの場合、前もって「トリガーを使用してキーボードを表示または非表示にする」バーコードを読み取らせると、ユーザーは 0.5 秒以内にトリガーキーを 2 回押してオンスクリーンキーボードを表示/非表示できるようになります。

\*無効



101022

トリガーを使用してキー  
ボードを表示または非表  
示にする



101023

注記： この機能は (1) iPhone 4 および 3GS バージョン 4.1 以降、および (2) iPad バージョン 4.2 以降でのみ機能します。

## 2.1.9 送信速度

デフォルトで、BT HID 送信速度は通常に設定されています。高速にすることにより、より速い送信速度でスキャン作業を行うことができます。

\*通常



100162

高速



100163



### 2.1.10 IPHONE/IPAD 用のシンプルペアリング

iPhone または iPad を *Bluetooth*®接続で使用しているとき、ペアリングパスコードを要求するウィンドウが常に表示されます。iOS ベースのデバイスをもっと素早く接続するには、以下のバーコードをスキャンして *Bluetooth*®シンプルペアリングを有効にします。接続が確立されると、パスコードを要求するウィンドウは表示されません。デフォルトで、この機能は無効に設定されています。



注記：シンプルペアリングは、*Bluetooth*® v2.1 以降を搭載するデバイスでのみサポートされます。

### 2.1.11 –BT HID スレーブ/マスター切り替え

デフォルトで、BT HID はスレーブに設定されています。以下のバーコードを読み取ることで、ユーザーはスキャナーのスレーブとマスターを切り替えることができます。



## 2.1.12 – BT HID 自動再接続

ペアリング済みのデバイスを切断した後に再接続する場合、スキャナーを自動的に再接続するかどうかを決定できます。

\*直ちに自動再接続



100168

スキャンされているデータの自動再接続



100169

自動電源 OFF



100170



## 2.2 BT SPP スレーブ

BT SPP スレーブの場合、関連する接続設定については、第3章 - WPAN 接続をセットアップするを参照してください。

### 2.2.1 BT SPP スレーブモードをアクティブにする

BT SPP スレーブモード  
をアクティブにする



100003

### 2.2.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間  
転送間隔… (\*0~254)



100012

- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.2.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに送信した後にさらに多くのデータを送信します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの送信をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

… (\*0~99)後の  
ACK/NAK タイムアウト



100013

- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを送信しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## ACK/NAK エラービープ音

エラービープ音を有効にする



\*エラービープ音を無効にする



注記：ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。

## 2.2.4 BT SPP スレーブハードウェアフロー制御

デフォルトで、Bluetooth SPP を介して送信するデータはハードウェアフロー制御を採用しません。場合によっては、送信中にデータ損失を防ぐためにハードウェアのフロー制御を有効にできます。これを有効/無効にするには、以下のバーコードをスキャンしてください。

\*無効



有効





## 2.3 BT SPP マスター

SPP マスターデバイスとして、ホストアプリケーションが作動している限り、電源が再び ON になるときに、スキャナーはホストとの接続を再開できます。スキャナーが接続の再開に失敗すると、「接続のリセット」または「システムデフォルトの復元」バーコードを読み取るまで5秒おきにホストへの再接続を試みます。

BT SPP マスターの場合、関連する接続設定については、[3.2.2 関連する設定の構成](#)を参照してください。

注記：SPP マスターモードで、一定時間(デフォルトで2分)、スキャナーは電力を節約するために非アクティブになります。再接続が正常に確立されると、自動電源 OFF の場合、スキャナーは所定の時間間隔アイドルになっている場合でも、CPU の最高速度から低速度に遷移しません。時間が過ぎると、自動的に OFF になります。

### 2.3.1 BT SPP マスターモードをアクティブにする

Bluetooth® SPP、マスターモードをアクティブにする



#### 2つの設定バーコードを順番にスキャンすることで、ターゲットデバイスと接続する

3610 に対して行うのと同様に、ターゲットの SPP スレーブデバイスに対して2つのセットアップバーコードを生成します。

- ▶ 「接続の設定」
- ▶ 「MAC ID」

注記：「MAC ID」バーコードは、ターゲットデバイスの実際の MAC アドレスが後に続く、「0x」または「0X」のいずれか2文字のプリフィックスを持つ必要があります。

使用法：

- 1) 上の「Bluetooth® SPP、マスターモードをアクティブにする」バーコード、および認証やプリセット PIN など、接続設定用のバーコードを読み取ります。接続設定を希望しない場合、このステップをスキップします。
- 2) 「接続の設定」と「MAC ID」バーコードを読み取ります。スキャナーはそれぞれのバーコードを読み取る際、1回のピープ音を返します。

接続の設定



注記：まず、「接続の設定」バーコードを、続いて 10 秒以内に「MAC ID」バーコードを読み取ります。

MAC アドレスを入力するためのセットアップバーコードを読み取ることができます。

- ▶ MAC アドレスのセットアップバーコードを読み取っている間、「中止」バーコードを読み取っていつでも操作をキャンセルすることができます。MAC アドレスがまだ完了していない場合、「確認」バーコードを読み取って操作をキャンセルすることもできます。

16 進数) で MAC ID を入力する



使用法： 1) 上のバーコードを読み取ります。

- 2) 目的の MAC アドレスについては、「16 進値」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 1 つの設定バーコードをスキャンすることで、ターゲットデバイスと接続する

ユーザーは、「接続の設定」と「MAC ID」セットアップコマンドを結合してターゲットデバイスと接続する、1 つの ID セットアップバーコードを生成することができます。大文字/小文字から成る「SeTcOn」とバーコードは Code 128 のシンボル体系でなければならないことにご留意ください。

使用法：

- 1) 上の「Bluetooth® SPP、マスターモードをアクティブにする」バーコード、および認証やプリセット PIN など、接続設定用のバーコードを読み取ります。接続設定を希望しない場合、このステップをスキップします。
- 2) 以下の 1 つの「SeTcOnxxxxxxxxxxxx」1D バーコードを読み取ります。スキャナーはバーコードを読み取る際、1 回のビーブ音を返します。



### 1 つの 2D 設定バーコードをスキャンすることで、ターゲットデバイスと接続する

ユーザーは、「Set Connection(接続の設定)」と「MAC ID」セットアップコマンドを結合してターゲットデバイスと接続する、1 つの 2D バーコードを生成することもできます。以下の例はコード「#@CipherLab」、「88686471166254」(接続の設定)、「0x」(ターゲット MAC ID へのプリフィックス)、および「00D0176F0030」(ターゲットデバイスの MAC ID)を含む 2D バーコードです。数字の下線は、数字を読みやすくするために引かれたものです。

#@CipherLab886864711662540X00D0176F0030

コマンド	目的
#@CipherLab	セットアップに入る
88686471166254	▶ 接続の設定
0X	ターゲット MAC ID のプリフィックス
00d0176f0030	▶ ターゲットでアイスの MAC アドレス ID

セットアップバーコードを連結すると、以下のように結合して 1 つの 2D バーコードを作り出すことができます。



ターゲットデバイスと接続するための、2D ワンスキャンセットアップバーコード



### SPP マスターモードを終了する

このような再接続を停止するには、現在の接続記録(= MAC ID)が消去されるように、「接続のリセット」または「システムデフォルトに戻る」バーコードを読み取らせませす。スキャナーは自動的に再起動します。[3.2.3 ドングルに接続する](#)でプロセスをすべて実施して、新しい WPAN 接続を確立します。

接続のリセット



### 2.3.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間  
転送間隔… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔 (ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.3.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに送信した後にさらに多くのデータを送信します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの送信をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。



… (\*0~99)後の  
ACK/NAK タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを送信しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「10 進値」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは1秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### ACK/NAK エラービープ音

エラービープを有効にする



\*エラービープを無効にする



注記：ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届き、スキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。

## 2.3.4 マスター/スレーブモードを切り替える

スキャナーが SPP スレーブデバイスとして接続を確立した後、スキャナーに「Activate BT SPP, Master Mode (BT SPP をアクティブにする、マスターモード)」セットアップバーコードを読み取らせて SPP マスターモードに切り替えます。これにより、3656 と接続しているように、簡単に信頼性の高い再接続が得られることとなります。

## 2.3.5 BT SPP マスターハードウェアフロー制御

デフォルトで、Bluetooth SPP を介して送信するデータはハードウェアフロー制御を採用しません。場合によっては、送信中にデータ損失を防ぐためにハードウェアのフロー制御を有効にできます。これを有効/無効にするには、以下のバーコードをスキャンしてください。

\*無効



有効



### 2.3.6 BT SPP マスター自動再接続

ペアリング済みのデバイスを切断した後に再接続する場合、スキャナーを自動的に再接続するかどうかを決定できます。

\*直ちに自動再接続



スキャンされているデータの自動再接続



自動電源 OFF



## 2.4 3656 を介したキーボードウェッジ

Y ケーブルによりスキャナーを 3656 経由で PC のキーボード入力ポートに接続したり、キーボードをつないだりすることもできます。スキャンされたデータは、キーボードを介して手動で入力されたかのように、ホストキーボードポートに送信されます。例えば、コンピュータでテキストエディタを実行するとデータが受信されます。

キーボードウェッジの設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
アルファベットレイアウト	通常
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット送信	大文字と小文字を区別する
数字送信	テンキー
漢字送信	無効
代替構成	なし
ノート PC のサポート	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

### 2.4.1 キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する

キーボードウェッジインターフェースがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。

3656 キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する...



- 1) 上のバーコードを読み取って、キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



**3656 を介したキーボードウェッジ**

デフォルトで、キーボードタイプはPCAT (US)に設定されています。付属のキーボードウェッジに 3656 を使用しているとき、次のキーボードタイプがサポートされます。

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
1	PCAT (US)	18	PS55 001-3
2	PCAT (フランス語)	19	PS55 001-8A
3	PCAT (ドイツ語)	20	PS55 002-1, 003-1
4	PCAT (イタリア語)	21	PS55 002-81, 003-81
5	PCAT (スウェーデン語)	22	PS55 002-2, 003-2
6	PCAT (ノルウェー語)	23	PS55 002-82, 003-82
7	PCAT (UK)	24	PS55 002-3, 003-3
8	PCAT (ベルギー)	25	PS55 002-8A, 003-8A
9	PCAT (スペイン語)	26	IBM 3477 Type 4 (日本語)
10	PCAT (ポルトガル語)	27	PS2-30
11	PS55 A01-1	28	IBM 34XX/319X, Memorex Telex 122 キー
12	PS55 A01-2 (日本語)	29	ユーザー定義の表
13	PS55 A01-3	30	PCAT (トルコ語)
14	PS55 001-1	31	PCAT (ハンガリー語)
15	PS55 001-81	32	PCAT (スイスドイツ語)
16	PS55 001-2	33	PCAT (オランダ語)
17	PS55 001-82		



## 2.4.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット送信
- ▶ 数字送信
- ▶ 漢字送信
- ▶ ALT キー
- ▶ ノート PC のサポート

### アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を送信しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。

\*通常



AZERTY



QWERTZ



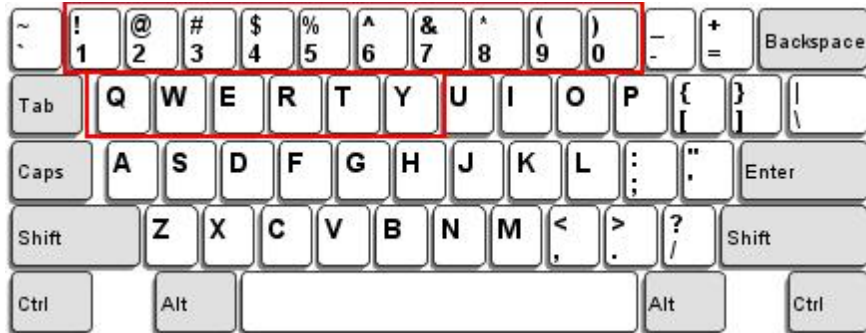
注記：選択したキーボードタイプが PCAT (US) などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。





### US キーボードスタイル – 通常

QWERTY レイアウト。通常、西洋諸国で使用されています。



▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

### フランス語キーボードのスタイル – AZERTY

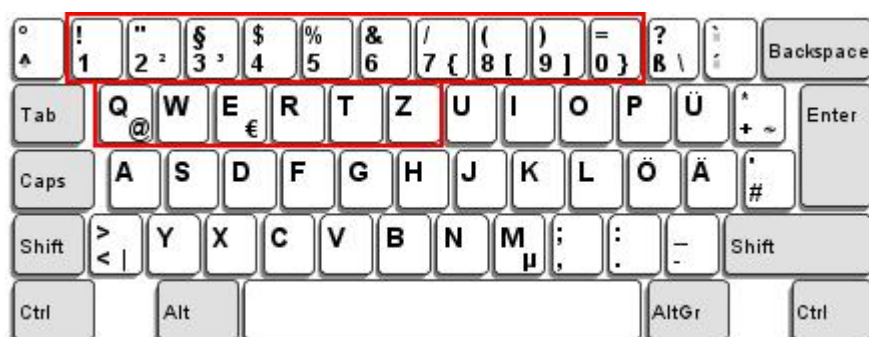
フランス語レイアウト。フランス語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。

### ドイツ語キーボードのレイアウト – QWERTZ

ドイツ語レイアウト。ドイツ語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



## 数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
上方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
下方の段	AZERTY キーボードの場合

\*通常



上方の段



下方の段



## キャップスロックタイプと設定

設定を間違えると、送信されるアルファベットの太文字・小文字が反対になります。

キャプロックタイプ	説明
通常	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは太文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは太文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

\*通常



シフトロック



キャップスロック



キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが送信される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



キャップスロック ON



\*キャップスロック OFF



### アルファベット送信

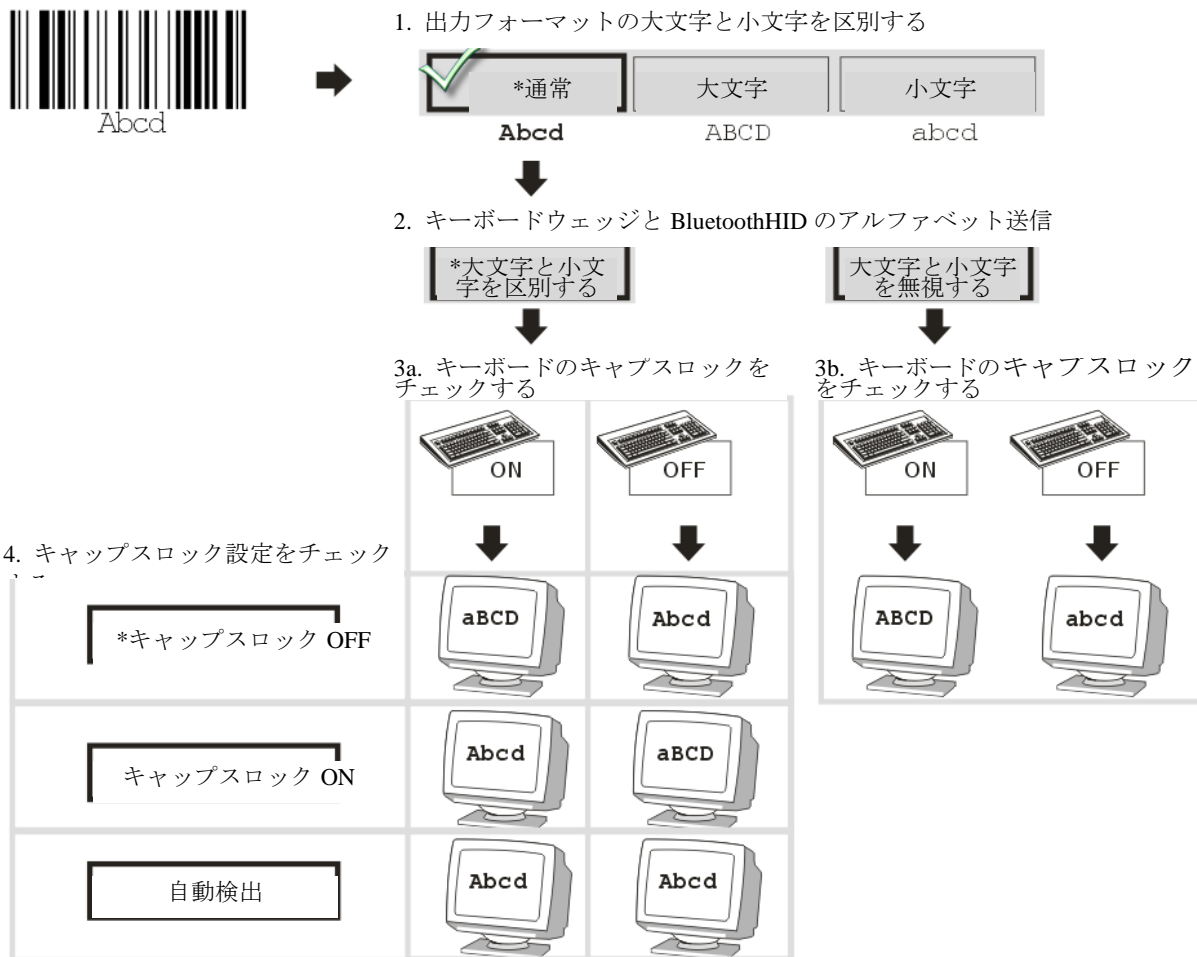
デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップスロックのステータス、およびキャップスロック設定に従って送信されます。キーボードのキャプチャ1ロックのステータスのみに従ってアルファベットを送信するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視



\*大文字と小文字を区別する





数字送信

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の送信に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。

テンキー



\*英数字キー





注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。

### 漢字送信

漢字送信は Bluetooth HID、3656 を介したキーボードウェッジまたは 3656 を介した USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字送信により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S. を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用される中国文字を含め、日本語の文字を送信することができます。

デフォルトで、漢字送信は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字送信を有効/無効にする:

有効



\*無効



### ALT キー

デフォルトで、ALT キーは無効になっています。特定のキーボード文字の代替キーコードをエミュレートするのを許可するには、[はい]を選択します。例えば、[Alt] + [065]は使用しているキーボードタイプにかかわらず、A の文字をホストに送信します。

はい



\*いいえ



## ノート PC のサポート

デフォルトで、ノート PC のサポートは無効になっています。相互連結される外部キーボードのないノート PC にウェッジケーブルを接続する場合、この機能を有効にすることを推奨します。

有効



\*無効



### 2.4.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔  
… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.4.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間  
転送間隔… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 2.4.5 特殊キー

デフォルトで、このインターフェースはキーボードウェッジ表で定義されたファンクションコード(0x01~0x1F)を採用しています。しかし、データエラーを避けるためにバーコード内部でこれらのファンクションコードを取り除く必要があるかもしれません。ファンクションコードを適用するかどうかを決定できます。詳細については、[キーボードウェッジ表](#)を参照してください。



## 2.5 3656 を介した RS-232

RS-232 ケーブルを使用して 3656 経由でスキャナーを PC のシリアルポートに接続し、電源供給コードを差し込みます。関連する RS-232 パラメータは、コンピュータで設定されたパラメータに適合する必要があります。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに送信されます。

RS-232 設定	デフォルト
ボーレート、データビット、パリティ、ストップビット	115200 bps、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット
フロー制御	なし
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)
ACK/NAK タイムアウト	0
ACK/NAK ビープ音	無効

### 2.5.1 RS-232 インターフェースをアクティブにする

3656 RS-232 インターフェースをアクティブにする



### 2.5.2 ボーレート

\*115200 bps



57600 bps








38400 bps



19200 bps





9600 bps	 100084
4800 bps	 100100
2400 bps	 100085
1200 bps	 100086
600 bps	 100087

### 2.5.3 データビット

*8 ビット	 100093
7 ビット	 100092

### 2.5.4 パリティ

*パリティなし	 100088
偶数	 100090
奇数	 100091



## 2.5.5 ストップビット

2 ストップビット



100099

\*1 ストップビット



100098

## 2.5.6 フロー制御

デフォルトで、フロー制御はありません。フロー制御(ハンドシェイク)を選択してください。

オプション	説明
なし	フロー制御なし
スキャナーレディ	電源が ON になると、スキャナーは RTS 信号をアクティブにします。それぞれの Good Read (グッドリード)の後、スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは送信されません。
データレディ	それぞれの Good Read の後、RTS 信号がアクティブにされます。スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは送信されません。
反転したデータレディ	RTS 信号レベルが反転していることを除き、データレディフロー制御と同じように機能します。

\*なし



100094

スキャナーレディ



100095

データレディ



100096

反転データレディ



100097



### 2.5.7 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロです。コンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.5.8 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。



- 1) 上でこのバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 2.5.9 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに送信した後にさらに多くのデータを送信します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの送信をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

… (\*0~99)後の  
ACK/NAK タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを送信しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## ACK/NAK エラービープ音

エラービープを有効にする



\*エラービープを無効にする



注記：ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。



## 2.6 3656 を介した USB HID

USB HID の場合、USB ケーブルを使用して 3656 経由でスキャナーを PC の USB ポートに接続し、電源供給コードを差し込みます。コンピュータでテキストエディタを実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに送信されます。

警告： 3656 スタンドが USB 電源にのみ接続されている場合、機能を正常に発揮するだけの電流量がありません。電源供給コードを接続する必要があります。

HID 設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット送信	大文字と小文字を区別する
数字送信	英数字キーパッド
漢字送信	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

### 2.6.1 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する

USB HID インターフェースがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。

3656 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する…



100005

- 1) 上のバーコードを読み取って、USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



**USB HID**

デフォルトで、キーボードタイプは PCAT (US) に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされています。

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
64	PCAT (US)	72	PCAT (スペイン語)
65	PCAT (フランス語)	73	PCAT (ポルトガル語)
66	PCAT (ドイツ語)	74	PS55 A01-2 (日本語)
67	PCAT (イタリア語)	75	ユーザー定義の表
68	PCAT (スウェーデン語)	76	PCAT (トルコ語)
69	PCAT (ノルウェー語)	77	PCAT (ハンガリー語)
70	PCAT (UK)	78	PCAT (スイスドイツ語)
71	PCAT (ベルギー)	79	PCAT (オランダ語)



## 2.6.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット送信
- ▶ 数字送信
- ▶ 漢字送信

### アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、Mの文字を送信しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。

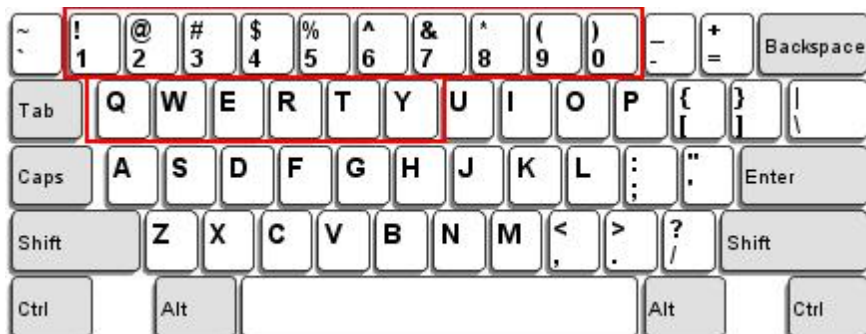


注記：選択したキーボードタイプが PCAT (US) などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



### US キーボードスタイル – 通常

QWERTY レイアウト。通常、西洋諸国で使用されています。



▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

### フランス語キーボードのスタイル – AZERTY

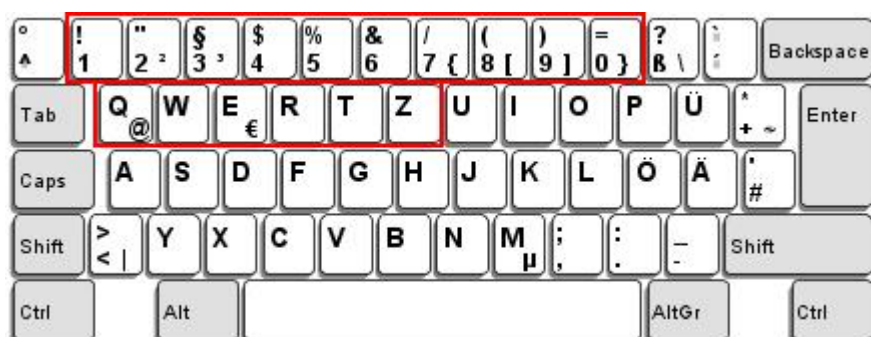
フランス語レイアウト。フランス語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。

### ドイツ語キーボードのレイアウト – QWERTZ

ドイツ語レイアウト。ドイツ語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。





### 数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
上方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
下方の段	AZERTY キーボードの場合

\*通常



100046

上方の段



100049

下方の段



100048

### キャップスロックタイプと設定

。設定を間違えると、送信されるアルファベットの大文字・小文字が反対になります。

キャプロックタイプ	説明
通常	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

\*通常



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044



キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが送信される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



キャップスロック ON



\*キャップスロック OFF



## アルファベット送信

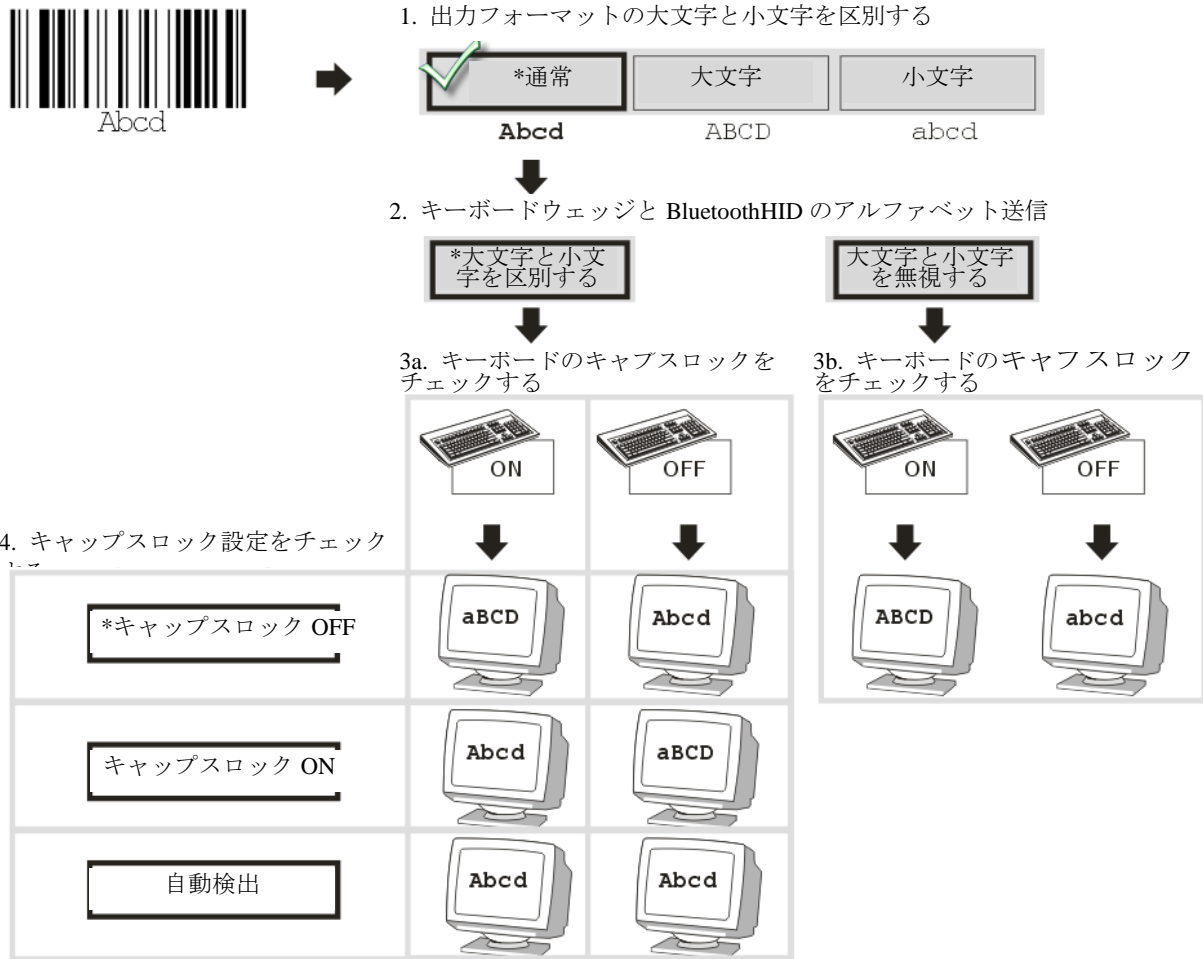
デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップスロックのステータス、およびキャップスロック設定に従って送信されます。キーボードのキャプチャ1ロックのステータスのみに従ってアルファベットを送信するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視



\*大文字と小文字を区別する





### 数字送信

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の送信に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。





注記：「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。

### 漢字送信

漢字送信は Bluetooth HID、3656 を介したキーボードウェッジまたは 3656 を介した USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字送信により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S. を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用される中国文字を含め、日本語の文字を送信することができます。

デフォルトで、漢字送信は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字送信を有効/無効にする：

有効



\*無効



### 2.6.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべての文字間に挿入され、間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔  
… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.6.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間  
転送間隔… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.6.5 HID 文字送信モード

デフォルトで、HID インターフェースはホストヘデータをバッチ単位で送信します。スキャナーに「文字単位で」バーコードを読み取らせ、一度に 1 文字ずつデータを処理することができます。

\*バッチ処理



文字単位で



## 2.6.6 特殊キー

デフォルトで、このインターフェースはキーボードウェッジ表で定義されたファンクションコード(0x01~0x1F)を採用しています。しかし、データエラーを避けるためにバーコード内部でこれらのファンクションコードを取り除く必要があるかもしれません。特殊キーを適用するかどうかを決定できます。詳細については、[キーボードウェッジ表](#)を参照してください。

\*適用



100018

バイパス



100019

## 2.6.7 3656 を介した USB HID の自動再接続

ペアリング済みのデバイスを切断した後に再接続する場合、スキャナーを自動的に再接続するかどうかを決定できます。

\*直ちに自動再接続



100168

データスキャンした時に自動再接続



100169

自動電源 OFF



100170



## 2.7 3656 を介した USB VIRTUAL COM

USB ケーブルを使用して 3656 経由でスキャナーを PC の USB ポートに接続し、電源供給コードを差し込みます。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに送信されます。

警告： 3656 スタンドが USB 電源にのみ接続されている場合、機能を正常に発揮するだけの電流量がありません。電源供給コードを接続する必要があります。

注記： 初めて USB Virtual COM を使用する場合、前もってそのドライバをインストールする必要があります。バージョン 5.4 以降のドライバが必要です。古いバージョンを削除してください！

### 2.7.1 USB VIRTUAL COM をアクティブにする

3656 USB Virtual  
COM をアクティブにする



### 2.7.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード (0x01 ~ 0x1F) 間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間  
転送間隔… (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### 2.7.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに送信した後にさらに多くのデータを送信します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの送信をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

… (\*0~99)後の  
ACK/NAK タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを送信しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### ACK/NAK エラービープ音

エラービープを有効にする



\*エラービープを無効にする



注記：ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。

### 2.7.4 3656 を介した USB VCOM 自動再接続

ペアリング済みのデバイスを切断した後に再接続する場合、スキャナーを自動的に再接続するかどうかを決定できます。

\*直ちに自動再接続



データスキャンした時に自動再接続



自動電源 OFF

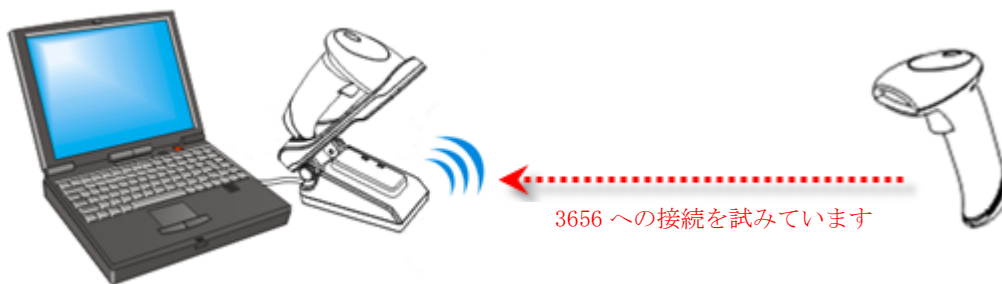




## WPAN 接続をセットアップする

1564 スキャナーはデータを、3656 スタンドを介してワイヤレスでホストコンピュータに、または Bluetooth®ワイヤレス技術で、ノート PC や PDA に送信するように設定できます。電源を ON にすると、スキャナーは WPAN 接続を確立する準備ができます。

「接続の設定」と「シリアル番号」ラベルを読み取ったのち、3656 を介して接続を確立するには ...



インターフェースオプション	参照
キーボードウェッジ	<a href="#">2.4 3656 を介したキーボードウェッジ</a>
RS-232	<a href="#">2.5 3658 を介した RS-232</a>
USB HID	<a href="#">2.6 3656 を介した USB HID</a>
USB Virtual COM	<a href="#">2.7 3656 を介した USB Virtual COM</a>

ペアリング後 Bluetooth®ドングルを介して接続を確立するには...



インターフェースオプション	参照
BT HID	<a href="#">2.1 BT HID</a>
BT SPP	<a href="#">2.2 BT SPP スレーブ</a> , <a href="#">2.3 BT SPP マスター</a>



## 本章の目次

---

3.1 3656 を介して接続する .....	97
3.2 Bluetooth®ドングル経由の接続 .....	100



### 3.1 3656 を介して接続する

デフォルトで、スキャナーは「USB HID」に設定されています。インターフェースケーブルを使用し、3656 経由で PC に接続します。7 台までのスキャナーを 1 台のコンピュータに同時に接続できます。

注記：初めて USB Virtual COM を使用する場合、前もってそのドライバをインストールする必要があります。バージョン 5.4 以降のドライバが必要です。古いバージョンを削除してください！

#### 3.1.1 3656 に接続する

##### 2つの設定バーコードを順番にスキャンすることで

3656 の背部にある 2 枚のバーコードラベルを読み取ることで、スキャナーを 3656 に接続します。それぞれのラベルを読み取る際、スキャナーは 1 回のビープ音を返します。

- ▶ 「Set Connection (接続の設定)」ラベル
- ▶ 「Serial Number (シリアル番号)」ラベル

これらのラベルを読み取った後、スキャナーは一定時間(デフォルトで 2 分) 3656 への接続を試みます。その間、LED は青色に点滅します(ON/OFF 比 0.5 s: 0.5 s)。接続されると、スキャナーは 3 回のビープ(低から高へ上がるトーン)音を返し、LED は青色に点滅します(ON/OFF 比 0.02 s: 3 s)。通信領域外になると、スキャナーは 3 回のビープ音(高から低へ下がるトーン)を返します。

使用法:

まず、「接続の設定」バーコードを、続いて「シリアル番号」バーコードを読み取ります。3656 の「接続の設定」バーコードが読みにくい場合、これを試してみてください。

接続の設定



注記：3656 設定は、現在 3656 に接続されているスキャナーでインターフェース関連の設定を上書きします。

##### 1つの設定バーコードをスキャンすることで

ユーザーは、「Set Connection(接続の設定)」と「3656 Serial Number(3656 シリアル番号)」セットアップコマンドを結合してターゲットデバイスと接続する、1 つの ID セットアップバーコードを生成することができます。大文字/小文字から成る「SeTc0n」とバーコードは Code 128 のシンボル体系でなければならないことにご留意ください。

使用法:

1 つの「SeTc0nxxxxxxxxx」1D バーコードを読み取ります。スキャナーはバーコードを読み取る際、1 回のビープ音を返します。

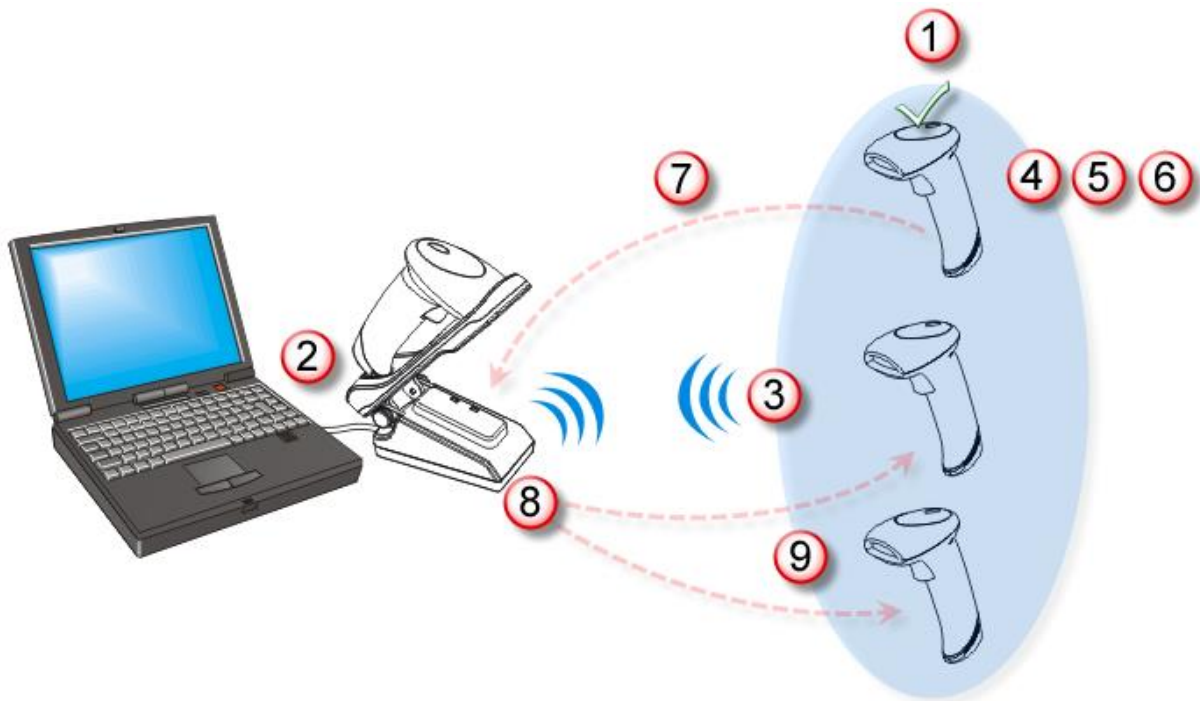


### 3.1.2 インターフェースの変更

3656 のインターフェースケーブルを変更したい場合、スキャナーのどれか 1 台を使用してインターフェース関連の設定を行って新しい設定を 3656 にパスします。設定は初期化され、接続された他のスキャナーにパスされます。

- 1) スキャナーに、3656 の背面にある「接続の設定」と「シリアル番号」ラベルを読み取らせます。
- 2) 2 分以内に、3656 とコンピュータをインターフェースケーブルで接続します。USB Virtual COM の場合、最初にそのドライバをインストールする必要があります。
- 3) スキャナーは、3656 を介してコンピュータに接続されます。
- 4) 設定モードに入るには、1 台のスキャナーに「セットアップに入る」バーコードを読み取らせます。
- 5) スキャナーに目的のインターフェースバーコードを読み取らせ、その関連する設定を行います –
  - ▶ 「キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する」
  - ▶ 「RS-232 をアクティブにする」
  - ▶ 「USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選する」
  - ▶ 「USB Virtual COM をアクティブにする」
- 6) 設定モードを終了するには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせます。
- 7) スキャナーが 3656 との接続を再開した後、3656 にインターフェース関連の設定をパスします。
- 8) 新しい設定を受け取ると、3656 は自動的に初期化します。
- 9) 新しい設定で更新された 3656 は、設定を接続された他のスキャナーにパスします。





### 3.1.3 スニフモード

#### スニフモード(省電力)

デフォルトで、この機能は有効になっています。つまり、スキャナーは低速でワイヤレスネットワークをリスンします。

\*有効



無効



## 3.2 BLUETOOTH® ドングル経由の接続

### 3.2.1 インターフェースの変更

以下は、Bluetooth® ドングル経由で WPAN 接続を確立する前にスキャナーを設定する手順です。

- 1) 設定モードに入るには、スキャナーに「セットアップに入る」バーコードを読み取らせます。
- 2) スキャナーに目的のインターフェースバーコードを読み取らせます。
  - ▶ 「BT HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する」
  - ▶ 「BT SPP スレーブモードをアクティブにする」
  - ▶ 「BT SPP マスターモードをアクティブにする」
- 3) スキャナーに Device Name Broadcasting(デバイス名のブロードキャスト)、Authentication & PIN Code(認証と PIN コード)などの WPAN 設定に関連するバーコードを読み取ります。
- 4) 設定モードを終了するには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせます。
- 5) スキャナーは一定時間(デフォルトで 2 分間)アクティブな状態を保ってホスト(SPP スレーブモード)からの接続要求を待つかホスト(HID または SPP マスターモード)への接続を試みます。CPU は高速で実行され、LED は青色に点滅します(ON/OFF 比 0.5 s: 0.5 s)。

一旦接続された後で、通信領域外になると、スキャナーは 3 回のビープ音(高から低へ下がるトーン)を返します。



### 3.2.2 スニフモード

#### スニフモード(省電力)

デフォルトで、この機能は有効になっています。つまり、スキャナーは低速でワイヤレスネットワークをリッスンするという事です。



注記：2台以上のスキャナーを *Bluetooth*®ワイヤレス技術によりノート PC や PDA に接続しているとき、より信頼性の高い接続を確立するために省電力設定を無効にすることをお勧めします。

#### デバイス名でのブロードキャスト

スキャナーは、*Bluetooth*®ワイヤレス技術を搭載した他のデバイスからそれ自体を非表示にするように設定できます。他のコンピュータまたは PDA により検出されないように、デバイス名のブロードキャスト名を無効にします。しかし、スキャナーとの初期接続を確立するためにはブロードキャストを有効にする必要があります。例えば、WorkStation1 にスキャナーが正常に接続された後に、デバイス名のブロードキャストを無効にできます。スキャナーが WorkStation1 によってペアリングされたデバイスリストから削除されない限り（ペアリング解除と呼ばれる）または認証と PIN コードが変更されない限り、このような接続は自動的に保持されます。WorkStation2 をスキャナーに接続する場合、まずデバイス名のブロードキャストを有効にする必要があります。



注記：デフォルトで、デバイス名ブロードキャストは有効になっています（初期接続で要求されます）。



### Bluetooth 名を変更する

デフォルトで、デバイス名(ローカルのホスト名)はモデル名をシリアル番号(例えば、1564BH3000001)に結びつけます。デバイス名は、13 バイト以内で設定できます。

Bluetooth ローカルホ  
スト名の変更



- 1) デバイス名を設定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### 認証

スキャナー側で認証と PIN コードに対して変更が行われると、ペアリング済みデバイスリストからスキャナーを削除し(ペアリング解除と呼ばれる)、プロセス全体を経て接続を再確立する必要があります。

スキャナーは1つのPINコードに対して16文字まで読み取り、認証に対して次の2つのオプションを提供します。





### プリセット PIN で認証を有効にする

スキャナーに「プリセット PIN の使用」バーコードを読み取り、必要に応じてプリセット PIN を変更します。つまり、スキャナーに接続するにはお使いのコンピュータまたは PDA とまったく同じ文字列を入力する必要があります。PIN またはパスキーが間違っていると、接続はスキャナーにより拒絶されます。[3.2.3 ドングルへの接続](#)でステップ 8 を参照してください。

1. プリセット PIN で認証を有効にするには、「プリセット PIN の使用」バーコードを読み取ります。

プリセット PIN の使用



2. PIN コードを指定するにはバーコードのいずれかを、10 進数または 16 進数で読み取ります。デフォルトで、PIN コードは「0000」に設定されています。16 文字までが許可されます。

16 進数で PIN を入力する ...



10 進数で PIN を入力する...



3. 「[10 進値](#)」バーコードを読み取るか、目的の桁数または文字列の場合「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。

PIN コードを再入力する必要がある場合、最初に「PIN コードの消去」バーコードを読み取ります。

PIN コードの消去



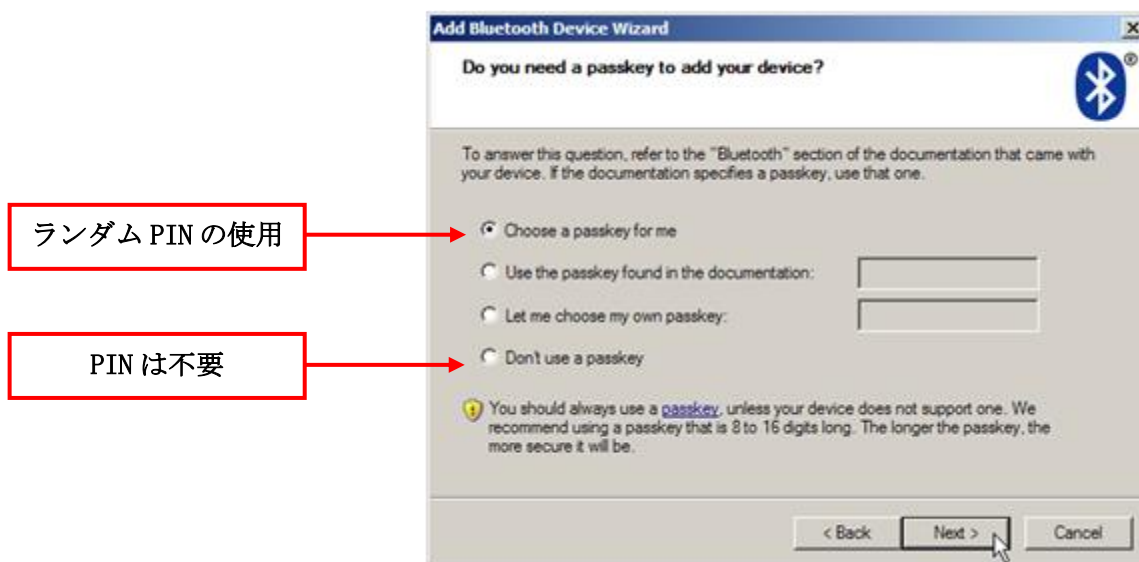
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### ランダム PIN で認証を有効にする、または認証なし

デフォルトで、ターゲットデバイスの設定によっては「No PIN or use random PIN(PIN なしまたはランダム PIN の使用)」に設定されています。(PIN なし = 認証なし。)

\*PIN なしまたはランダム PIN の使用





注記： BT HID を使用しているとき、デバイスドライバが認証用の定義済み PIN コードをサポートしないことがあります。この場合、ペアリング前にスキャナーを「PIN なしまたはランダム PIN の使用」に設定していることを確認してください。ペアリング中、ホスト PIN コードはコンピュータ画面に表示されます。スキャナーに「10 進法で PIN コードを入力する」または「16 進法で PIN コードを入力する」のセットアップバーコードを読み取らせ、一致する PIN コードを入力します。[認証を無効にするまたはランダム PIN を使用する](#)を参照してください。

### 安全なシンプルペアリング(SSP)

Bluetooth® Core Specification 2.1 + EDR に導入されたセキュアシンプルペアリング (SSP) は、コミュニケーションセキュリティレベルを上げると同時にペアリングプロセスを容易にするように設計された新機能です。デフォルトで、この機能は無効になっています。



### 3.2.3 ドングルへの接続


手順は WPAN 接続を確立するための関連するデバイスにまたがっており、使用中のソフトウェアを除きほとんどが同じです。お使いのコンピュータが Microsoft® Windows® XP Service Pack 3 (SP3) または Windows Vista® Service Pack 1 (SP1) を実行している場合、Windows® に含まれるソフトウェアサポートを使用するか、デバイスメーカーが提供するドライバを使用することができます。では、Windows® XP Service Pack 2 に含まれるソフトウェアサポートを試してみましょう。

#### BT HID 手順

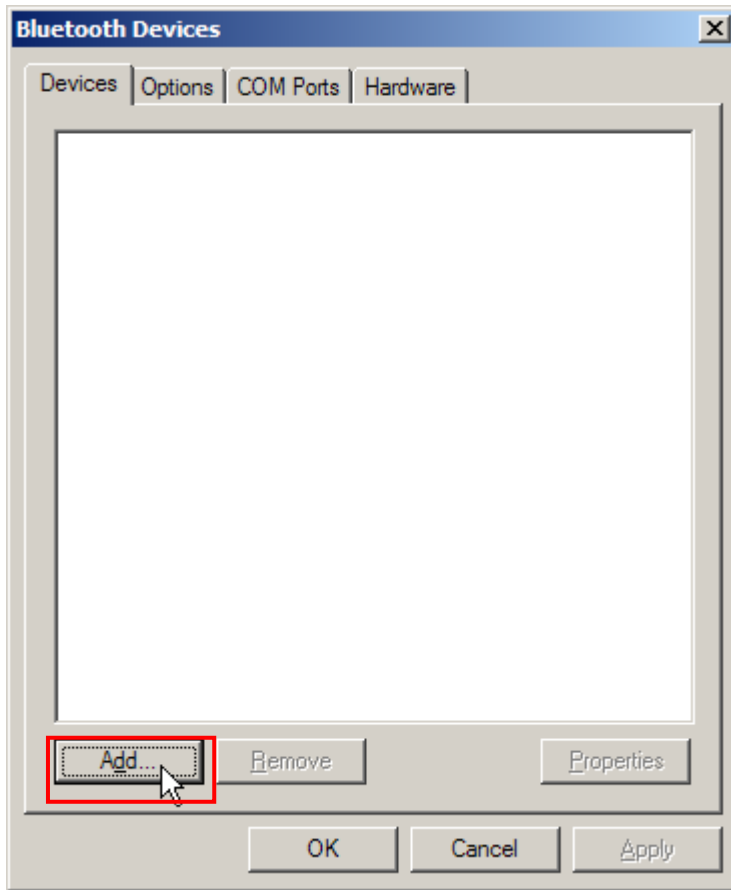
デフォルトで、BT HID はスキャナー上でアクティブになっており、キーボードタイプは PCAT (US) に設定されています。BT HID インターフェースが再びアクティブにされた場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。

手順は BT SPP と同じです。以下のステップ 1~11 を参照してください。

#### BT SPP 手順

1. Windows XP SP2 を実行しているコンピュータで、Bluetooth®機能を ON にします。
2. タスクバーの右下から Bluetooth®アイコンをダブルクリックします。  または、コントロールパネル > Bluetooth デバイスの順にクリックすることもできます。
3. [追加]をクリックして近くのデバイスを検索します。





4. スキャナーを select BT SPP や BT HID、有効にしたブロードキャスト、有効にした認証、指定された PIN コードなどの正しい WPAN 設定で ON にします。コンピュータで[マイデバイスは設定され検出の準備ができています]のチェックボックスを選択します。
5. [次へ]をクリックします。

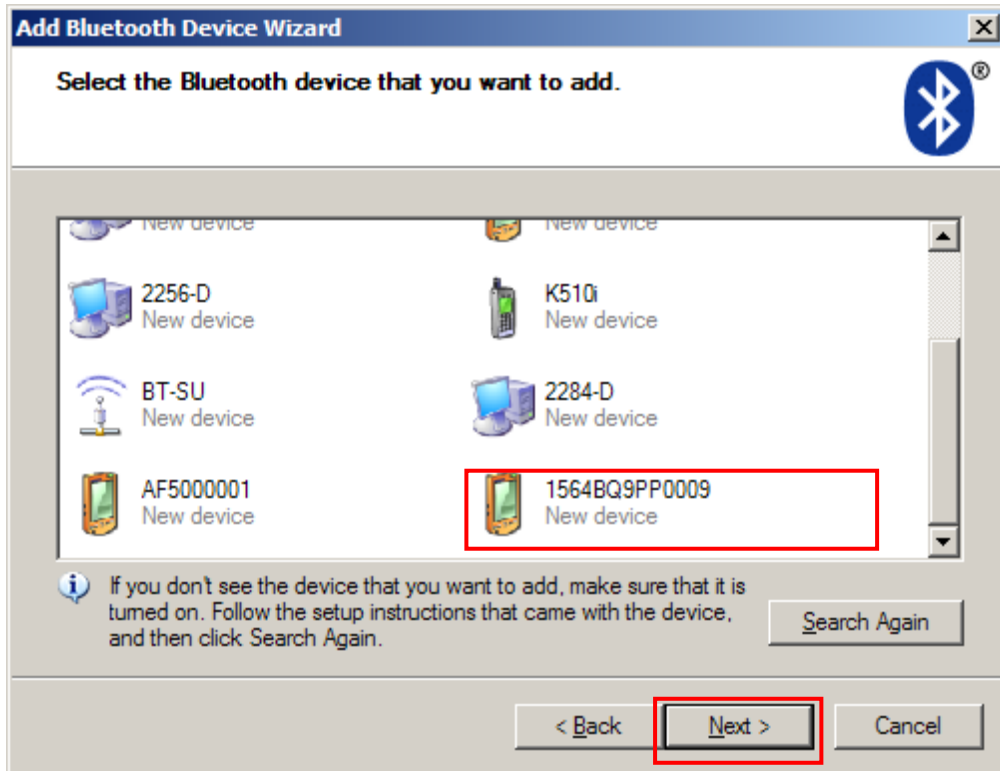




6. ウィザードが近くの使用可能なデバイスを検索するまで、数秒待ちます。
- スキャナーはデバイス名としてその「シリアル番号」で表示されます。スキャナーの「シリアル番号」ラベルをダブルクリックして、正しいスキャナーに接続していることを確認する必要があります。ターゲットのスキャナーを選択します。ターゲットのスキャナーがリストに表示されない場合、[再検索]をクリックしてリストをリフレッシュします。スキャナーはサスペンドモードに入っている可能性があるため、トリガーを押して再びアクティブにできます(=発券可能)。スキャナーは一定時間(デフォルトで2分間)アクティブな状態を保つので、PCが接続を確立するまで待ちます。

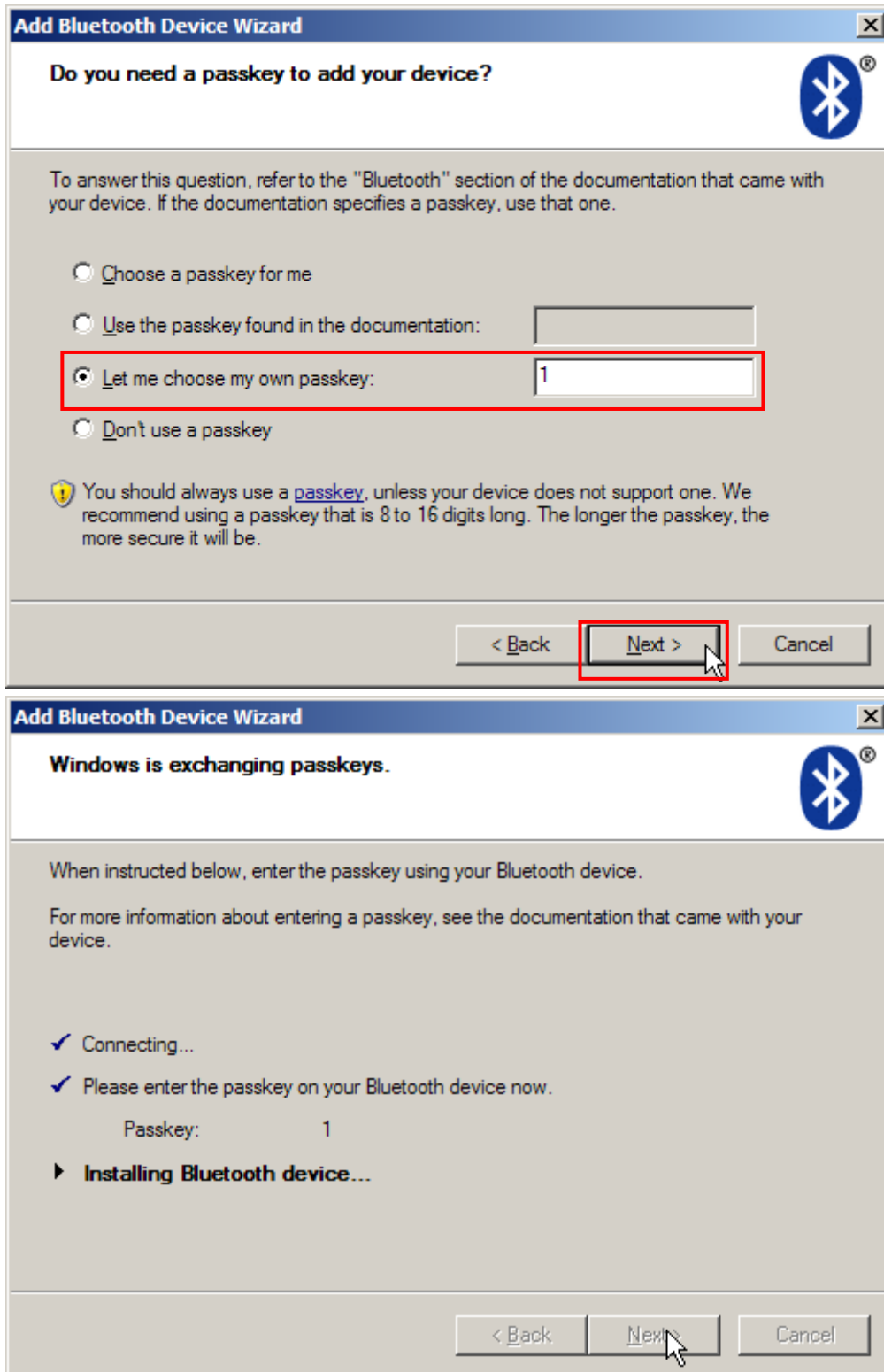


7. [次へ]をクリックします。



8. スキャナー用に設定されたものとまったく同じ、認証用のパスキーを入力します。
9. [次へ]をクリックします。Windows がパスキーを変換する間、数秒待ちます。

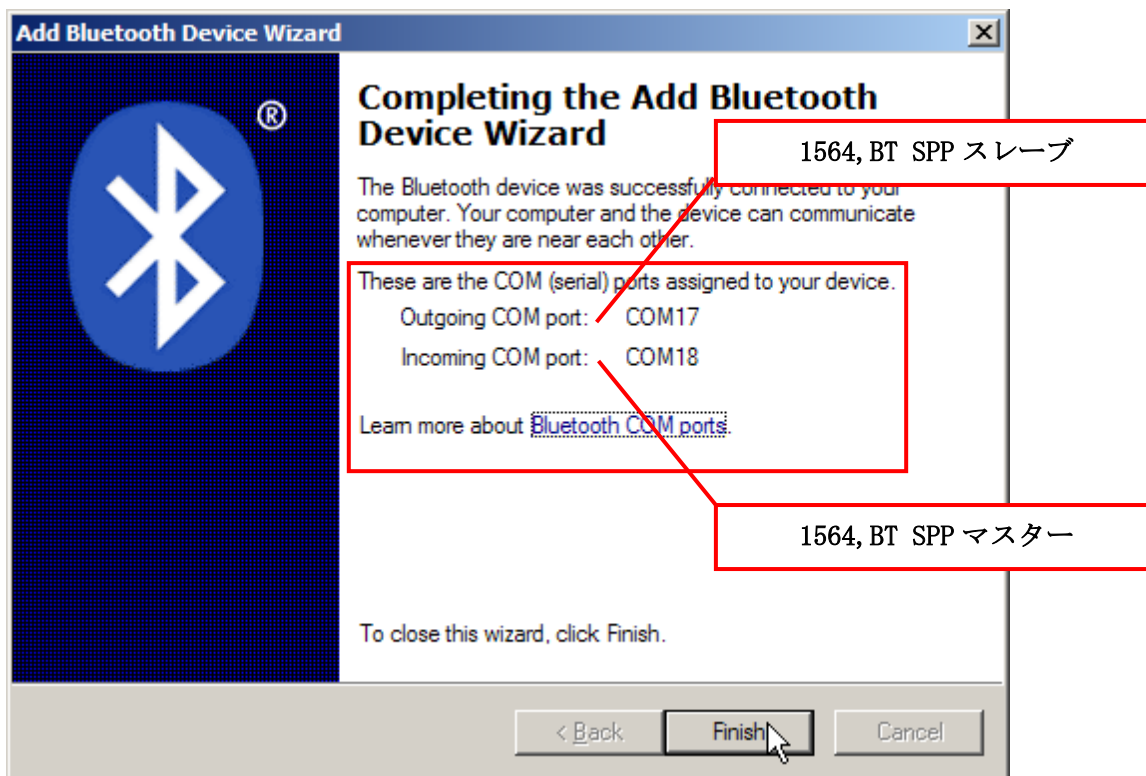




Note: Bluetoothセキュリティがプリセット PIN コードを提供せずに有効になると、PIN コードのダイナミック入力がサポートされます。



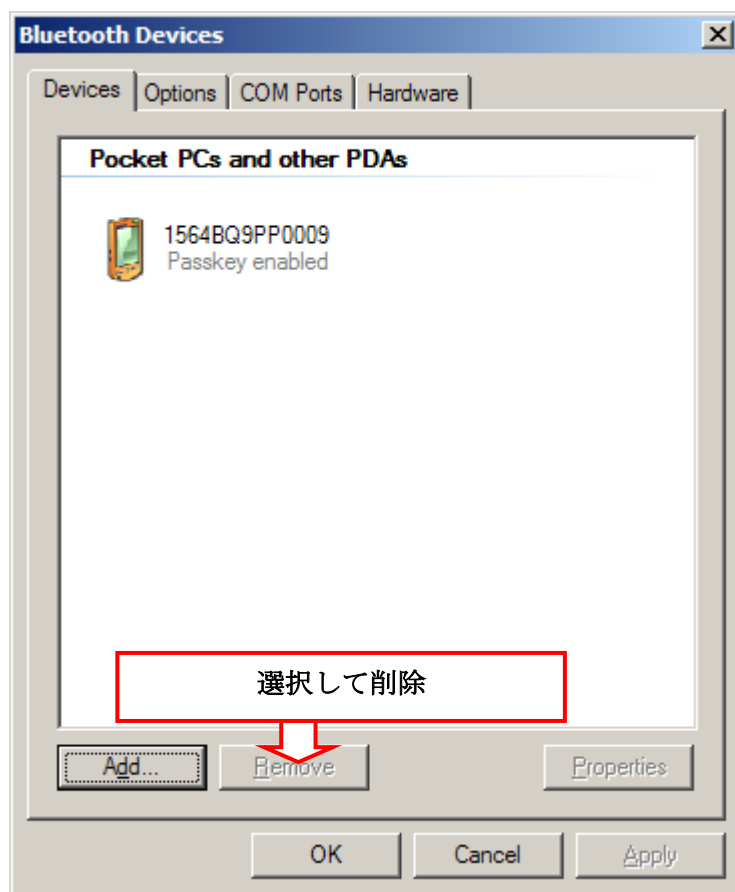
10. [終了]をクリックします。



11. ターゲットのスキャナーが以下に示すようにリストアップされます。  
7台までのスキャナーを1台のコンピュータに同時に接続できます。







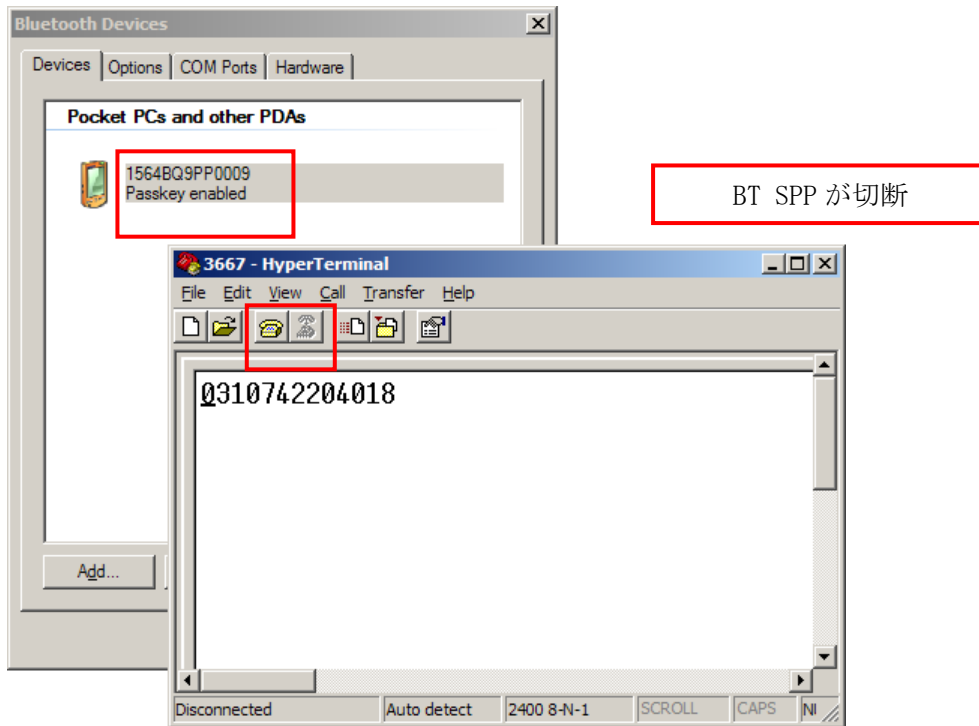
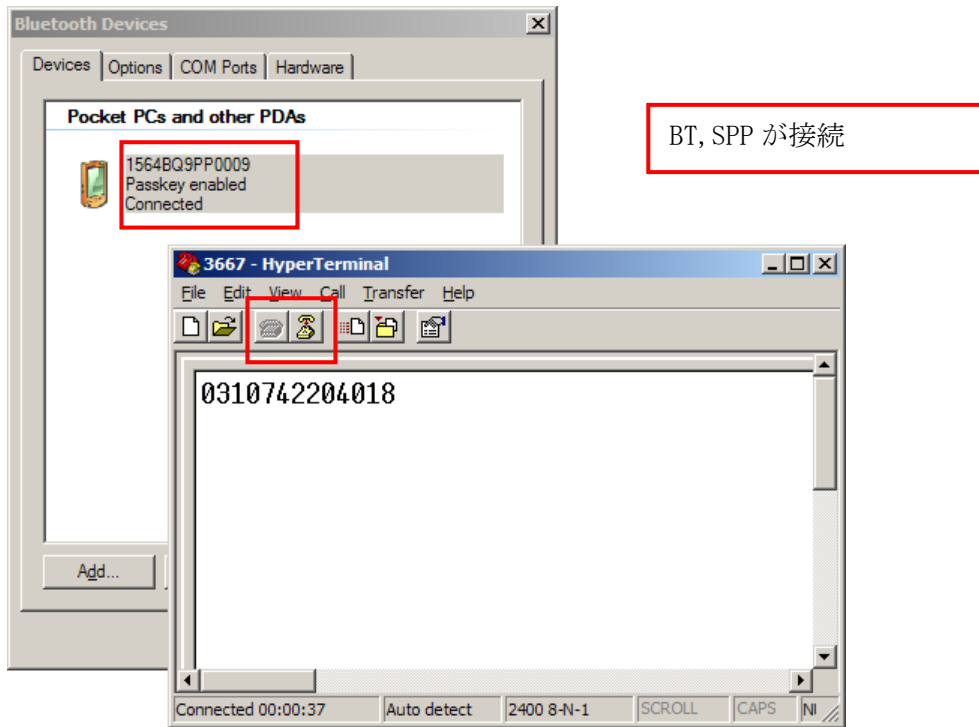
注記： スキャナー側で認証と PIN コードに対して変更が行われた場合、または BT HID の使用を変更したい場合、ペアリング済みデバイスリストからスキャナーを削除し（ペアリング解除と呼ばれる）、プロセス全体を経て接続を再確立する必要があります。

12. コンピュータで目的のアプリケーション（BT SPP を使用している場合は HyperTerminal.exe、または BT HID を使用している場合は Notepad.exe など）を実行します。

デバイスリストにリストアップされたスキャナーのステータスは「Connected（接続済み）」に更新され、WPAN 接続が BT SPP を使用している場合、送信 COM ポート経由で接続が正常に確立されたことを示します。

注記： スキャナーが認証を無効にされたホストに接続されている場合でも（= PIN コードは不要）、アプリケーションが COM ポートを開いている間ホストが PIN コードを要求することがあります。スキャナーで一致する PIN コードを入力できるように PIN コードのダイナミック入力がサポートされます。[認証を無効にするまたはランダム PIN を使用する](#)を参照してください。





## シンボル体系の設定を変更する

---

本章では、参照のためにシンボル体系の設定を簡単に説明します。

### 本章の目次

---

4.1 Codabar .....	114
4.2 Code 25 – Industrial 25 .....	116
4.3 Code 25 – Interleaved 25 .....	117
4.4 コード 25 – Matrix 25 .....	119
4.5 コード 25 – Chinese 25 .....	121
4.6 Italian Pharmacode (Code 32) .....	121
4.7 Code 39.....	121
4.8 Trioptic Code 39.....	123
4.9 Code 93.....	124
4.10 Code 128.....	125
4.11 GS1-128 (EAN-128) .....	125
4.12 ISBT 128.....	128
4.13 GS1 DataBar (RSS ファミリー) .....	130
4.14 MSI.....	136
4.15 EAN-8.....	138
4.16 EAN-13.....	139
4.17 UCC Coupon 拡張型コード .....	143
4.18 UPC-A.....	144
4.19 UPC-E.....	146
4.20 Code 11.....	149
4.21 Composite Code(コンポジットコード) .....	151
4.22 US Postal コード .....	154
4.23 UK Postal コード .....	155
4.24 その他の郵便番号.....	155
4.25 2D シンボル体系 .....	157
4.26 Macro PDF.....	162



## 4.1 CODABAR

\*有効



100313

無効



100312

### 4.1.1 スタート/ストップ文字の送信

送信されるデータにスタート/ストップ文字を含めるかどうか決定します。

スタート/ストップ文字  
を送信する



100441

\*送信しない



100440

### 4.1.2 CLSI 変換

有効になっているとき、CLSI 編集はスタート/ストップ文字を取り去り、14 文字コーダバーの最初、5 番目、10 番目の文字の後にスペースを挿入します。

CLSI 編集を適用



100443

\*適用しない



100442

注記：14 文字のバーコード長に、スタート/ストップ文字は含まれません。



## 4.1.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の中間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長 (1~55) を  
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (\*55) または固定  
長 1



最小長 (\*4) または固定  
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.2 CODE 25 — INDUSTRIAL 25



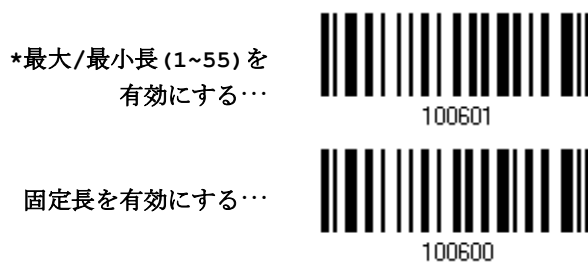
### 4.2.1 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

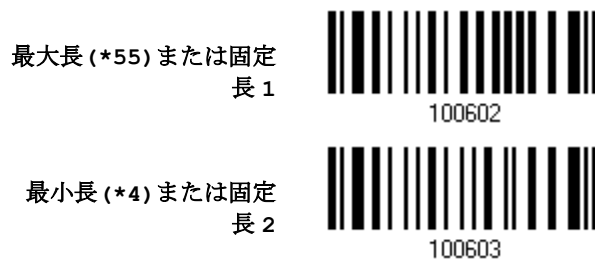
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### 4.3 CODE 25 — INTERLEAVED 25



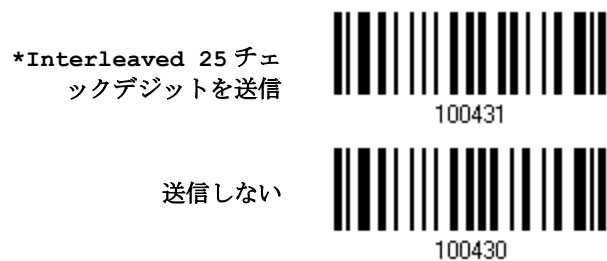
#### 4.3.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。、USS または OPCC アルゴリズムのいずれかを選択します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。



#### 4.3.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。



#### 4.3.3 EAN-13 に変換する

次の要件が満たされる場合、14 文字バーコードを EAN-13 に変換するかどうかを決定します。



- ▶ バーコードには先頭の0と有効なEAN-13チェックデジットが付いている必要があります。
- ▶ 「Verify Check Digit (チェックデジットの確認)」を無効にする必要があります。

EAN-13 に変換



102101

\*変換しない



102100

#### 4.3.4 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の中間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長 (1~55) を  
有効にする…



100605

固定長を有効にする…



100604

- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (\*55) または固定  
長 1



100606

最小長 (\*4) または固定  
長 2



100607

- 3) 目的の長さについては、[10進値](#) バーコード を読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。





## 4.4 コード 25 — MATRIX 25

有効



100311

\*無効



100310

### 4.4.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

Matrix 25 チェックデジットを確認



100433

\*確認しない



100432

### 4.4.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*Matrix 25 チェックデジットを送信



100435

送信しない



100434

### 4.4.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、



指定された最大/最小長の中に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。

- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長(1~55)を  
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長1のバーコードを読み取り、手順3~4に従います。  
最小長または固定長2に対して手順2~4を繰り返します。

最大長(\*55)または固定  
長1



最小長(\*4)または固定  
長2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



#### 4.5 コード 25 — CHINESE 25



#### 4.6 ITALIAN PHARMACODE (CODE 32)



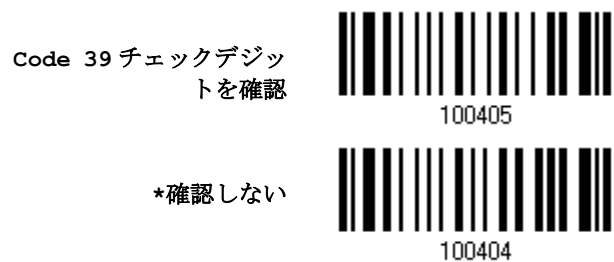
注記：最初に Code 39 を有効にする必要があります。

#### 4.7 CODE 39



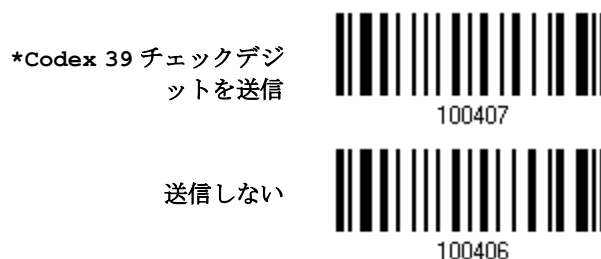
##### 4.7.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットが間違っている場合、バーコードは受け入れられません。



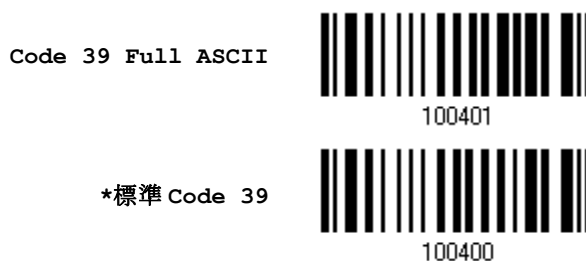
## 4.7.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。



## 4.7.3 標準/FULL ASCII (フルアスキー) CODE 39

すべての英数字と特殊文字を含む Code 39 Full ASCII をサポートするかどうかを決定します。



注記： Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII は、同時に有効にすることができません。

## 4.7.4 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。



\*最大/最小長 (1~55) を有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
 最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (\*55) または固定長 1



最小長 (\*4) または固定長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。  
 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## 4.8 TRIOPTIC CODE 39

Trioptic Code 39 をデコードするかどうかを決定します。

- ▶ Trioptic Code 39 は、コンピュータタップカートリッジのマーキングで使用される Code 39 の異形です。常に 6 つの文字が含まれます。

有効



\*無効



注記: Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII は、同時に有効にすることができません。



## 4.9 CODE 93

\*有効



100315

無効



100314

### 4.9.1 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長 (1~55) を  
有効にする…



102226

固定長を有効にする…



102225

- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (\*55) または固定  
長 1



102227

最小長 (\*4) または固定  
長 2



102228

- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.10 CODE 128



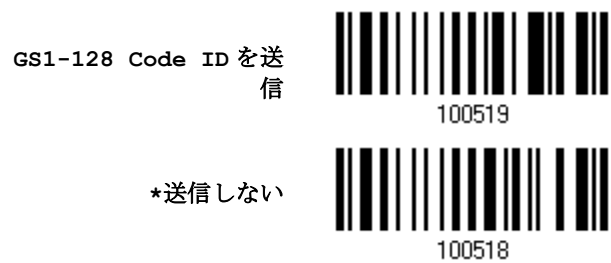
## 4.11 GS1-128 (EAN-128)



注記：GS1-128 バーコードは、設定が有効なときのみデコードできます。

### 4.11.1 CODE ID を送信する

送信されるデータに Code ID (「JCI」) を含めるかどうかを決定します。



### 4.11.2 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り文字(FNC1 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。

フィールド区切り記号を  
有効にする



- 1) フィールド区切り文字を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

注記：GS1-128 バーコードは Code 128 の他の使用と混同されないように FNC1 制御文字で始まります。FNC1 は、GS1-128 バーコードのデータフィールドを区切るするためにも使用されます。

### 4.11.3 GS1 フォーマット

GS1-128 の GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、Code ID の送信は無効になります。しかし、フィールド区切り文字とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマット  
を有効にする



\*GS1 フォーマット  
を無効にする



GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的でアプリケーション識別子(AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1文字長)を追加することができます。

AIMark1



AIMark2





- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.12 ISBT 128

\*有効



無効



### 4.12.1 ISBT 連結

ISBT バーコードのペアをデコードし連結するかどうかを決定します。

- ▶ ISBT 連結を無効にする  
発生する ISBT バーコードのペアを連結しません。
- ▶ ISBT 連結を有効にする  
スキャナーがデコードし連結を実行するには、2 つの ISBT バーコードがなければなりません。ISBT バーコードが 1 つの場合はデコードしません。
- ▶ ISBT 連結の自動識別  
ISBT バーコードのペアを直ちにデコードして連結します。ISBT バーコードが 1 つしか存在しない場合、スキャナーはそのデータを送信する前に 10 回デコードして追加の ISBT バーコードがないことを確認します。

無効



有効



\*自動識別



### 4.12.2 ISBT 連結冗長性

ISBT 連結が有効になっているとき、連結冗長性を指定します(2~20 回)。

ISBT Concatenation  
Redundancy 2~20  
(\*10) (ISBT 連結超冗長  
性 2~20 (\*10))



- 1) 連結冗長性を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の冗長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.13 GS1 DATABAR (RSS ファミリー)

これは、次の3つのグループに分類されます。

### グループ I — GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)(RSS-14)

このグループは、次で構成されます。

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)
- ▶ GS1 DataBar Truncated (データバー切詰型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked (データバー二層型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional (データバー標準二層型)

### Group II — GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型) (RSS 拡張型)

このグループは、次で構成されます。

- ▶ GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型)
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked (データバー拡張二層型)

### Group III — GS1 DataBar Limited (データバー限定型) (RSS 限定型)

このグループは、次で構成されます。

- ▶ GS1 DataBar Limited (データバー限定型)

### 4.13.1 CODE ID を選択する

使用する目的の Code ID を選択します。

- ▶ 「je0」 (GS1 DataBar Code ID)
- ▶ 「jC1」 (GS1-128 Code ID)

Use “jC1” ( 「jC1」  
を使用)



\*Use “je0” ( 「je0」  
を使用)



### 4.13.2 GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL (データバー標準型)(RSS-14)

RSS-14 & RSS 拡張型  
を有効にする  
(グループ I、II)



\*無効



GS1 DataBar Omnidirectional の GS1 フォーマットが有効になっているとき、Code ID 送信は無効になりますが、Application ID 送信は自動的に有効になります。

以下の設定はグループ I のシンボル体系に適用されます。

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)
- ▶ GS1 DataBar Truncated (データバー切詰型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked (データバー二層型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional (データバー標準二層型)

#### Code ID の送信

送信されるデータに Code ID を含めるかどうかを決定します。

\*AIM Code ID を送信



送信しない



#### Application ID の送信

送信されるデータに Code ID (「01」) を含めるかどうかを決定します。

\*RSS-14 Application  
ID を送信



送信しない



### GS1 DataBar Omnidirectional(GSI データバー標準型)の GS1 フォーマット

GS1 DataBar Omnidirectional の GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマット  
を有効にする



\*GS1 フォーマット  
を無効にする



### 4.13.3 GS1 DATABAR EXPANDED (データバー拡張型) (RSS 拡張型)

RSS-14 & RSS 拡張型を有  
効にする  
(グループ I、II)



\*無効



GS1 DataBar Expanded の GS1 フォーマットが有効になっているとき、Code ID 送信は無効になります。

以下の設定はグループ II のシンボル体系に適用されます。

- ▶ GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型)
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked (データバー拡張二層型)

### Code ID の送信

送信されるデータに Code ID を含めるかどうかを決定します。

\*RSS 拡張型 Code ID を  
送信



送信しない



### GS1 DataBar Expanded(GSI データバー拡張型)の GS1 フォーマット

GS1 DataBar Expanded の GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマット  
を有効にする



\*GS1 フォーマット  
を無効にする



### 4.13.4 GS1 DATABAR LIMITED (データバー限定型) (RSS 限定型)

RSS 限定型を有効にする  
(グループ III)



\*無効



GS1 DataBar Limited の GS1 フォーマットが有効になっているとき、Code ID 送信は無効になりますが、Application ID 送信は自動的に有効になります。

#### Code ID の送信

送信されるデータに Code ID を含めるかどうかを決定します。

\*RSS 限定型 Code ID を  
送信



送信しない



#### Application ID の送信

送信されるデータに Code ID (「01」)を含めるかどうかを決定します。

\*RSS 限定型  
Application ID を送信



送信しない



### GS1 DataBar Limited(データバー限定型)の GSI フォーマット

GS1 DataBar Limited の GSI フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマット  
を有効にする



101488

\*GS1 フォーマット  
を無効にする



101487

#### 4.13.5 UPC/EAN に変換する

これは、Composite バーコードの一部としてデコードされていない GS1 DataBar Omnidirectional および GS1 DataBar Limited バーコードにのみ適用されます。

- ▶ EAN-13 に変換: バーコードから先頭の「010」を取り去ります。  
「01」は Application ID で、次にゼロが 1 つ続く必要があります(符号化された最初の小数)。
- ▶ UPC-A に変換: バーコードから先頭の「0100」を取り去ります。  
「01」は Application ID で、次にゼロが 2 つまたは 3 つ続く必要があります(しかし、ゼロは 6 つ続かない)。

UPC/EAN に変換する



102103

\*変換しない



102102

#### 4.13.6 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り記号(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットが有効になっているとき、フィールド区切り記号はデータに自動的に追加されます。

フィールド区切り記号を  
有効にする…



100616

- 1) フィールド区切り記号を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「[確認](#)」バーコードを読み取ります。





### 4.13.7 アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI) の左 (AIMark1) または右 (AIMark2) に、Application ID マーク (1 文字長) を追加することができます。



- 1) Application ID の左 (AIMark1) / 右 (AIMark2) にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.14 MSI

有効



100345

\*無効



100344

### 4.14.1 チェックデジットを確認する

バーコードをデコードしているとき、チェックデジットを確認するために 3 つの計算の 1 つを選択します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

\*シングルモジュロ 10



100448

ダブルモジュロ 10



100449

Modulo 10 &amp; 11 (モジュロ 10 &amp; 11)



100450

### 4.14.2 チェックデジットを送信する

\*最後のデジットを送信しない



100452

両方のデジットを送信



100453

両方のデジットを送信しない



100454



## 4.14.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長 (1~55) を  
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (\*55) または固定  
長 1



最小長 (\*4) または固定  
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.15 EAN-8

### EAN-8

\*EAN-8 を有効にする  
(Addon なし)



無効



### EAN-8 Addon 2

EAN-8 Addon 2 を有効にする



\*無効



### EAN-8 Addon 5

EAN-8 Addon 5 を有効にする



\*無効



### 4.15.1 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*EAN-8 チェックデジットを送信



送信しない



## 4.16 EAN-13

### EAN-13

\*EAN-13 を有効にする  
(Addon なし)



無効



Addon 2 付きの EAN-13 バーコードをデコードするかどうかを決定します。

### EAN-13 Addon 2

EAN-13 Addon 2 を有効  
にする



\*無効



Addon 5 付きの EAN-13 バーコードをデコードするかどうかを決定します。

### EAN-13 Addon 5

EAN-13 Addon 5 を有効  
にする



\*無効



#### 4.16.1 EAN-13 ADDON モード

EAN-13 414/419/434/439 Addon モードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがない場合、414/419/434/439 で始まるバーコードはデコードされません。

##### EAN-13 414/419/434/439 Addon モード



EAN-13 378/379 Addon モードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがないとき、378/379 で始まるバーコードはデコードされません。

##### EAN-13 378/379 Addon モード



EAN-13 977 Addon モードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがないとき、977 で始まるバーコードはデコードされません。

##### EAN-13 977 Addon モード



EAN-13 978 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがないとき、978 で始まるバーコードはデコードされません。

**EAN-13 978 Addon モード**

有効



101343

\*無効



101342

EAN-13 979 Addon モードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがないとき、979 で始まるバーコードはデコードされません。

**EAN-13 979 Addon モード**

有効



101345

\*無効



101344

EAN-13 491 Addon モードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがないとき、491 で始まるバーコードはデコードされません。

**EAN-13 491 Addon モード**

有効



101347

\*無効



101346



EAN-13 529 Addon モードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードに Addon 2 または Addon 5 サフィックスがないとき、529 で始まるバーコードはデコードされません。

#### EAN-13 529 Addon モード

有効



101349

\*無効



101348

Addon 2 または Addon 5 サフィックスのないスキャン済みバーコードをデコードしているとき、スキャナーのブザーでビープ音を 2 回鳴らすかどうかを決定します

#### EAN-13 Addon モードブザー

有効



101335

\*無効



101334

### 4.16.2 ISBN に変換する

978 と 979 で開始する EAN-13 バーコードを ISBN に変換するかどうかを決定します。

EAN-13 を ISBN に変換する



100463

\*変換しない



100462





### 4.16.3 ISSN に変換する

977 で開始する EAN-13 バーコードを ISSN に変換するかどうかを決定します。

EAN-13 を ISSN に変換する



100465

\*変換しない



100464

### 4.16.4 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*EAN-13 チェックデジットを送信する



100473

送信しない



100472

## 4.17 UCC COUPON 拡張型コード

Coupon Code として、次のバーコードをデコードするかどうかを決定します。

- ▶ 数字「5」で始まる UPC-A バーコード
- ▶ 数字「99」で始まる EAN-13 バーコード
- ▶ UPC-A/EAN-128 Coupon Codes

有効



102003

\*無効



102002

注記： 要件によっては、まず UPC-A、EAN-13、EAN-128 を有効にする必要があります！



## 4.18 UPC-A

### UPC-A

\*UPC-A を有効にする  
(Addon なし)



無効



### UPC-A Addon 2

UPC-A Addon 2 を有効にする



\*無効



### UPC-A Addon 5

UPC-A Addon 5 を有効にする



\*無効



### 4.18.1 EAN-13 に変換する

UPC-A バーコード、およびその Addon を EAN-13 に拡張するかどうかを決定します。

- ▶ 変換後、データは EAN-13 フォーマットに従い、EAN-13 プログラミングセレクション(例えば、チェックデジット)が適用されます。

UPC-A を EAN-13 に変換する



\*変換しない



### 4.18.2 システム番号を送信する

送信されるデータにシステム番号を含めるかどうか決定します。

\*UPC-A システム番号を  
送信する



送信しない



### 4.18.3 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*UPC-A チェックデジ  
ットを送信する



送信しない



## 4.19 UPC-E

### UPC-E

\*UPC-E を有効にする  
(Addon なし)



無効



### UPC-E Addon 2

UPC-E Addon 2 を有効にする



\*無効



### UPC-E Addon 5

UPC-E Addon 5 を有効にする



\*無効



### 4.19.1 システム番号を選択する

普通の UPC-E バーコードのみか、あるいは UPC-E0 と UPC-E1 バーコードの両方をデコードするかどうかを決定します。

- ▶ システム番号 0 UPC-E0 バーコードをデコード
- ▶ システム番号 1 UPC-E1 バーコードをデコード

システム番号 0 と 1



100479

\*システム番号 0 のみ



100478

### 4.19.2 UPC-A に変換する

UPC-E バーコード、およびその Addon を UPC-A に拡張するかどうかを決定します。

- ▶ 変換後、データは UPC-A フォーマットに従い UPC-A プログラミングセレクション(例えば、システム番号、チェックデジット)が適用されます。

UPC-E を UPC-A に変換



100457

\*変換しない



100456

### 4.19.3 システム番号を送信する

送信されるデータにシステム番号を含めるかどうか決定します。

UPC-E システム番号を送信する



100475

\*送信しない



100474



#### 4.19.4 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*UPC-E チェックデジ  
ットを送信する



送信しない



## 4.20 CODE 11

有効



\*無効



### 4.20.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

1つの チェックデジットを確認する



2つの チェックデジットを確認する



\*確認しない



### 4.20.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

Codex 11 チェックデジットを送信する)



\*送信しない



注記： まず、「Verify Check Digit (チェックデジットの確認)」を有効にする必要があります。



### 4.20.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記： 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長 (1~55) を  
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長 (\*55) または固定  
長 1



最小長 (\*4) または固定  
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。





## 4.21 COMPOSITE CODE(コンポジットコード)

### 4.21.1 COMPOSITE CC-A/B

Composite CC-A/Bを有効にする



\*無効



Composite CC-A/Bに対してGS1 フォーマットを有効にするか決定します。有効の場合、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます

GS1 フォーマットを有効にする



\*GS1 フォーマットを無効にする



### 4.21.2 COMPOSITE CC-C

Composite CC-Cを有効にする



\*無効



Composite CC-Cに対してGS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマットを有効にする



\* GS1 フォーマットを無効にする



### 4.21.3 COMPOSITE TLC-39

Composite TLC-39を有効にする



\*無効



### 4.21.4 UPC COMPOSITE モード

UPC バーコードは1つのバーコードであるかのように、2D バーコードに「リンクすることができます。

- ▶ UPC をリンクしない  
2D バーコードが検出されているかどうかに関係なく、UPC バーコードを送信します。
- ▶ UPC を常にリンク  
UPC バーコードと 2D 部分を送信します。2D 部分が検出されない場合、UPC バーコードは送信されません。

注記：CC-A/B または CC-C を有効にする必要があります！

- ▶ UPC Composite を自動識別する：2D 部分だけでなく UPC バーコードも送信します。

UPC をリンクしない



UPC を常にリンクする



自動識別



#### 4.21.5 UCC/EAN COMPOSITE CODE 用の GS1-128 エミュレーションモード

UCC/EAN Composite Code のデータが、GS1-128 バーコードでエンコードされたかのように送信するかどうかを決定します。



#### 4.21.6 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り記号(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットが有効になっているとき、フィールド区切り記号はデータに自動的に追加されます。



- 1) フィールド区切り記号を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

#### 4.21.7 アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI) の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加します。GS1 フォーマットが有効のとき、Application ID マークは自動的に追加されます。



- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 「[16進法](#)」バーコードを読み取ります。AI マークを削除する場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 4.22 US POSTAL コード

### 4.22.1 US POSTNET

\*US Postnet を有効にする



無効



### 4.22.2 US PLANET

\*US Planet を有効にする



無効



### 4.22.3 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*US Postal チェックデジットを送信する



送信しない



## 4.23 UK POSTAL コード

### 4.23.1 UK POSTAL

\*UK Postal を有効にする



無効



### 4.23.2 チェックデジットを送信する

\*UK Postal チェックデジットを送信する



送信しない



## 4.24 その他の郵便番号

### 4.24.1 日本郵便

\*日本郵便を有効にする



無効



### 4.24.2 AUSTRALIAN POSTAL

\*Australian Postal を有効にする



無効



### 4.24.3 DUTCH POSTAL

\*Dutch Postal を有効にする



102027

無効



102026

### 4.24.4 USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール

USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメールを有効にする



102029

\*無効



102028

### 4.24.5 UPU FICS POSTAL

UPU FICS Postal を有効にする



102031

\*無効



102030



## 4.25 2D シンボル体系

### 4.25.1 PDF417

\*PDF417 を有効にする



無効



### 4.25.2 MicroPDF417

PDF417 を有効にする



\*無効



### 4.25.3 DATA MATRIX

\*Data Matrix を有効にする



無効



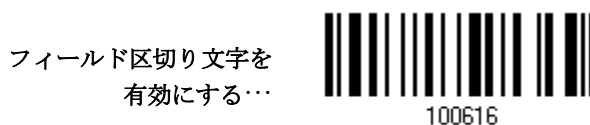
## GS1 フォーマット

GS1-Data MatrixバーコードのGS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。



## フィールド区切り文字

フィールド区切り文字 (GS 制御文字を人間が読める文字に変換する) を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットが有効になっているとき、フィールド区切り文字はデータに自動的に追加されます。



- 1) フィールド区切り文字を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

## アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI) の左 (AIMark1) または右 (AIMark2) に、Application ID マーク (1 文字長) を追加することができます。





- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### DATA MATRIX ミラー

ミラー画像の Data Matrix バーコードをデコードするかどうかを決定します。

- ▶ デコードしない — ミラー画像である Data Matrix バーコードをデコードしません。
- ▶ 常にデコードする — ミラー画像であるデータマトリクスバーコードをデコードします。
- ▶ 自動 — ミラードおよびアンミラードデータマトリクスバーコードをどちらもデコードします。

\*デコードしない



常にデコードする



自動



### 4.25.4 マキシコード

\*マキシコードを有効にする



無効



## 4.25.5 QR コード

\*QR Code を有効にする



無効



### GS1 フォーマットティング

GS1-Data QR Code バーコードの GS1 フォーマットティングを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号と Application ID マークは出力データに自動的に追加されます。

有効



\*無効



### フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り文字 (GS 制御文字を人間が読める文字に変換する) を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットティングが有効になっているとき、フィールド区切り文字はデータに自動的に追加されます。

フィールド区切り文字を  
有効にする…



- 1) フィールド区切り文字を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



### アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI) の左 (AIMark1) または右 (AIMark2) に、Application ID マーク (1 文字長) を追加することができます。



- 1) Application ID の左 (AIMark1) / 右 (AIMark2) にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

#### 4.25.6 MicroQR



#### 4.25.7 AZTEC



## 4.26 MACRO PDF

マクロ PDF は、複数の PDF バーコードを 1 つのファイルに連結するための特殊な機能で、マクロ PDF417 またはマクロ MicroPDF417 として知られています。

注記: バーコードを印刷しているとき、それぞれのマクロ PDF はそれぞれ固有の識別子を持っているため、シーケンスは別々にしておいてください。たとえ同じデータを符号化している場合でも、複数のマクロ PDF シーケンスからのバーコードを混ぜ合わせないでください。マクロ PDF シーケンスをスキャンするとき、途切れることなしにマクロ PDF シーケンス全体をスキャンしてください!

### 4.26.1 送信デコードモード

マクロ PDF デコードを処理する方法を決定します。

- ▶ 完了時にすべてのシンボルをバッファ/ マクロ PDF を送信  
シーケンス全体がスキャンされデコードされたときのみ、マクロ PDF シーケンス全体からデコードされたすべてのデータを送信します。デコードされたデータが 50 シンボルの制限を超えると、シーケンス全体がスキャンされなかったため送信はおこなわれません!
- ▶ 任意のシンボルをセットで送信 / 特定の順序なし  
シーケンスにはかかわらず、デコード済みとしてそれぞれのマクロ PDF シンボルからデータを送信します。
- ▶ すべてのシンボルをパススルー  
すべてのマクロ PDF シンボルを送信し、処理を行いません。このモードで、ホストがマクロ PDF シーケンスを検出し解析する必要があります。

完了時にすべてのシンボルをバッファ/ マクロ  
PDF を送信



任意のシンボルをセットで送信 / 特定の順序なし



\*すべてのシンボルをパススルー



### 4.26.2 エスケープキャラクター

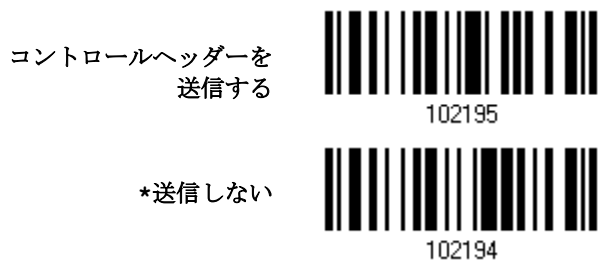
有効になっているとき、特殊なデータシーケンスを含む送信を処理できるシステムの場合、エスケープキャラクターとして「¥」を使用します。グローバルラベル識別子 (GLI) プロトコルに従って特殊データをフォーマットし、マクロ PDF シンボルの送信部分にのみ影響を及ぼします。コントロールヘッダーは、有効になっていれば、常に GLI フォーマットと共に送信されます。



### 4.26.3 コントロールヘッダーを送信する

コントロールヘッダーにはセグメントインデックスとフィールド ID が含まれています。例えば、フィールドが「\92800000¥725\120\343」とします。¥928 の後の 5 桁はセグメントインデックス(またはブロックインデックス)で、¥725\120\343 はフィールド ID です。

- ▶ 「任意のシンボルをセットで送信 / 特定の順序なし」を選択しているとき、これを有効にします。
- ▶ 「完了時にすべてのシンボルをバッファ/ マクロ PDF を送信」を選択しているとき、これを無効にします。
- ▶ 「すべてのシンボルをパススルー」を選択しているとき、このオプションは効果がありません。





## 出力フォーマットを定義する

収集したデータをホストコンピュータに出力するフォーマットを設定できます。

- 1) スキャンされたデータ上で文字の置換を実行します。
- 2) [Code ID](#) と [長さコード](#) を データの前に追加します:[Code ID][Length Code][Data]
- 3) ユーザーフォーマットのステップ 2 でデータ全体を処理します。ユーザー指定の規則により、データはフィールドに分割されます。 [第6章 データ編集用のフォーマットを適用する](#)を参照してください。
- 4) [プリフィックス コード](#) と [サフィックスコード](#) を追加してから送信します:[Prefix Code][Processed Data][Suffix Code]

### 本章の目次

5.1 大文字・小文字の区別 .....	165
5.2 文字置換.....	166
5.3 プリフィックス/サフィックスコード .....	180
5.4 Code ID.....	181
5.5 長さコード.....	187
5.6 Multi-Barcode Editor.....	197
5.7 特定文字の削除 .....	200
5.8 AIM Code ID.....	201

### 5.1 大文字・小文字の区別

デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットの  
大文字・小文字はその元の文字通りに送信されます。元の大文字・小文字を無視するには、  
[Upper Case (大文字)]を選択して大文字でのみデータを出力します。または、[Lower Case  
(小文字)]を選択して小文字のみでデータを出力します。



## 5.2 文字置換

「置換される」文字と、その文字を「置換」する文字を指定します。「置換される」文字のみが設定された場合はその文字が削除されます。

- ▶ 最初の設定した文字が 2 番目に設定した文字に置き換えられます。
- ▶ 3 セットまでの文字置換を設定できます。
- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、[キータイプ](#)と[キーステータス](#)が適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は 1 つのみ許可されます。「5.2.1」を参照してください。	N/A
通常キー	最大 3 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul> 「キーボードウェッジ表」を参照してください。

注記：文字置換は、バーコード自体で、編集フォーマットの処理前にのみ行われます。文字置換はプリフィックス/サフィックスコード、Code ID、長さコード、任意の追加フィールドには適用されません。

### 5.2.1 文字置換のセットを選択する

設定セット 1



101232

設定セット 2



101233

設定セット 3



101234

- 1) セットごとに文字置換を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。

例えば、スキャナーに「セット 1」のバーコードを読み取らせると、文字置換の最初の設定が実行されます。スキャナーから高いトーンの、短いビープ音を 1 回返されると、セットアップバーコードがさらに必要なことを示しています。





2) 「[16進値](#)」バーコードをお読みください。例:

キータイプ = 通常

- ▶ “3”, “0”, “2”と“D”を読み取り、文字“0”をダッシュ“-”で置き換える。
- ▶ “3”, “0”, “2”, “D”, “3”と“0”を読み取り、文字“0”をダッシュ“-”で置き換える。

キータイプ= スキャンコード

文字 “0” を “a” (= スキャンコード表の “1C”) に置き換えたい場合:

1. “3” と “0” を読み取ります。
2. “Scan Code” バーコードを読み取ります。
3. “1” と “C” を読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = SHIFT

文字 “0” を “!” に置き換えたい場合 (= キーボードの “Shift” + ”1”):

1. “3” と “0” を読み取ります。
2. “Shift の追加” バーコードを読み取ります。
3. “3” と “1” を読み取ります。

3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。(デフォルトで、定義された1つまたは複数のセットはすべてのシンボル体系に適用されます。)

### 5.2.2 文字置換用のシンボル体系(3セットすべて)

デフォルトで、文字置換はすべてのシンボル体系で実行されます。1つ以上のシンボル体系に目的のシンボル体系がない場合、不要なシンボル体系のそれぞれに対して「適用しない」バーコードを読み取ると、3つのセットすべてが無視されます。

#### Codabar 用の文字置換

\*適用



適用しない



### Code 39 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Trioptic Code 39 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Code 93 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Code 128 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



GS1-128 用の文字置換

*適用	
	101259
適用しない	
	101258

ISBT 128 用の文字置換

*適用	
	101293
適用しない	
	101292

EAN-8 (Addon なし)用の文字置換

*適用	
	101267
適用しない	
	101266

EAN-8 Addon 2 用の文字置換

*適用	
	101269
適用しない	
	101268



### EAN-8 Addon 5 用の文字置換

---

\*適用



101271

適用しない



101270

### EAN-13 (Addon なし)用の文字置換

---

\*適用



101273

適用しない



101272

### EAN-13 Addon 2 用の文字置換

---

\*適用しない



101275

適用しない



101274

### EAN-13 Addon 5 用の文字置換

---

\*適用しない



101277

適用しない



101276



**Italian Pharmacode 用の文字置換**

\*適用



適用しない



**Industrial 25 用の文字置換**

\*適用



適用しない



**Interleaved 25 用の文字置換**

\*適用



適用しない



**Matrix 25 用の文字置換**

\*適用



適用しない



### Chinese 25 用の文字置換

---

\*適用



102617

適用しない



102616

### MSI 用の文字置換

---

\*適用しない



101285

適用しない



101284

### GS1 DataBar 用の文字置換

---

\*適用



101291

適用しない



101290

### UPC-A (Addon なし) 用の文字置換

---

\*適用



101279

適用しない



101278



UPC-A Addon 2 用の文字置換

\*適用



適用しない



UPC-A Addon 5 用の文字置換

\*適用



適用しない



UPC-E (Addon なし)用の文字置換

\*適用



適用しない



UPC-E Addon 2 用の文字置換

\*適用



適用しない



### UPC-E Addon 5 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### UCC Coupon Extended Code 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Code 11 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Composite CC-A/B 用の文字置換

---

\*適用



適用しない





Composite CC-C 用の文字置換

\*適用



適用しない



Composite TLC-39 用の文字置換

\*適用



適用しない



US Postnet 用の文字置換

\*適用



適用しない



US Planet 用の文字置換

\*適用



適用しない



### UK Postal 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### 日本郵便用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Australian Postal 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Dutch Postal 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール用の文字置換

\*適用



適用しない



UPU FICS Postal 用の文字置換

\*適用



適用しない



PDF417 用の文字置換

\*適用



適用しない



MicroPDF417 用の文字置換

\*適用



適用しない



### Data Matrix 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### Maxicode 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### QR Code 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



### MicroQR 用の文字置換

---

\*適用



適用しない



Aztec 用の文字置換

---

\*適用



102647

適用しない



102646



### 5.3 プリフィックス/サフィックスコード

デフォルトで、プリフィックスコードはなく、[ENTER]または[CR]（キャリッジリターン）がサフィックスコードになるように設定されています。例えば、「Barcode\_」などのように8文字まで設定可能なため、この - 「Barcode\_1234567890」のようにバーコード読み取りの前に文字列を表示させることができます

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、[キータイプ](#)と[キーステータス](#)が適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
キーコード	最大 4 つのスキャンコード値が許可されます。	N/A
通常キー	最大 8 つの文字列が許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ 左 Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul> キーウェッジ表を参照してください。

プリフィックスの設定



101230

サフィックスの設定



101231

- 1) プリフィックスコードまたはサフィックスコードを別々に適用するには、上のバーコードを読み取り、手順 2~3 に従います。（それぞれ、最大 8 文字）
- 2) 目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、先頭または末尾に「+」の文字を置く場合、「2」と「B」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 5.4 CODE ID

Code ID では、2 文字までをそれぞれのシンボル体系に対して設定できます。Code ID をより簡単に設定できるように、5 つの定義済み CodeID セットが用意されています。

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、[キータイプ](#)と[キーステータス](#)が適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は 1 つのみ許可されます。	N/A
通常キー	最大 2 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul> キーボードウェッジ表を参照してください。

注記: 「]C1」は GS1-128 (EAN-128) バーコードの Code ID で、「]e0」は GS1 DataBar (RSS) バーコードのデフォルトの Code ID です。

### 5.4.1 定義済み CODE ID の選択

Code ID セット 1 の適用



Code ID セット 2 の適用



Code ID セット 3 の適用



Code ID セット 4 の適用



Code ID セット 5 の適用



Code I オプション	設定 1	設定 2	設定 3	設定 4	設定 5
Code 39	A	C	Y	M	A
Trioptic Code 39	A	C	Y	M	X
Italian Pharmacode (イタリア語のファーマコード)	A	C	Y	M	A
Industrial 25	C	H	H	H	S
Interleaved 25	D	I	Z	I	S
Matrix 25	E	G	G	G	S
Chinese 25	Q	M	P	S	X
Codabar(コーダバー)	F	N	X	N	F
Code 93	I	L	L	L	G
Code 128	H	K	K	K	C
ISBT 128	H	K	K	K	C
UPC-E	S	E	C	E	E
EAN-8	P	B	B	FF	E
EAN-13	M	A	A	F	E
UPC-A	J	A	A	A	E
MSI	V	V	D	P	M
UCC Coupon Code	G	F	I	C	C
Code 11	K	J	J	D	H
Composite CC-A/B	L	X	M	J	La
Composite CC-C	N	Y	N	O	Lc
Composite TLC-39	O	Z	O	R	L2
US Postnet	h	a	s	i	X
US Planet	i	b	t	j	X
UK Postal	j	c	u	k	X
日本郵便	k	d	v	l	X
Australian Postal	l	e	w	m	X
Dutch Postal	m	f	x	n	X
USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール	n	g	y	o	X
UPU FICS Postal	o	h	z	p	X
PDF417	a	O	W	T	L
MicroPDF417	b	P	V	U	L
Data Matrix	c	Q	U	V	d





Maxicode (マキシコード)	d	R	T	W	U
QR Code	e	S	S	X	Q
MicroQR	f	T	R	Y	Q
Aztec	g	U	Q	Z	z
IATA	z	z	r	h	S
Macro PDF417	p	i	a	q	L
Macro MicroPDF417	q	j	b	r	L

### 5.4.2 CODE ID を変更する

- 1) 特定のシンボル体系の CODE ID を変更するには、以下のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、Code ID に対して文字[D]を適用するには、「4」と「4」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

Codabar 用の Code ID  
の設定



101456

Configure Code ID  
for Code 39



101450

Trioptic Code 39 用の  
Code ID の設定



102566

Code 93 用の Code ID  
の設定



101457

Code 128 用の Code ID  
の設定



101458

ISBT 128 用の Code ID  
の設定



101466

EAN-8 用の Code ID の  
設定



101460



EAN-13 用の Code ID の 設定	 101461
Italian Pharmacode 用の Code ID の設定	 101451
Industrial 25 用の Code ID の設定	 101453
Interleaved 25 用の Code ID の設定	 101454
Matrix 25 用の Code ID の設定	 101455
Chinese 25 用の Code ID の設定	 102571
MSI 用の Code ID の設定	 101463
UPC-A 用の Code ID の 設定	 101462
UPC-E 用の Code ID の 設定	 101459
UCC Coupon Code 用の Code ID の設定	 102565
Code 11 用の Code ID の設定	 102567



Composite CC-A/B用の Code ID の設定	 102568
Composite CC-C用の Code ID の設定	 102569
Composite TLC-39用の Code ID の設定	 102570
US Postnet 用の Code ID の設定	 102572
US Planet 用の Code ID の設定	 102573
UK Postal 用の Code ID の設定	 102574
日本郵便用の Code ID の 設定	 102575
Australian Postal 用 の Code ID の設定	 102576
Dutch Postal 用の Code ID の設定	 102577
USPS 4CB / 1コード / インテリジェントメール 用の Code ID の設定	 102578
UPU FICS Postal 用の Code ID の設定	 102579



PDF417 用の Code ID の  
設定



102580

MicroPDF417 用の Code  
ID の設定



102581

Data Matrix 用の Code  
ID の設定



102582

Maxicode 用の Code ID  
の設定



102583

QR Code 用の Code ID  
の設定



102584

MicroQR 用の Code ID  
の設定



102585

Aztec 用の Code ID の  
設定



102586

IATA 用の Code ID の設  
定



102587

Macro PDF417 用の  
Code ID の設定



102588

Macro MicroPDF417 用  
の Code ID の設定



102589

### 5.4.3 CODE ID 設定を消去する

すべての Code ID 設定を  
消去する



109960



## 5.5 長さコード

バーコードデータの長さ(文字数)を表す 4 桁のコードは、送信されるデータの前に附加できます。それぞれのシンボル体系について、そのような「長さ」コードは個別に有効または無効にできます。

### Codabar 用の長さコード

適用



\*適用しない



### Code 39 用の長さコード

適用



\*適用しない



### Trioptic Code 39 用の長さコード

適用しない



\*適用しない



### Code 93 用の長さコード

適用



\*適用しない



**Code 128 用の長さコード**

適用



\*適用しない



**GS1-128 & GS1 DataBar 用の長さコード**

適用



\*適用しない



**ISBT 128 用の長さコード**

適用



\*適用しない



**EAN-8 用の長さコード**

適用



\*適用しない



**EAN-13 用の長さコード**

適用	
	101425
*適用しない	
	101424

**Italian Pharmacode 用の長さコード**

適用	
	101403
*適用しない	
	101402

**Industrial 25 用の長さコード**

適用	
	101407
*適用しない	
	101406

**Interleaved 25 用の長さコード**

適用	
	101409
*適用しない	
	101408



### Matrix 25 用の長さコード

---

適用



\*適用



### Chinese 25 用の長さコード

---

適用



\*適用しない



### MSI 用の長さコード

---

適用



\*適用しない



### UPC-A 用の長さコード

---

適用



\*適用しない





UPC-E 用の長さコード

適用	
	101421
*適用しない	
	101420

UCC Coupon Extended Code 用の長さコード

適用	
	102503
*適用しない	
	102502

Code 11 用の長さコード

適用	
	102507
*適用しない	
	102506

Composite CC-A/B 用の長さコード

適用	
	102509
*適用しない	
	102508



### Composite CC-C 用の長さコード

---

適用



\*適用しない



### Composite TLC-39 用の長さコード

---

適用



\*適用しない



### US Postnet 用の長さコード

---

適用



\*適用しない



### US Planet 用の長さコード

---

適用



\*適用しない



UK Postal 用の長さコード

適用



\*適用しない



日本郵便用の長さコード

適用



\*適用しない



Australian Postal 用の長さコード

適用



\*適用しない



Dutch Postal 用の長さコード

適用



\*適用しない



**USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール用の長さコード**

---

適用



\*適用しない



**UPU FICS Postal 用の長さコード**

---

適用



\*適用しない



**PDF417 用の長さコード**

---

適用



\*適用しない



**MicroPDF417 用の長さコード**

---

適用



\*適用しない



Data Matrix 用の長さコード

適用



\*適用しない



Maxicode 用の長さコード

適用



\*適用しない



QR Code 用の長さコード

適用



\*適用しない



MicroQR 用の長さコード

適用



\*適用しない



**Aztec** 用の長さコード

---

適用



102545

\*適用しない



102544



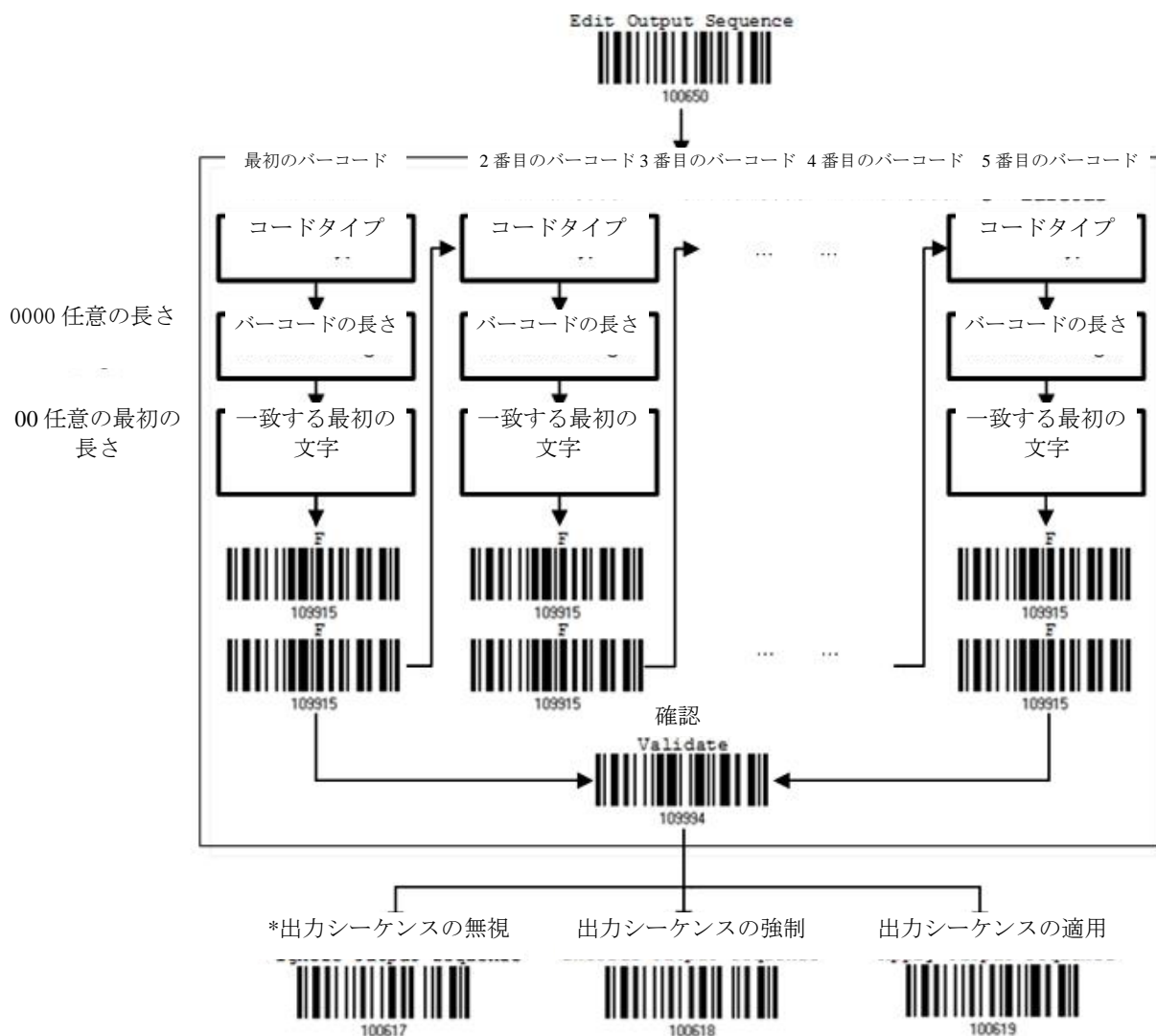
## 5.6 MULTI-BARCODE EDITOR (マルチバーコードエディタ)

Multi-Barcode Editor の設定により、設定したバーコードデータを連結して出力することが出来ます。バーコードは、5 つ以内で指定できます。ただし 1564 の場合連結したすべてのバーコードの最大出力データ長は 10 KB になります。データ長が 10 KB を超えると、連結は有効になりません。

注記：マルチバーコードエディタは [Multi-Barcode モード](#) と関係がありません。

以下の指定された基準に合致することが分かったバーコードは、希望するシーケンスで配列されます。

- ▶ コードタイプの一致
- ▶ プリフィックス、サフィックス、長さコードなどを除いた、4桁のバーコード長の一致
- ▶ バーコードデータの最初の文字の一致



## 5.6.1 バーコードの連結を編集する

出力シーケンスの編集



- 1) バーコードの連結の編集を開始するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) コードタイプの設定 - (最初の)バーコードのコードタイプについては、[「16 進値」](#)バーコードを読み取ります。例えば、Code 39 の場合「4」と「1」を読み取ります。

コードタイプ	シンボル体系	コードタイプ	シンボル体系
40 (@)	ISBT 128		
41 (A)	Code 39		
42 (B)	Italian Pharmacode		
43 (C)	N/A		
44 (D)	Industrial 25	64 (d)	TLC-39 (TCIF Linked Code 39)
45 (E)	Interleaved 25	65 (e)	Trioptic Code 39
46 (F)	Matrix 25		
47 (G)	Codabar (NW7)	67 (g)	Code 11
48 (H)	Code 93		
49 (I)	Code 128		
4A (J)	UPC-E0 / UPC-E1	6A (j)	Composite CC-C
4B (K)	UPC-E (Addon 2 付き)	6B (k)	PDF417
4C (L)	UPC-E (Addon 5 付き)	6C (l)	MicroPDF417
4D (M)	EAN-8	6D (m)	Data Matrix
4E (N)	EAN-8 with Addon 2 (Addon 2 付き)	6E (n)	Maxicode
4F (O)	EAN-8 (Addon 5 付き)	6F (o)	QR Code
50 (P)	EAN-13	70 (p)	US Postnet
51 (Q)	EAN-13 (Addon 2 付き)	71 (q)	US Planet
52 (R)	EAN-13 (Addon 5 付き)	72 (r)	UK Postal
53 (S)	MSI	73 (s)	日本郵便
54 (T)	N/A	74 (t)	Australian Postal
55 (U)	GS1-128 (EAN-128)	75 (u)	Dutch Postal
56 (V)	UPC-A	76 (v)	Composite CC-A/B
57 (W)	UPC-A (Addon 2 付き)	77 (w)	Macro PDF417





58 (X)	UPC-A (Addon 5 付き)	78 (x)	Macro MicroPDF417
		79 (y)	Chinese 25
5A (Z)	N/A	7A (z)	Aztec
5B ( [ )	GS1 DataBar (RSS)	7B (l)	Micro QR
		7C (l)	USPS 4CB / 1 コード/ インテリジェントメール
		7D (j)	UPU FICS Postal
		7E (ˆ)	UCC Coupon Extended Code

- 3) バーコード長の設定 - (最初の)バーコードの4桁長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、65文字のバーコード長の場合は「0065」を、または任意の長さの場合は「0000」を読み取ります。
- 4) 一致する文字設定 - 最初の文字については「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、バーコードの最初の文字と一致する文字「A」の場合は「4」と「1」を読み取るか、任意の文字の場合「00」を読み取ります。
- 5) それぞれのバーコードの設定を完了するには、(「FF」)の「F」バーコードを2回読み取ります。
- 6) バーコードセットの編集を終了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 5.6.2 バーコードの連結をアクティブにする

デフォルトで、バーコードの連結の出力シーケンス編集は適用されていません。

「Enforce Output Sequence (出力シーケンスの強制)」が選択されているとき、スキャナーによって読み取られるすべてのバーコードは、連結の基準に合致する必要があります。データがすべての出力シーケンスの基準に合致しない場合、スキャナーは読み取りを受け入れず、その結果、データは送信されません。

「Apply Output Sequence (出力シーケンスの適用)」が選択されているとき、基準に一致するバーコードのみが連結されます。基準を満たしていないバーコードは、の標準的に処理されます。

注記：受け入れ可能なバーコードの読み取りが完了すると、スキャナーは短いピープ音(高い)を1回返し、LEDインジケータが赤色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。受け入れ可能なバーコードを読み取った後、LEDのインジケータが緑色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。

\*出力シーケンスの無視



100617

出力シーケンスの強制



100618

出力シーケンスの適用



100619

警告：Multi-Barcode Editor を後で無効にした場合、スキャンモードはレーザーモードのままです。レーザーモードが不要な場合、続けて自分の用途にもっとも適したスキャンモードを選択してください。



## 5.7 特定文字の削除

指定できるのは1文字だけです。、バーコードデータの開始位置から異なる文字が表れるまで、指定された文字が削除されます。例えば、文字「0」（16進数値は「30」）を削除するように指定した場合、1つ以上のゼロがバーコードデータ「012345」および「00012345」から取り去られます。しかし、バーコードデータ「010333」の場合、最初のゼロのみが取り去られます。

特殊文字を削除



- 1) 指定された文字を削除するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、「0」の文字を削除する場合、「3」と「0」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります

## 5.8 AIM CODE ID

AIM（自動認識・移動通信）コード ID を、データの先頭に付加するか決定します。

\*無効



有効



## データ編集用のフォーマットを適用する

スキャナーは、ユーザー設定の編集フォーマットにより詳細なデータ編集が可能になります。ユーザー指定のルールにより、処理されたデータ全体がフィールドに分けられます。これらのフィールドはユーザー設定可能な追加フィールドと共に、ホストコンピュータに実際に送信されたデータから成っています。

編集フォーマットを適用すると、設定後のすべてのバーコードの最大出力データ長は 7 KB になります。データ長が 7 KB を超えると、編集フォーマットは有効になりません。

[Prefix Code]	[Code ID]	[Length Code]	[Data]	[Suffix Code]	追加フィールド
デフォルトでなし	デフォルトでなし	デフォルトでなし	バーコード自体	デフォルトで 0x0d	

### 本章の目次

6.1 編集フォーマットをアクティブにする .....	203
6.2 編集フォーマットを設定する方法 .....	205
6.3 フォーマットを設定する - データ基準の定義 .....	208
6.4 フォーマットを設定する - データフィールドの定義 .....	221
6.5 フォーマットを設定する - 送信シーケンスの定義 .....	229
6.6 プログラミング例 .....	231



## 6.1 編集フォーマットをアクティブにする

### 6.1.1 編集フォーマットをアクティブにする

すでに編集フォーマットが設定されている場合、編集フォーマットを直接適用できます。未設定の場合は、編集フォーマットの設定を開始し、使用するとき編集フォーマットをアクティブにします。

#### 編集フォーマット 1

---

有効



\*無効



#### 編集フォーマット 2

---

有効



\*無効



#### 編集フォーマット 3

---

有効



\*無効



## 編集フォーマット 4

有効



101307

\*無効



101306

## 編集フォーマット 5

有効



101309

\*無効



101308

## 6.1.2 排他的データ編集

デフォルトで、基準を満たしたバーコードのみが編集フォーマットによって処理されます。基準を満たしていないバーコードは、通常通りに処理されます。

「排他的ブデータ編集」が有効になっているとき、スキャナーが読み取るバーコードはすべて編集フォーマットで処理されます。データが基準に合致しない場合はスキャナーは読み取りせずにその結果、データは送信されません。

はい



101201

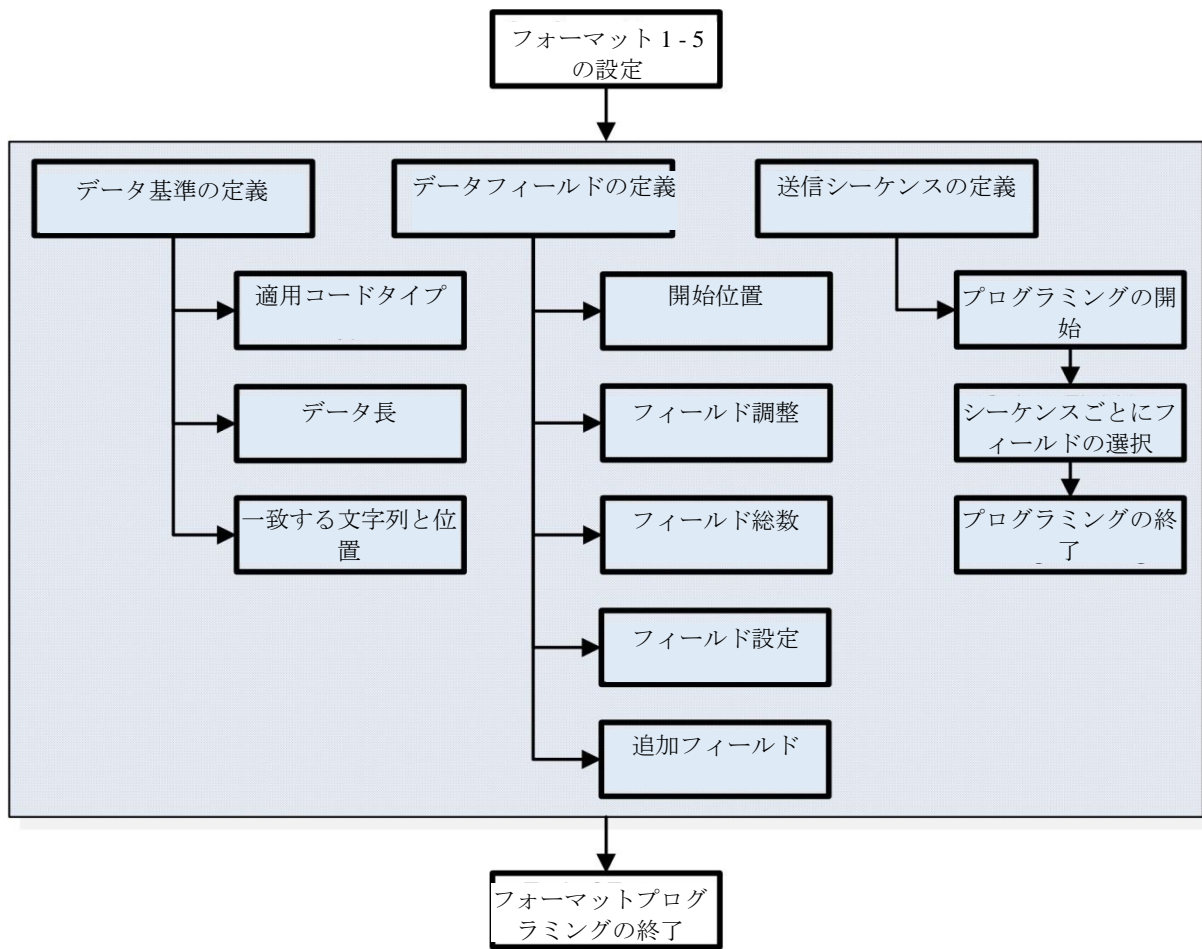
\*いいえ



101200



## 6.2 編集フォーマットを設定する方法



## 6.2.1 編集フォーマットを選択する

### プログラミングフォーマットの開始

1つの編集フォーマット(フォーマット1~5)を選択すると、編集フォーマットに関連するパラメータ(適用可能なコードタイプ、データ長、一致する文字列と位置、開始位置、フィールド調整、フィールド総数、フィールド設定(フィールド区切りルール)、追加フィールド、フィールド送信シーケンス)を設定できます。

フォーマットは、5つまで指定できます。

フォーマット1の設定



フォーマット2の設定



フォーマット3の設定



フォーマット4の設定



フォーマット5の設定



注記: 編集フォーマットのプログラミングを完了する前に、スキャナーに編集フォーマットに関連するもの以外のパラメータのバーコードを読み取らせている場合、プログラミングプロセスは自動的に中止されます。

### プログラミングフォーマットの終了

目的のパラメータをすべて設定し終わったら、スキャナーに、本章のすべての偶数ページの下部に記載された「プログラミングフォーマットの終了」を読み取らせる必要があります。

プログラミングフォーマットの終了





### 6.2.2 編集フォーマットをデフォルト値に戻す

編集フォーマット	デフォルト
適用コードタイプ	すべて
データ長	0 (必要条件なし)
一致する文字列	無効
一致する文字列の位置	なし
開始位置	先頭から
フィールド調整	調整なし
フィールド総数	1
フィールド設定 - フィールド区切りルール	未設定
追加フィールド	なし
フィールド送信シーケンス	F1

デフォルト値に戻す



109990



## 6.3 フォーマットを設定する - データ基準の定義

スキャナーが読み取っているデータを特定の編集フォーマットで処理できるかどうかをチェックするために、3つの適用条件を設定できます。

注記: 3つの条件がすべて満たされない場合、データ編集を実行することはできません。

### 6.3.1 適用コードタイプ

デフォルトで、サポートされるすべてのシンボル体系のバーコードが、編集フォーマットによって処理されます。素早く制限するためには、まずすべてを消去してから、目的のシンボル体系を選択してください。

注記: 少なくとも1つのシンボル体系を選択する必要があります。

\*すべてに適用



109992

すべて消去



109991

#### Codabar 用の編集フォーマット

\*適用



101513

適用しない



101512

#### Code 39 用の編集フォーマット

\*適用



101501

適用しない



101500



Trioptic Code 39 の編集フォーマット

\*適用



101625

適用しない



101624

Code 93 用の編集フォーマット

\*適用



101515

適用しない



101514

Code 128 用の編集フォーマット

\*適用



101517

適用しない



101516

GS1-128 と GS1 DataBar 用の編集フォーマット

\*適用



101519

適用しない



101518



### ISBT 128 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### EAN-8 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### EAN-8 Addon 2 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### EAN-8 Addon 5 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



EAN-13 用の編集フォーマット

\*適用



101533

適用しない



101532

EAN-13 Addon 2 用の編集フォーマット

\*適用



101535

適用しない



101534

EAN-13 Addon 5 用の編集フォーマット

\*適用



101537

適用しない



101536

Italian Pharmacode 用の編集フォーマット

\*適用



101503

適用しない



101502



### Industrial 25 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### Interleaved 25 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### Matrix 25 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### Chinese 25 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



MSI 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



UPC-A 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



UPC-A Addon 2 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



UPC-A Addon 5 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



UPC-E 用の編集フォーマット

\*適用



適用しない



UPC-E Addon 2 用の編集フォーマット

\*適用



適用しない



UPC-E Addon 5 用の編集フォーマット

\*適用



適用しない



UCC Coupon 拡張型コード用の編集フォーマット

\*適用



適用しない





Code 11 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



Composite CC-A/B 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



Composite CC-C 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



Composite TLC-39 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



**US Postnet 用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**US Planet 用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**UK Postal 用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**日本郵便用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**Australian Postal 用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**Dutch Postal 用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



**UPU FICS Postal 用の編集フォーマット**

---

\*適用



適用しない



### PDF417 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### MicroPDF417 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### Data Matrix 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### Maxicode 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



QR Code 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



MicroQR 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



Aztec 用の編集フォーマット

---

\*適用



適用しない



### 6.3.2 データ長

データ長にはプリフィックス、サフィックス(デフォルトで、0x0d)、長さコードなどを含む必要があります。デフォルトでは、任意の長さ(文字数)のバーコードがデータ編集の対象となります。

値を指定します。

ゼロが両方に与えられているとき、スキャナーは長さ制限を実行しません。

- 1) 以下のバーコードを読み取り最大長または最小長を別々に指定して手順 2~3 に従います。

最大長



最小長



- 2) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 6.3.3 一致する文字列と位置

デフォルトで、照合文字列は指定されていないため無効になっています。一致する文字列を指定することで、この機能を有効にできます。最大 4 文字まで許可されます。

照合文字列位置がゼロのとき、スキャナーはバーコードデータの照合文字列の存在のみを確認します。一致する文字列がバーコードデータのどこから始まるかを示すために、値を指定します。

- 1) バーコードを読み取り、一致する文字列を指定してください。

一致する文字列...



- 2) 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
- 4) バーコードを読み取り、一致する文字列の位置を指定してください。

一致する文字列の位置...



- 5) 目的の位置については「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 6) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 6.4 フォーマットを設定する - データフィールドの定義

### 6.4.1 開始位置

データは次の方向のいずれかで、フィールドに分割されます。

- ▶ 先頭(F1)から末尾へ(F5)
- ▶ 末尾(F1)から先頭へ(F5)



### 6.4.2 フィールド調整

必要に応じて、すべてのフィールドに等しい長さを適用できます。データが指定より長い場合、自動的に切り詰められます。データが短い場合、フィールドに「スペース」(0x20)が追加されます。



- 1) 長さによってフィールドを調整するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的のフィールド長については、[10進値](#) バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### 6.4.3 フィールド総数

データは多くても 6 つのフィールドに分割され、そのそれぞれに F1～F6 の番号が付けられます。しかし、F1～F5 のみが設定可能です。

フィールドの総数は正しく指定する必要があります。編集フォーマットに対して 3 つのフィールドが設定される場合、F3 の後でデータ文字が F4 に自動的に割り当てられます。可変長のデータが編集フォーマットにより処理される場合は特に、この機能がとても役立ちます。

*1 つのフィールド	 101590
2 つのフィールド	 101591
3 つのフィールド	 101592
4 つのフィールド	 101593
5 つのフィールド	 101594
6 つのフィールド	 101595

注記: 設定可能なフィールド数は、指定されたフィールドの総数より常に 1 つ少ない数です。設定された最後のフィールドを超える余分なデータは、次のフィールドに自動的に割り当てられます。





## 6.4.4 フィールド設定

編集フォーマットの対象となるフィールドは、フィールド区切り文字列または指定されたフィールド長のいずれかを使用して、ユーザー指定の規則によるフィールドに分割されます。

### 区切り文字列で

フィールド区切り文字列を指定します。最大 2 文字まで許可されます。スキャナーは、データ内のこの特定の文字列の出現を調べます

- ▶ デフォルトで、この文字列はフィールドに含まれます。

### 長さによって

または、フィールド長を指定することができます。スキャナーは、指定した次の文字数をフィールドに割り当てます。

### フィールド 1 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列を選択してフィールド 1 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適の場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによって  
フィールド 1 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## フィールド 2 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文  
字列を選択してフィ  
ールド 2 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適当な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含め  
る



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによって  
フィールド 2 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### フィールド3設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド3を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列を選択してフィールド3を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド3を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド3を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## フィールド 4 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列を選択してフィールド 4 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィールド 4 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

## フィールド 5 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列を選択してフィールド 5 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド5を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。



2. 目的のフィールド長については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。  
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 追加フィールド

それぞれの編集フォーマットに対して5つまでフィールドを追加で作成できます。それぞれのフィールドにはAF1～AF5の数字が付けられます。

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は2つまで許可されます。	N/A
通常キー	最大4文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul> キーボードウェッジ表を参照してください。



- 一度に1つずつ追加フィールドを指定するには、以下のバーコードを読み取ります。

追加フィールド 1...



101584

追加フィールド 2...



101585

追加フィールド 3...



101586

追加フィールド 4...



101587

追加フィールド 5...



101588

- 目的の追加フィールドについては、「[16進数値](#)」バーコードを読み取ります。
- この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

## 6.4.5 休止フィールド設定

### 休止フィールド時間

休止時間を(1~16)に制限できます。デフォルトでは、1秒に設定されています。

休止フィールド時間  
1~16秒  
(\*1)



101604

- 休止フィールドの時間を指定するには、上のバーコードを読み取ります。(デフォルトでは、1に設定されています。)
- 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、休止フィールド時間を10秒に設定する場合、「1」と「0」を読み取ります。
- この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 6.5 フォーマットを設定する — 送信シーケンスの定義

データフィールドと追加フィールドを設定した後、最終データから成るこれらのフィールドの送信シーケンスをプログラムできるようになります。このフィールド送信シーケンスは目的の順序で割り当てることが可能で、フィールドも何度でも割り当てることができます。

注記: 最大 12 のフィールドを割り当てることができます。

- 1) フィールド送信シーケンスのプログラミングから始めるには、「開始」バーコードを読み取ります。

プログラミングの開始...



- 2) 目的のフィールドと追加フィールドを読み取ることで、送信シーケンスをプログラムします。

フィールド 1



フィールド 2



フィールド 3



フィールド 4



フィールド 5



フィールド 6



追加フィールド 1



追加フィールド 2



追加フィールド 3



追加フィールド 4



追加フィールド 5



休止フィールド



ヌル文字フィールド



3) この設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。

プログラミングの終了...





## 6.6 プログラミング例

### 6.6.1 例I

10 番目の文字から 19 番目の文字までのデータを抽出引き出します...

編集フォーマットを次のように設定します。

1. 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
2. 「フォーマット 1 の設定」バーコードを読み取ります。
3. 適用可能なコードタイプに対して、「すべて消去」と「Code 128」を読み取ります。
4. 「3つのフィールド」バーコードを読み取ります。
5. 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 9 に設定します。  
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始まって 9 番目の文字まで進みます。
6. 「長さによってフィールド 2 を分割」バーコードを読み取り、長さを 10 に設定します。  
フィールド 2 のデータは 10 番目の文字から始まって 19 番目の文字まで進みます。
7. 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、送信シーケンスをプログラムします。
8. 「フィールド 2」バーコードを読み取ります。
9. 送信シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
10. 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。
11. 編集フォーマット 1 を Code 128 に適用するには、「フォーマット 1 を有効にする」バーコードを読み取ります。
12. 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。

### 6.6.2 例II

#### バーコードから日付コード、項目番号、数量情報を抽出

バーコードのデータはこのようにエンコードされています。

- ▶1 番目の文字から 6 番目の文字までは、日付コードです。
- ▶7 番目の文字からダッシュ「-」文字までは、項目番号です。
- ▶ダッシュ「-」文字の後に数量情報が続きます。

データはこのように送信されます。

- ▶項目番号が最初に送られ、次に TAB 文字、次に日付コード、別の TAB 文字が続き、そして数量情報で終わります。



編集フォーマットを次のように設定します。

- 1 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
- 2 「フォーマット 2 の設定」バーコードを読み取ります。
- 3 「3つのフィールド」バーコードを読み取ります。
- 4 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 6 に設定します。  
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始まって 6 番目の文字まで進みます。
- 5 「フィールド区切り文字列を選択してフィールド 2 を分割する」バーコードを読み取り、ダッシュ「-」文字を使用します。  
フィールド 2 のデータは 7 番目の文字から始まり、ダッシュ「-」文字で終わります。
- 6 「追加フィールド 1」バーコードを読み取り、フィールド用のタブ文字を使用します。
- 7 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、送信シーケンスをプログラムします。
- 8 「フィールド 2」、「追加フィールド 1」、「フィールド 1」、「追加フィールド 1」、「フィールド 3」バーコードを読み取ります。
- 9 送信シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
- 10 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。
- 11 編集フォーマット 2 をすべてのコードタイプに適用するには、「フォーマット 2 を有効にする」バーコードを読み取ります。
- 12 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。



## ファームウェアのアップグレード

一度にアップグレードできるのは、1 台のスキャナーだけです。例えば、複数のスキャナーがコンピュータに接続されている場合、残りの 1564 スキャナーのそれぞれを OFF にする必要があります。

### 1564 ファームウェアのアップグレード方法

#### 3656 を使用する

- 1) 3656 およびお使いのコンピュータをインターフェースケーブル、RS-232 または USB で接続します。USB Virtual COM の場合、最初にそのドライバをインストールする必要があります。
- 2) 3656 から適切な AC コンセントに電源供給コードを接続します。
- 3) 3656 に接続するターゲットのスキャナーについては、3.1.1 3656 に接続するを参照してください。  
まず、「接続の設定」ラベルを、続いて「シリアル番号」ラベルを読み取ります。どちらのラベルも 3656 の背面に貼付されています。
- 4) ダウンロードインターフェースとして RS-232 を使用するには、次のバーコードを順番に読み取ります。

セットアップに入る



3656 RS-232 をアクティブにする



100001

115200 bps



100080

更新



109999

または、ダウンロードインターフェースとして USB Virtual COM を使用するには、次のバーコードを順番に読み取ります。



更新

セットアップに入る

3656 USB Virtual  
COM をアクティブにする

100004

更新



109999

- 5) ダウンロードを開始するには、次のバーコードを順番に読み取ります。スキャナーからビープ音が鳴り、ダウンロードの準備ができたことを知らせます。

セットアップに入る



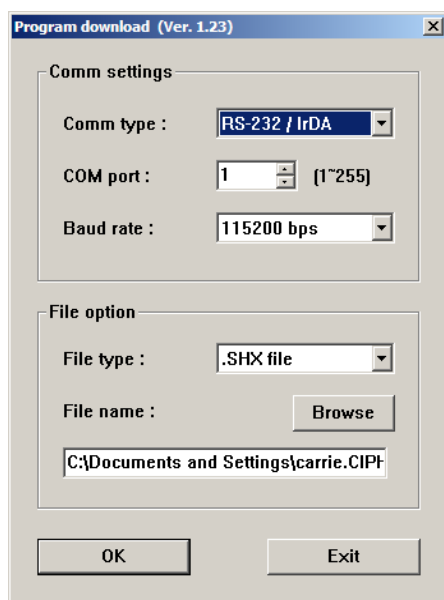
ダウンロード



109997

- 6) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K1564_V*.shx	STD1564_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェース用の「RS-232」と正しい COM ポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK] をクリックします。

- 7) カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。



注記：出力インターフェースは、手順3 (= RS-232 または USB Virtual COM) で指定したように変わりません。RS-232 の場合、ボーレート設定はまだ 115200 bps のままです！

### BLUETOOTH® ドングルを使用する

- 1) ターゲットのスキヤナーがコンピュータからの接続要求を受け入れる点については、3.2.3 ドングルへの接続を参照してください。
- 2) ダウンロードインターフェースとして BT SPP を設定するには、次のバーコードを順番に読み取ります。

セットアップに入る



BT SPP をアクティブにする



100003

更新



109999

- 3) ダウンロードを開始するには次のバーコードを順番に読み取ります。  
スキヤナーからビープ音が鳴り、ダウンロードの準備ができたことを知らせます。

セットアップに入る



ダウンロード

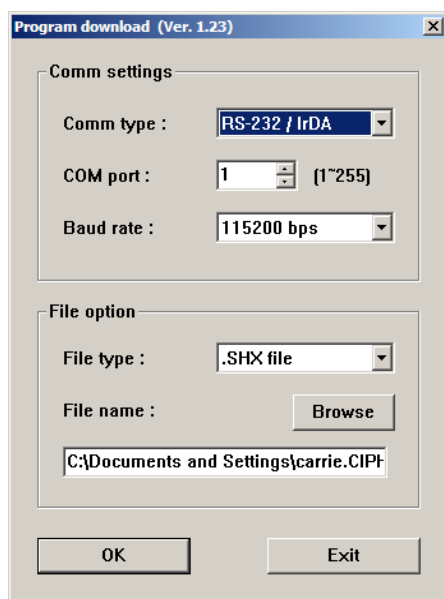


109997



- 4) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K1564_V*.shx	STD1564_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、BT SPP インターフェース用の「RS-232」と正しいCOMポートを選択します。
- ▶ ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)]をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK]をクリックします。

- 5) カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。

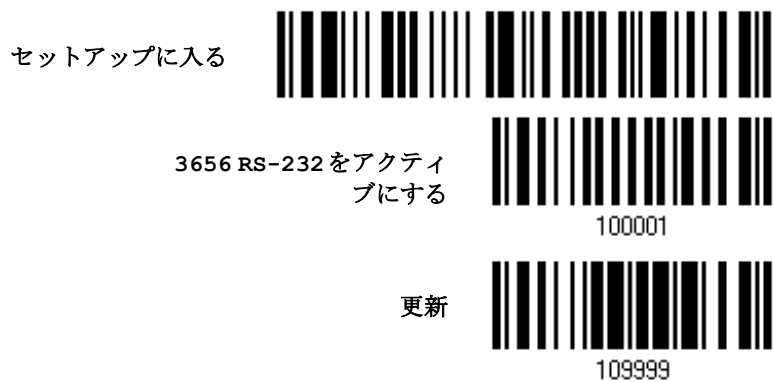
注記：出力インターフェースは、ステップ 2 (= BT SPP) で指定したときそのまま変わりません。



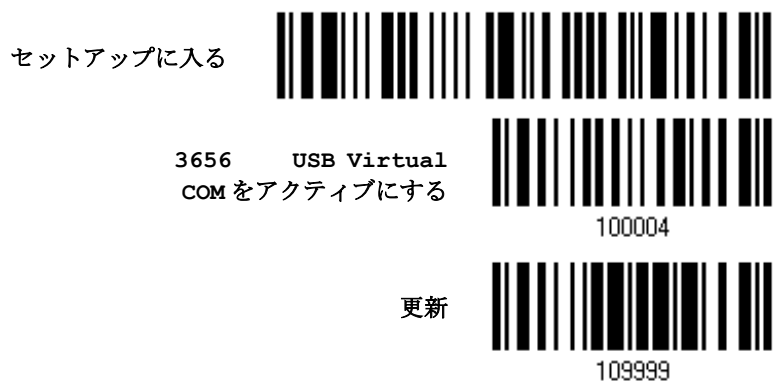
## 3656 ファームウェアのアップグレード方法

### 3656 CPU ファームウェアをアップグレードする

- 1) 3656 およびお使いのコンピュータをインターフェースケーブル、RS-232 または USB で接続します。USB Virtual COM の場合、最初にそのドライバをインストールする必要があります。
- 2) 3656 から適切な AC コンセントに電源供給コードを接続します。
- 3) 3656 に接続するターゲットのスキャナーについては、3.1.1 3656 に接続するを参照してください。  
まず、「接続の設定」ラベルを、続いて「シリアル番号」ラベルを読み取ります。どちらのラベルも 3656 の背面に貼付されています。
- 4) ダウンロードインターフェースとして RS-232 を使用するには、次のバーコードを順番に読み取ります。



または、ダウンロードインターフェースとして USB Virtual COM を使用するには、次のバーコードを順番に読み取ります。



- 5) ダウンロードを開始するには、3656 の次のバーコードを順番に読み取ります。3656 の通信 LED は赤色に点滅して、ダウンロードの準備ができたことを示します。

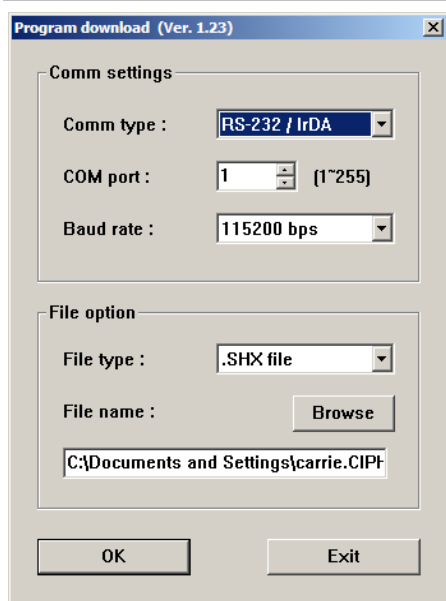
セットアップに入る

3656 CPU ファームウェアを  
ダウンロードする



- 6) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K3656_V*.shx	STD3656_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェイス用の「RS-232」と正しい COM ポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)]をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK]をクリックします。

- 7) ファームウェアのアップグレードが正常に完了すると、3656 は自動的に再起動します。
- 8) 操作を再開するには、「更新」バーコードを読み取ります(設定モードを終了)。

更新





### 3656 USBブリッジファームウェアをアップグレードする

- 1) 3656 とコンピュータを USB ケーブルで接続します。USB Virtual COM の場合、最初にそのドライバをインストールする必要があります。
- 2) 3656 から適切な AC コンセントに電源供給コードを接続します。
- 3) 3656 に接続するターゲットのスキヤナーについては、3.1.1 3656 に接続するを参照してください。  
まず、「接続の設定」ラベルを、続いて「シリアル番号」ラベルを読み取ります。どちらのラベルも 3656 の背面に貼付されています。
- 4) ダウンロードインターフェースとして USB Virtual COM を使用するには、次のバーコードを順番に読み取ります。

セットアップに入る



3656 USB Virtual  
COM をアクティブにする



100004

更新



109999

注記：USBブリッジファームウェアは、USB Virtual COM を介してのみダウンロードできます。

- 5) ダウンロードを開始するには、3656 の次のバーコードを順番に読み取ります。3656 の通信 LED は赤色に点滅して、ダウンロードの準備ができたことを示します。

セットアップに入る



3656 USBブリッジファーム  
ウェアをダウンロードする

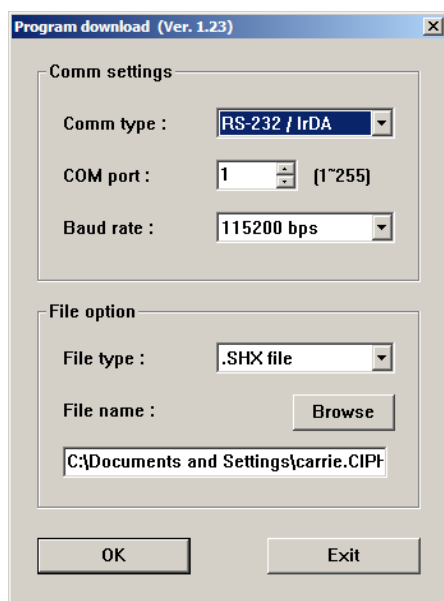


LoadBridge



- 6) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K3656Bridge_V*.shx	STD3656Bridge_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、「RS-232」とUSB Virtual COM インターフェース用の正しいCOMポートを選択します。
- ▶ ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)]をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK]をクリックします。

- 7) ファームウェアのアップグレードが正常に完了すると、3656は自動的に再起動します。  
 8) その操作を再開するには、「更新」ガーコードを読み取ります(設定モードを終了)。

更新



109999



## ホストシリアルコマンド

### 1564 シリアルコマンド

#### D

目的 スキャナーを無効にします。  
備考 “D”

#### E

目的 スキャナーを有効にします。  
備考 “E”

#### #@ nnnnnn <CR>

目的 スキャナーを設定します。  
備考 nnnnnn - 6桁のコマンドパラメータ。  
例えば、「109952」は現在の Code ID 設定を列挙します。



List Page 3

“0x23” + “0x40” + “0x31” + “0x30” + “0x39” + “0x39” + “0x55” + “0x52” + “0x0d”

シリアルコマンド

注記： スキャナーを設定した後、シリアルコマンド「#@109999」を送信して設定を保存できます。

#### #@ - - - <CR>

目的 スキャナーを停止します。  
備考 “0x23” + “0x40” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x0d”

#### #@ ... <CR>

目的 操作を再開します。  
備考 “0x23” + “0x40” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x0d”

#### #@//// <CR>

目的 ビープ音に応答します。  
備考 “0x23” + “0x40” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x0d”



**#@TRIGOFF<CR>**


---

目的	ソフトウェアトリガーを無効にする仕方
備考	“0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x46” + “0x46” + “0x0d”

**#@TRIGON<CR>**


---

目的	ソフトウェアトリガーを有効にする仕方
備考	“0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x4e” + “0x0d”

**#@RDSN<CR>**


---

目的	シリアル番号を読み取る
備考	“0x23” + “0x40” + “0x52” + “0x44” + “0x53” + “0x4E” + “0x0D”

**#@BEEP、 nn<CR>**


---

目的	指定した回数 (00~99) だけスキャナーのビーブ音を鳴らします (00 は作業を停止)。ビーブ時間の長さは Good Read ビーブ設定の継続時間に基づき、一定間隔は 100ms です。
備考	nn - 2桁のコマンドパラメータ 例えば、「#@BEEP, 09」は 9 回スキャナーのビーブ音を鳴らします。 “0x23” + “0x40” + “0x42” + “0x45” + “0x45” + “0x50” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”

**#@RLED, nn<CR>**


---

目的	指定した回数 (00~99) だけスキャナーの赤色 LED インジケータを点滅させます (00 は作業を停止)。点滅時間の長さは Good Read LED 持続時間設定に基づいており、2 回の点滅の一定間隔は 200ms です。
備考	nn - 2桁のコマンドパラメータ 例えば、「#@RLED, 09」は 9 回スキャナーを点滅させます。 “0x23” + “0x40” + “0x52” + “0x4c” + “0x45” + “0x44” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”

**#@GLED, nn<CR>**


---

目的	指定した回数 (00~99) だけスキャナーの緑色 LED インジケータを点滅させます (00 は作業を停止)。点滅時間の長さは Good Read LED 持続時間設定に基づいており、2 回の点滅の一定間隔は 200ms です。
備考	nn - 2桁のコマンドパラメータ 例えば、「#@GLED, 09」は 9 回スキャナーを点滅させます。 “0x23” + “0x40” + “0x47” + “0x4c” + “0x45” + “0x44” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”



## 例

ホストコンピュータで HyperTerminal.exe を実行し、RS-232、USB Virtual COM または BT SPP を介してスキャナーにシリアルコマンドを送信できます。

- ▶ スキャナーを直ちに停止する場合 -

D

- ▶ スキャナーを再開する場合 -

E

- ▶ スキャナーがビーパーの音量を「中」に変更して鳴らす場合 -

#@101011<CR>

#@////<CR>

- ▶ スキャナーがビーパーの音量を「小」に変更して鳴らす場合 -

#@101010<CR>

#@////<CR>

- ▶ スキャナーがビーパーの周波数を 8 kHz (Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 -

#@101001<CR>

#@////<CR>

- ▶ スキャナーがビーパーの長さを最長 (Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 -

#@101008<CR>

#@////<CR>

- ▶ スキャナーが設定を保存する場合、シリアルコマンド「#@109999」を送信します -

#@101011<CR>

#@109999<CR>

- ▶ スキャナーがシリアル番号を読み取って、ビープ音を鳴らす場合 -

#@RDSN<CR>

#@////<CR>

- ▶ スキャナーが 9 回ビープ音を鳴らす場合 -

#@BEEP,09<CR>

- ▶ スキャナーの LED インジケータが赤色に 9 回点滅する場合 -

#@RLED,09<CR>

- ▶ スキャナーの LED インジケータが緑色に 9 回点滅する場合 -

#@GLED,09<CR>

注記: (1) RS-232 または USB Virtual COM の場合、最初に 3656 に接続するスキャナーのみを設定できます。スキャナーを確認するには、シリアルコマンドを送信して返ってきたビープ音で確かめることができます。

(2) BT SPP の場合、最大 7 台のスキャナーを同時に設定できます。



## 3656 セットアップバーコードおよびシリアルコマンド

通常、接続したスキャナーに 3656 関連のセットアップバーコードを読み込ませることで 3656 を設定できます。

- 1) 3656 とお使いのコンピュータをインターフェースケーブル、RS-232、キーボードウェッジ、USB で接続します。
- 2) USB Virtual COM の場合、最初にそのドライバをインストールする必要があります。
- 3) 3656 から適切な AC コンセントに電源供給コードを接続します。  
まず、「接続の設定」ラベルを、続いて「シリアル番号」ラベルを読み取ります。どちらのラベルも 3656 の背面に貼付されています。
- 4) 3656 に接続するターゲットのスキャナーについては、[3.1.1 3656 に接続する](#)を参照してください。
- 5) 3656 を設定するには、次のバーコードを順番に読み取ります。

セットアップに入る



更新



3656 関連のセットアップバーコードの場合、以下のシリアルコマンドを参照してください。「Version」および「GetID」バーコードの場合、情報を受け取るには HyperTerminal.exe または任意のテキストエディタを実行する必要があります。

- ▶ 出力インターフェースが RS-232 または USB Virtual COM の場合、情報を受け取るにはコンピュータで HyperTerminal.exe を実行します。
- ▶ 出力インターフェースがキーボードウェッジまたは USB HID の場合、情報を受け取るにはテキストエディタを実行します。



## 3656 シリアルコマンドおよび同等のセットアップバーコード

**Config<CR>**

目的 3656 の設定以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



Config

備考 現在の設定のリストが表示されます。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行し、設定を一つずつ変更します。

**DefaultSetting<CR>**

目的 デフォルト設定の回復以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



DefaultSetting

**SingleConnection<CR>**

目的 1 台のみのスキャナーの 3656 への接続以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



SingleConnection

**MultiConnection<CR>**

目的 7 台のスキャナーを 3656 へ接続以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



MultiConnection

**UseOnePortforAll<CR>**

目的 USB を介して 3656 を PC に接続しているときはいつも、すべてに対して 1 つの Virtual COM ポートを使用します。この設定では、一度に 1 台の 3656 を接続する必要がありますが、同じ Virtual COM ポートを介して多くの 3656 を接続するときに容易にします。(管理者または工場での使用向け)。

以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



UseOnePortforAll



### UseVariablePort<CR>

---

目的 USB を介して複数の 3656 を PC に接続しているとき、可変の Virtual COM ポートを使用。  
以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



### Version<CR>

---

目的 ファームウェアバージョンの取得 (CPU+USB Bridge)。  
以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



### GetID<CR>

---

目的 MAC ID の取得。  
以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



### Download<CR>

---

目的 RS-232 または USB を介して CPU ファームウェアを 3656 にダウンロードする。  
以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。



### LoadBridge<CR>

---

目的 USB のみを介して USB Bridge ファームウェアを 3656 にダウンロードする。  
以下はこのシリアルコマンドのセットアップバーコードです。





## 例

3656 の設定用にスキャナーに上のセットアップバーコードを読み取らすことなく、ホストコンピュータで HyperTerminal. exe を実行し、RS-232 または USB を介してシリアルコマンドを 3656 に送信できます。

- 1) 3656 およびお使いのコンピュータをインターフェースケーブル、RS-232 または USB で接続します。

USB Virtual COM の場合、最初にそのドライバをインストールする必要があります。

- 2) 3656 に電源を接続します。

通信 LED が以下のように状態を示します。

- ▶ 出力インターフェースが USB Virtual COM または RS-232 の場合、コンピュータで HyperTerminal. exe を実行します。3656 の通信 LED が紫色(赤色と点滅する青色)の場合、3 秒以内にシリアルコマンドを入力します。
- ▶ 出力インターフェースが USB HID の場合、3656 の通信 LED が赤色と青色で点滅している間、3 秒以内に 5 回「数値ロック」または「キャプスロック」キーを押します。こうすることで、インターフェースは USB HID から USB Virtual COM に変わり、通信 LED は紫色(赤色と点滅する青色)に変わります。次に、コンピュータで HyperTerminal. exe を実行します。3656 の通信 LED が紫色(赤色と点滅する青色)の場合、3 秒以内にシリアルコマンドを入力します。シリアルコマンドを介して設定した後、電源供給コードを接続し直すと、インターフェースは USB HID にリセットされます。

通信 LED		意味
---	青色、点灯	初期化する
赤色、点灯	青色、点滅	USB Virtual COM または RS-232 とのシリアルコマンドモード: シリアルコマンドが開始するまで 3 秒間お待ちください
赤色、点滅	青色、点滅	最初に USB HID を USB Virtual COM に変えたシリアルコマンドモード: キーボードの[数値ロック]または[キャプスロック]を 5 回押して 3 秒間待ちます





## キーボードウェッジ表

以下の表は、デフォルトでスキャナーに適用されている特殊なキーボードウェッジコードを示すものです。このシリアルキーボードを迂回する決定をする場合、次のページの表を参照してください。

特殊なキーボードの「Apply(適用)」									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
<b>0</b>		F2	SP	0	@	P	`	p	⓪
<b>1</b>	INS	F3	!	1	A	Q	a	q	①
<b>2</b>	DLT	F4	”	2	B	R	b	r	②
<b>3</b>	Home	F5	#	3	C	S	c	s	③
<b>4</b>	End	F6	\$	4	D	T	d	t	④
<b>5</b>	Up	F7	%	5	E	U	e	u	⑤
<b>6</b>	Down	F8	&	6	F	V	f	v	⑥
<b>7</b>	Left	F9	'	7	G	W	g	w	⑦
<b>8</b>	BS	F10	(	8	H	X	h	x	⑧
<b>9</b>	HT	F11	)	9	I	Y	i	y	⑨
<b>A</b>	LF	F12	*	:	J	Z	j	z	
<b>B</b>	Right	ESC	+	;	K	[	k	{	
<b>C</b>	PgUp	Exec	,	<	L	¥	l		
<b>D</b>	CR	CR*	-	=	M	]	m	}	
<b>E</b>	PgDn		.	>	N	^	n	~	
<b>F</b>	F1		/	?	O	_	o	Dly	ENTER*

注記：(1) ①~⑨：テンキーボードの桁数。

(2) CR\*/ENTER\*：テンキーパッドの ENTER キー。



特殊なキーボードの「Bypass(迂回)」									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0			SP	0	@	P	`	p	
1			!	1	A	Q	a	q	
2			”	2	B	R	b	r	
3			#	3	C	S	c	s	
4			\$	4	D	T	d	t	
5			%	5	E	U	e	u	
6			&	6	F	V	f	v	
7			'	7	G	W	g	w	
8	BS		(	8	H	X	h	x	
9	HT		)	9	I	Y	i	y	
A	LF		*	:	J	Z	j	z	
B		ESC	+	;	K	[	k	{	
C			,	<	L	¥	l		
D	CR		-	=	M	]	m	}	
E			.	>	N	^	n	~	
F			/	?	O	_	o	Dly	



## キータイプ およびステータス

### キータイプ

「BT HID」、「USB HID」または「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが利用できるようになります。

\*通常



109926

スキャンコード



109936

### キーステータス

キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

Shift の追加



109930

左 Ctrl の追加



109931

右 Ctrl の追加



109933

左 Alt の追加



109932

右 Alt の追加



109934

更新



中止



## 例

### キータイプ = 通常

例えば、プリフィックスコードのように「!」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「2」と「1」については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### キータイプ = SCAN CODE(スキャンコード)

例えば、プリフィックスコードのように「a」 (= スキャンコード表の「1C」)の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Scan Code」バーコードを読み取ります。
3. 「1」と「C」については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### キータイプ = 通常 + キーステータス = SHIFT

例えば、プリフィックスコードのように「!» (= キーボードの「Shift」 + 「1」)の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Shiftの追加」バーコードを読み取ります。
3. 「3」と「1」については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### キータイプ = 通常 + キーステータス = CTRL

例えば、プリフィックスコードのように「Ctrl+A」と「Ctrl+\$」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「左Ctrlの追加」バーコードを読み取ります。
3. 「4」、「1」 (= 「A」)については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります for .
4. 「左Ctrlの追加」バーコードを読み取ります。
5. 「2」、「4」 (= 「\$」)については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
6. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



# 付表4

## N進法

### 10進法

#### 10進



#### 値の確認

確認



更新



中止



## 16進法

### 16進





値の確認

---



更新



中止



## ASCII 表

	0	1	2	3	4	5	6	7	
0		DLE	SP	0	@	P	`	p	
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q	
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r	
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s	
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t	
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u	
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v	
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w	
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x	
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y	
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z	
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{	
C	FF	FS	,	<	L	¥	l		
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}	
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~	
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL	



## 認証用に PIN コードを入力する

### プリセット PIN の使用

- 1) 設定モードで、認証用にプリセット PIN を使用するには以下のバーコードを読み取ります。

プリセット PIN の使用



- 2) PIN コードを指定するにはバーコードのいずれかを、10 進数または 16 進数で読み取ります。

デフォルトで、PIN コードは「0000」に設定されています。16 文字までが許可されます。

16 進数で PIN を入力  
...



10 進数で PIN を入力  
...



- 3) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取るか、目的の桁数または文字列の場合「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。

PIN コードを再入力する必要がある場合、最初に「PIN コードの消去」バーコードを読み取ります。

PIN コードの消去



- 4) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります

### 認証を無効にするまたはランダム PIN を使用する

設定モードで、認証を無効にするには以下のバーコードを読み取るか(= PIN なし)、認証用のランダム PIN を使用します。

更新



中止



\*PIN なしまたはラン  
ダム PIN の使用



注記: BT HID を使用しているとき、デバイスドライバが認証用の定義済み PIN コードをサポートしないことがあります。この場合、ペアリング前にスキャナーを「PIN なしまたはランダム PIN の使用」に設定していることを確認してください。ペアリング中、ホスト PIN コードはコンピュータ画面に表示されます。

### ランダム PIN の使用

ターゲットのデバイスが認証にランダム PIN を使用するように設定されているとき、ペアリング中にランダム PIN がターゲットのデバイスに表示されるまで待ち、それからスキャナーで一致する PIN を入力します。

注記: 以下のステップに従って、スキャナーで一致する PIN を入力します。設定モードに入る必要はありません。

1. PIN コードを指定するにはバーコードのいずれかを、10 進数または 16 進数で読み取ります。

16 進数で PIN を入力  
...



10 進数で PIN を入力  
...



2. 「[10 進値](#)」バーコードを読み取るか、目的の桁数または文字列の場合「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。

PIN を再入力する必要がある場合、最初に「PIN コードの消去」バーコードを読み取ります。

PIN コードの消去



3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### ランダム PIN リクエストの拒否

ペアリング中にターゲットのデバイスにランダム PIN が表示されるとき、スキャナーに「確認」バーコードを読み取らせることで PIN リクエストを拒否することができます。

